学術集会プログラム

学会賞受賞講演

Ⓛ Ⓞ

11月2日（水） 14：05～14：20 第1会場 （1F G2）

座長 長谷川 奉延（慶應義塾大学医学部小児科学教室）

夢を持ち続けること

堀川 玲子

国立成育医療研究センター内分泌代謝科

招請講演

Ⓛ Ⓞ

11月3日（木・祝） 13：25～14：05 第1会場 （1F G2）

座長 石井 智弘（慶應義塾大学医学部小児科）

やばいぜ！セイキの大発見

上村 佳孝

慶應義塾大学生物学教室

特別講演1 男女共同参画・ワークライフバランス委員会 共同開催 ※日本内分泌学会指定講演

Ⓛ Ⓞ

11月2日（水） 10：45～11：25 第1会場 （1F G2）

座長 藤澤 泰子（浜松医科大学小児科）

PL1 多様性を受け入れる社会に向けて：ジェンダードリサーチのススメ

大隅 典子

東北大学大学院医学系研究科

特別講演2 ※日本内分泌学会指定講演

Ⓛ Ⓞ

11月2日（水） 11：30～12：10 第1会場 （1F G2）

座長 大薗 恵一（大阪大学大学院医学系研究科小児科学）

PL2 バソプレシンの研究から日本内分泌学会としての取り組みまで～内分泌学のさらなる発展を目指して～

有馬 寛

名古屋大学大学院医学系研究科糖尿病・内分泌内科学

海外招請講演

Ⓛ Ⓞ

11月2日（水） 17：05～17：45 第1会場 （1F G2）

座長 長谷川 奉延（慶應義塾大学医学部小児科学教室）

Molecular causes of primary adrenal insufficiency

John C. Achermann

UCL GOS Institute of Child Health, University College London, London, United Kingdom

KSPE-JSPE 交換講演

Ⓛ⓪

11 月 2 日（水） 10：00 ～ 10：40 第 1 会場 （1F G2）

座長 堀川 玲子（国立成育医療研究センター内分泌代謝科）

2022 Clinical Practice Guidelines for Central Precocious Puberty in Korea

Ji Eun Lee

Department of Pediatrics, division of Pediatric Endocrinology & metabolism,
Inha University Hospital, Inha university medical school

オープニングレクチャー

Ⓛ⓪

11 月 1 日（火） 10：00 ～ 10：40 第 1 会場 （1F G2）

座長 田島 敏広（自治医科大学とちぎ子ども医療センター小児科）

小児内分泌科医が学ぶ子どもの性別違和の心理

佐々木 掌子

明治大学文学部心理社会学科臨床心理学専攻／慶應義塾大学病院性分化疾患（DSD）センター

第 55 回日本小児内分泌学会学術集会特別企画シンポジウム もっと×3 Pediatric Endocrinology Always in Our Mind

Ⓛ⓪

11 月 3 日（木・祝） 14：10 ～ 15：25 第 1 会場 （1F G2）

座長 大薗 恵一（大阪大学大学院医学系研究科小児科学）
堀川 玲子（国立成育医療研究センター内分泌代謝科）

SSY-1 もっと臨床内分泌力を上げよう

室谷 浩二

神奈川県立こども医療センター内分泌代謝科

SSY-2 もっと研究しよう・論文も書こう

緒方 勤

浜松医科大学

SSY-3 もっと社会にも目をむけよう

横谷 進

福島県立医科大学甲状腺・内分泌センター

シンポジウム 1 小児バセドウ病：ゆりかごから AYA 世代まで

Ⓛ⓪

11 月 1 日（火） 15：40 ～ 16：55 第 1 会場 （1F G2）

座長 橘 真紀子（大阪大学医学部附属病院小児科）
南谷 幹史（帝京大学ちば総合医療センター小児科）

SY1-1 胎児・新生児バセドウ病を極める

長崎 啓祐

新潟大学医歯学総合病院小児科

SY1-2 なかなか寛解に入らないバセドウ病

宮田 市郎、木村 妙

東京慈恵会医科大学小児科学講座

SY1-3 思春期から始めたいバセドウ病のプレコンセプションケア

阿部 清美

東京都済生会中央病院小児科

シンポジウム２　最初の 1000 日：受胎した時から肥満を考える

Ⓛ⓪

11 月 1 日（火）　15：40 ～ 16：55　第 2 会場　（3F G301+302）

座長　井ノ口　美香子（慶應義塾大学保健管理センター）
　　森　潤（大阪市立総合医療センター）

SY2-1　妊娠中および産後の生活介入は肥満妊産婦とその子の予後を変えるか？

川崎　麻紀[1]、三戸　麻子[1]、和栗　雅子[3]、佐藤　雄一[4]、阿部　美恵子[5]、佐々木　由樹[6]、杉山　隆[7]、大田　えりか[8]、中澤　仁[9]、瀧本　秀美[10]、井上　永介[11]、平松　祐司[12]、荒田　尚子[1]

[1] 国立成育医療研究センター周産期・母性診療センター母性内科、
[2] 国立成育医療研究センター政策科学研究部、[3] 大阪母子医療センター母性内科、
[4] 産科婦人科舘出張佐藤病院、[5] 愛媛県立中央病院産婦人科、
[6] 株式会社リンクアンドコミュニケーション、
[7] 国立大学法人愛媛大学大学院医学系研究科病因・病態領域産科婦人科学講座、
[8] 聖路加国際大学大学院看護学研究科、[9] 慶應義塾大学環境情報学部、
[10] 国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所 国立健康・栄養研究所栄養疫学研究部、
[11] 昭和大学統括研究推進センター、[12] 岡山市立市民病院

SY2-2　Fetal Origins of Obesity：超音波を用いた新たな胎児発育評価

池ノ上　学
　慶應義塾大学医学部産婦人科

SY2-3　Adiposity rebound が早いと肥満のリスクが高くなる？

小山　さとみ
　獨協医科大学小児科学

シンポジウム３　小児内分泌科医が知っておきたい生殖医療の cutting-edge

Ⓛ⓪

11 月 1 日（火）　15：40 ～ 16：55　第 3 会場　（3F G303）

座長　堀　友博（岐阜大学大学院医学系研究科小児科学）
　　三善　陽子（大阪樟蔭女子大学健康栄養学部健康栄養学科臨床栄養発育学研究室）

SY3-1　小児・AYA 世代がん患者に対するがん・生殖医療の現状と課題

鈴木　直
　聖マリアンナ医科大学産婦人科学

SY3-2　クラインフェルター症候群に対する Micro-TESE

吉田　淳
　木場公園クリニック

SY3-3　子宮性不妊女性に対する子宮移植　～現状と課題、そして将来の展望～

木須　伊織
　慶應義塾大学医学部産婦人科学教室

シンポジウム４　最近出た / これから出るガイドラインのミニマム・エッセンシャルズ

Ⓛ⓪

11 月 2 日（水）　15：40 ～ 16：55　第 1 会場　（1F G2）

座長　伊藤　善也（日本赤十字北海道看護大学臨床医学領域）
　　皆川　真規（千葉県こども病院内分泌科）

SY4-1　プラダー・ウィリ症候群

川井　正信
　大阪母子医療センター研究所骨発育疾患研究部門 / 消化器・内分泌科

SY4-2　男性の性腺機能低下症ガイドライン 2022

石井　智弘
　慶應義塾大学医学部小児科

SY4-3　骨形成不全症の診療ガイドライン - パブリック・コメントに向けて -
難波　範行
鳥取大学医学部周産期・小児医学分野

シンポジウム５　患者に還元する１型糖尿病のマネージメント

Ⓛ⓪

11 月 2 日（水）　15：40 ～ 16：55　第 2 会場　（3F G301+302）
座長　菊池　透（埼玉医科大学小児科）
山本　幸代（産業医科大学医学部医学教育担当教員 / 小児科）

SY5-1　今すぐ始めるカーボカウンティング
布川　香織
鎌倉療育医療センター小さき花の園小児科

SY5-2　どんどん進化するインスリンポンプ
高谷　具純
千葉大学医学部附属病院小児科

SY5-3　チェンジトークを喚起する「動機づけ面接」のすすめ
川村　智行[1,2]、柚山　賀彦[1]、西川　直子[1]、橋本　友美[2,3]、広瀬　正和[4]、堀田　優子[5]、橋村　夏野子[6]、東出　崇[3]
[1] 大阪公立大学大学院発達小児医学、[2] あべのメディカルクリニック、[3] はぐはぐキッズクリニック、[4] D Medical Clinic Osaka、[5] 市立柏原市民病院小児科、[6] 橋村医院

シンポジウム６　遺伝子診断委員会共同企画　遺伝子解析を実際に行っている小児内分泌科医から学ぶ遺伝子検査結果の正しい解釈

Ⓛ⓪

11 月 2 日（水）　15：40 ～ 16：55　第 3 会場　（3F G303）
座長　深見　真紀（国立成育医療センター研究所分子内分泌研究部）
道上　敏美（大阪母子医療センター研究所）

SY6-1　遺伝子 variant の表記法
臼井　健
静岡社会健康医学大学院大学

SY6-2　ACMG/AMP の 5-tier system の概略と実例
依藤　亨
伊達赤十字病院第二内科部

SY6-3　アノテーションのための WEB ツールの紹介
伊達木　澄人
長崎大学大学院医歯薬学総合研究科小児科学

シンポジウム７　小児内分泌学を学び、そして教える

Ⓛ⓪

11 月 3 日（木・祝）　8：40 ～ 9：55　第 1 会場　（1F G2）
座長　髙橋　郁子（秋田大学大学院医学系研究科小児科学講座）
室谷　浩二（神奈川県立こども医療センター内分泌代謝科）

SY7-1　メンティーとして学ぶ　楽しいときとつらいとき
池側　研人[1]、長谷川　行洋[1,2]
[1] 東京都立小児総合医療センター内分泌・代謝科、[2] 多摩北部医療センター小児科

SY7-2　メンティーとして学ぶこともメンターとして教えることも　中堅の悩み
糸永　知代
大分大学医学部小児科

SY7-3　メンターとして教える 人を残すは上
水野　晴夫
藤田医科大学医学部小児科学

シンポジウム８　QQ 外来でみつかる小児内分泌代謝疾患：ファーストタッチを間違えない

Ⓛ⓪

11 月 3 日（木・祝）　8：40 ～ 9：55　第 2 会場　（3F G301+302）
座長　伊藤　純子（虎の門病院小児科）
平井　洋生（愛媛大学医学部地域医療再生学・小児科学）

SY8-1　血糖・血ガス・アンモニア：意識障害やけいれん重積からみつかる先天性代謝異常
中村　公俊
熊本大学大学院生命科学研究部小児科学講座

SY8-2　おっと低血糖：クリティカルサンプリングで何を調べるか？
依藤　亨
伊達赤十字病院第二内科部

SY8-3　DKA が来た！ あわてずに、そして確実に
望月　美恵
国立病院機構甲府病院小児科

シンポジウム９　小児内分泌学アラカルト　from all corners of JSPE

Ⓛ⓪

11 月 3 日（木・祝）　8：40 ～ 9：55　第 3 会場　（3F G303）
座長　井原　健二（大分大学医学部小児科学講座・遺伝子診療室）
細川　悠紀（倉敷中央病院小児科）

SY9-1　新生児糖尿病の理解を深める
鈴木　滋
旭川医科大学小児科

SY9-2　これだけは知らないと損する小児期発症の内分泌腫瘍
佐藤　武志
慶應義塾大学医学部小児科

SY9-3　日常診療で LDL-C, HDL-C, TG をどう評価するか？
土橋　一重
塩山市民病院小児科

男女共同参画・ワークライフバランス委員会企画シンポジウム 「働き方改革　その前に―私達はどう働きたいのか？」

Ⓛ⓪

11 月 1 日（火）　15：40 ～ 16：55　第 4 会場　（3F G304）
座長　難波　範行（鳥取大学医学部周産期・小児医学）
藤澤　泰子（浜松医科大学小児科）

企画アンケート結果報告
藤澤　泰子
浜松医科大学小児科

GW-1　シングルキャリアから高齢出産・育児を経て感じること～「働く」のあり方このままでいいですか～
鞁嶋　有紀
島根大学医学部小児科学教室

GW-2　大学勤務医と開業医とのキメラな生き方～ミドルキャリアを使命と人生にどう活かす？～
曽根田　瞬
たなか成長クリニック／聖マリアンナ医科大学小児科

ブレインストーミングしよう！聴講者参加型 Zoom リアルタイム投票

アンドロゲン不応症と性分化疾患のサポートグループ企画セッション AIS-DSD サポートグループからの生の声：私たちの思い

Ⓛ

11 月 3 日（木・祝） 10：05 ～ 11：05 第 4 会場 （3F G304）

モデレーター：井垣　純子（沖縄県立南部医療センター・こども医療センター小児内分泌代謝科）
ヨ　ヘイル（日本性分化疾患患者家族会連絡会）

DSD-1 ヨシカ（アンドロゲン不応症と性分化疾患のサポートグループ）
DSD-2 ナナ（アンドロゲン不応症と性分化疾患のサポートグループ）
DSD-3 メイ（アンドロゲン不応症と性分化疾患のサポートグループ）

スタートアップ教育セミナー 1

Ⓛ

11 月 1 日（火） 9：00 ～ 9：45 第 2 会場 （3F G301+302）

共催：ロシュ・ダイアグノスティックス株式会社

座長　山本　幸代（産業医科大学医学部医学教育担当教員 / 小児科）

SS1 **アクセプトされる英文論文を執筆するには**
ブルーヘルマンス　ラウール
関西医科大学英語教室

スタートアップ教育セミナー 2

Ⓛ

11 月 1 日（火） 9：00 ～ 9：45 第 3 会場 （3F G303）

共催：サンド株式会社

座長　会津　克哉（埼玉県立小児医療センター代謝内分泌科）

SS2 **宿主免疫の異常による様々な病態　～内分泌障害から COVID-19 重症化まで～**
岡田　賢
広島大学大学院医系科学研究科小児科学

スタートアップ教育セミナー 3

Ⓛ

11 月 1 日（火） 9：00 ～ 9：45 第 4 会場 （3F G304）

共催：ファイザー株式会社

座長　石井　加奈子（九州大学大学院医学研究院成長発達医学分野（小児科））

SS3 **疾患に直面した患者・家族の気持ちを理解しながら話し合うために～遺伝カウンセリングの知見からのヒント**
田村　智英子
FMC 東京クリニック医療情報・遺伝カウンセリング部

ランチョン教育セミナー 1

Ⓛ

11 月 1 日（火） 12：00 ～ 12：50 第 1 会場 （1F G2）

共催：JCR ファーマ株式会社

座長　大津　義晃（群馬大学大学院医学系研究科小児科学分野）

LS1 **電動デバイスとスマートフォンアプリを使っていざ！成長ホルモン治療**
宇都宮　朱里
広島大学大学院医系科学研究科遺伝医学

ランチョン教育セミナー２

Ⓛ

11 月 1 日（火） 12：00 ～ 12：50 第 2 会場 （3F G301+302）

共催：Ascendis Pharma, Inc.

座長 長谷川 奉延（慶應義塾大学医学部小児科学教室）

LS2 IGFs and Growth Hormone Insensitivity: A Personal Voyage

Ron Rosenfeld

Professor and Chair of Pediatrics (emeritus), Oregon Health & Science University;
Professor of Pediatrics (emeritus), Stanford University

ランチョン教育セミナー３ ONE チームで臨む HPP 診療～各専門 Dr の評価を最大限活かして患者の状態を見極める～

ⓁⓄ

11 月 1 日（火） 12：00 ～ 12：50 第 3 会場 （3F G303）

共催：アレクシオンファーマ合同会社

座長 大薗 恵一（大阪大学大学院医学系研究科小児科学）

LS3-1 低ホスファターゼ症患者のモニタリングと多職種連携―小児内分泌科医が果たす clinical care coordinator としての役割―

窪田 拓生

大阪大学大学院医学系研究科小児科学

LS3-2 遺伝性疾患を有する小児期患者の運動機能評価と理学療法士との連携の意義

西澤 公美

信州大学医学部保健学科

ランチョン教育セミナー４

Ⓛ

11 月 1 日（火） 12：00 ～ 12：50 第 4 会場 （3F G304）

共催：アボットジャパン合同会社

座長 杉原 茂孝（和洋女子大学大学院総合生活研究科）

LS4 1 型糖尿病医療の進歩とスティグマ

南 昌江

医療法人南昌江内科クリニック

ランチョン教育セミナー５ ＃軟骨無形成症 ＃病態 ＃基礎と臨床

ⓁⓄ

11 月 2 日（水） 12：20 ～ 13：10 第 1 会場 （1F G2）

共催：BioMarin Pharmaceutical Japan 株式会社

座長 藤原 幾磨（仙台市立病院小児科）

LS5-1 軟骨無形成症の包括的診療－当科のデータから見る診療科連携－

窪田 拓生

大阪大学大学院医学系研究科小児科学

LS5-2 CNP の骨伸長促進作用のメカニズムと軟骨無形成症への臨床応用

八十田 明宏

独立行政法人国立病院機構京都医療センター臨床研究センター

ランチョン教育セミナー６

Ⓛ

11月2日（水） 12：20～13：10 第2会場 （3F G301+302）

共催：日本イーライリリー株式会社

座長 田久保 憲行（順天堂大学医学部小児科学講座）

LS6 **Break the silence ～重症低血糖に対するグルカゴン点鼻粉末剤～**

阿比留 教生

医療法人緑風会みどりクリニック

ランチョン教育セミナー７ 学べば世界が動き出す ～RASopathyから成長ホルモン治療まで～

ⓁⓄ

11月2日（水） 12：20～13：10 第3会場 （3F G303）

共催：ノボ ノルディスク ファーマ株式会社

座長 深見 真紀（国立成育医療研究センター分子内分泌研究部）

LS7-1 **広がりゆくRASopathiesの疾患概念**

青木 洋子

東北大学大学院医学系研究科遺伝医療学分野

LS7-2 **ヌーナン症候群の成長とホルモン治療を学ぶ**

森 潤

大阪市立総合医療センター小児代謝・内分泌内科

ランチョン教育セミナー８

Ⓛ

11月2日（水） 12：20～13：10 第4会場 （3F G304）

共催：ファイザー株式会社

座長 緒方 勤（浜松医療センター／浜松医科大学）

LS8 **iPS細胞を用いた革新的下垂体疾患モデルの樹立**
ー成長ホルモンの最近のトピックスを含めてー

高橋 裕

奈良県立医科大学糖尿病・内分泌内科学講座

ランチョン教育セミナー９

Ⓛ

11月3日（木・祝）12：25～13：15 第1会場 （1F G2）

共催：テルモ株式会社

座長 神野 和彦（県立広島病院小児科）

LS9 **「リアルタイムCGMやってみた、思ってたよりいい」「それな」**

浦上 達彦

浦上小児内分泌・糖尿病クリニック

ランチョン教育セミナー10

Ⓛ

11月3日（木・祝）12：25～13：15 第2会場 （3F G301+302）

共催：ファイザー株式会社

座長 長谷川 行洋（東京都立小児総合医療センター内分泌・代謝科）

LS10 **成長ホルモン治療の新たな展開：長時間作用型成長ホルモンの開発と臨床応用**

堀川 玲子

国立成育医療研究センター内分泌代謝科

ランチョン教育セミナー 11

Ⓛ

11 月 3 日（木・祝）12：25 ～ 13：15　第 3 会場　（3F G303）

共催：サンド株式会社

座長　田中　敏章（たなか成長クリニック）

LS11　インスリン様活性の修飾機構と生理的意義：なぜ、IGF は細胞の運命を決定するような長期活性が強いのか？

高橋　伸一郎

東京大学大学院農学生命科学研究科

ランチョン教育セミナー 12　深掘　FGF23 関連低リン血症性くる病・骨軟化症

Ⓛ

11 月 3 日（木・祝）12：25 ～ 13：15　第 4 会場　（3F G304）

共催：協和キリン株式会社

座長　田島　敏広（自治医科大学とちぎ子ども医療センター小児科）

田中　弘之（社会福祉法人恩賜財団済生会支部岡山済生会総合病院小児科）

LS12-1　FGF23 関連低リン血症性くる病・骨軟化症治療における患者さんに寄り添った私たちの取り組み

尾﨑　佳代

兵庫県立こども病院代謝内分泌科

LS12-2　患者さんの将来を見据えた FGF23 関連低リン血症性くる病・骨軟化症診療

今西　康雄

大阪公立大学大学院医学研究科代謝内分泌病態内科学

イブニング教育セミナー　いまこそ移行期医療は紹介状 1 通の "転科" ではないことを確認したいです。そのうえで小児科と成人診療科の立場から移行期医療のきほんと実際を学びます。

Ⓛ Ⓞ

11 月 1 日（火）　18：30 ～ 19：30　第 1 会場　（1F G2）

共催：ノボ ノルディスク ファーマ株式会社

座長　川井　正信（大阪母子医療センター研究所骨発育疾患研究部門／消化器・内分泌科）

ES-1　内分泌代謝疾患における移行期医療（1）：小児診療科側の視点と症例提示

長谷川　行洋[1,2]

[1] 東京都立小児総合医療センター、[2] 多摩北部医療センター小児科

ES-2　内分泌代謝疾患における移行期医療（2）：成人診療科側の視点と症例提示

辻野　元祥

東京都立多摩総合医療センター内分泌代謝内科

モーニング教育セミナー 1

Ⓛ

11 月 2 日（水）　7：40 ～ 8：30　第 1 会場　（1F G2）

共催：JCR ファーマ株式会社

座長　濱島　崇（あいち小児保健医療総合センター内分泌代謝科）

MS1　ファクトベースで成長ホルモン治療を考える～ Patient choice とアドヒアランス

高澤　啓

東京医科歯科大学発生発達病態学分野 / 小児科

モーニング教育セミナー２　シン・新生児の骨・カルシウム・ビタミンD

Ⓛ

11月2日（水）　7：40～8：30　第2会場　（3F G301+302）

共催：日本電子株式会社

座長　皆川　真規（千葉県こども病院内分泌科）

MS2-1　LC-MS/MSによるビタミンD測定　まじすごい

中川　央充

慶應義塾大学病院臨床検査科

MS2-2　実は面白い新生児の骨代謝

磯島　豪

虎の門病院小児科

モーニング教育セミナー３

Ⓛ

11月2日（水）　7：40～8：30　第3会場　（3F G303）

共催：株式会社LSIメディエンス

座長　乾　あやの（済生会横浜市東部病院小児肝臓消化器科）

MS3　小児非アルコール性脂肪性肝疾患(NAFLD)診療の最前線：小児内分泌科医と消化器医による共闘の時代へ

吉年　俊文

トロント小児病院

モーニング教育セミナー４

Ⓛ

11月2日（水）　7：40～8：30　第4会場　（3F G304）

共催：ノーベルファーマ株式会社 / 株式会社メディパルホールディングス

座長　恵谷　ゆり（大阪母子医療センター消化器・内分泌科）

MS4　ともに学ぶ 成長障害：一般病院小児科における成長障害診療からみえること

滝島　茂（草加市立病院小児科）

モーニング教育セミナー５　軟骨無形成症治療のゲームチェンジャー

ⓁⓄ

11月3日（木・祝）7：40～8：30　第1会場　（1F G2）

共催：BioMarin Pharmaceutical Japan株式会社

座長　望月　弘（埼玉県立小児医療センター代謝内分泌科／欣彰会大宮ナーシング・ピア）

MS5-1　軟骨無形成症の病態・臨床症状・管理と新規治療へのアプローチ

菅野　潤子

東北大学大学院医学系研究科発生・発達医学講座小児病態学分野

MS5-2　軟骨無形成症の新規治療～ボソリチド臨床試験データ～

北岡　太一

大阪大学大学院医学系研究科小児科学

モーニング教育セミナー６

ⓁⓄ

11月3日（木・祝）7：40～8：30　第2会場　（3F G301+302）

共催：DENISファーマ株式会社

座長　石井　智弘（慶應義塾大学医学部小児科）

MS6　21水酸化酵素欠損症の診断およびフォローアップ：17α-OHPをどう使うか？

鹿島田　健一

東京医科歯科大学発生発達病態学

モーニング教育セミナー７　造血幹細胞移植関連部分性脂肪萎縮症　ー新規疾患概念の確立を目指してー

Ⓛ⓪

11 月 3 日（木・祝）7：40 ～ 8：30　第 3 会場　（3F G303）

共催：株式会社コスミックコーポレーション

座長　岡田　賢（広島大学大学院医系科学研究科小児科学）

MS7-1　From Rare Disease To Common Disease - 脂肪萎縮症から考える肥満症とレプチンの臨床応用 -

日下部　徹

国立病院機構京都医療センター臨床研究センター内分泌代謝高血圧研究部

MS7-2　HSCT 関連部分性脂肪萎縮症 : JSPE ではじめの一歩

安達　昌功

昭和大学医学部小児科

インタラクティブプレミアムセミナー　回って回って学んで学んで　下垂体 MRI・CCS・医療経済

11 月 3 日（木・祝）13：25 ～ 14：55　（3F G316・317・318）

共催：サンド株式会社

総合座長　松井　克之（滋賀県立小児保健医療センター内分泌代謝糖尿病科）

IPS-1　下垂体と代謝疾患の MRI 診断

相田　典子[1,2]

[1] 神奈川県立こども医療センター放射線科、[2] 横浜市立大学放射線診断科

IPS-2　匠に学ぼう！小児がん患者フォローアップの実際

石黒　寛之

しのはら小児クリニック

IPS-3　心穏やかに長く治療するー経済的視点からー

石井　伊都子

千葉大学医学部附属病院薬剤部

ハンズオンセミナー

11 月 3 日（木・祝）13：25 ～ 14：15　（3F G319）

共催：ノボ ノルディスク ファーマ株式会社

さとまりから学ぶ　骨年齢読影秘伝のタレ

佐藤　真理

東邦大学医療センター大森病院小児科

最優秀演題賞・若手優秀演題賞候補口演 1

Ⓛ⓪

11 月 1 日（火）13：00 ～ 14：15　第 1 会場　（1F G2）

座長　長崎　啓祐（新潟大学医歯学総合病院小児科）

道上　敏美（大阪母子医療センター研究所）

SP1-1　LC-MS/MS による新生児マススクリーニング時および mini-puberty 期の性ホルモン基準値の検討

今野　麻里絵[1,2]、大川　聖子[3]、中村　由恵[3]、赤星　祥伍[1,4]、池側　研人[1,4]、森川　和彦[4]、本多　泉[5]、谷口　義実[5]、岡崎　薫[6]、長谷川　行洋[1,7]

[1] 東京都立小児総合医療センター内分泌・代謝科、[2] 慶應義塾大学医学部小児科、
[3] 立川相互病院小児科、[4] 東京都立小児総合医療センター臨床試験科、
[5] 東京都立多摩総合医療センター産婦人科、[6] 東京都立小児総合医療センター新生児科、
[7] 多摩北部医療センター小児科

SP1-2　思春期時期の推移：大規模データを用いた検討

樋口　洋介、藤原　進太郎、江渕　有紀、古城　真秀子、久保　俊英
独立行政法人国立病院機構岡山医療センター小児科

SP1-3　マウスを用いた経時的 enhancer RNA 解析による卵巣支持細胞 enhancer 候補領域の同定

中川　竜一[1]、高澤　啓[1]、我有　茉希[1]、辻　敦美[2]、川路　英哉[3,4]、村川　泰裕[3]、
高田　修治[2]、三上　剛史[5]、鳴海　覚志[6]、深見　真紀[6]、丸山　哲夫[7]、林崎　良英[8]、
森尾　友宏[1]、鹿島田　健一[1]
[1] 東京医科歯科大学大学院発生発達病態学分野、
[2] 国立成育医療研究センターシステム発生・再生医学研究部、
[3] 理化学研究所生命医科学研究センター、[4] 東京都医学総合研究所ゲノム医学研究センター、
[5] 国立成育医療研究センターデータサイエンス部門生物統計ユニット、
[6] 国立成育医療研究センター分子内分泌研究部、[7] 慶應義塾大学医学部産婦人科学、
[8] 理化学研究所予防医学・診断技術開発プログラム

SP1-4　子宮内低栄養はマウスの胎児期のテストステロン産生と出生後の精子数を減少させる

藤澤　泰子[1]、小野　裕之[1]、紺野　在[2]、矢尾　育子[3]、伊東　宏明[4]、馬場　崇[5]、
諸橋　憲一郎[5]、福井　由宇子[6]、宮戸　真美[6]、深見　真紀[6]、緒方　勤[1,7]
[1] 浜松医科大学小児科、[2] 浜松医科大学光尖端医学教育研究センター、
[3] 浜松医科大学光イメージング研究室、[4] 浜松医科大学産婦人科、
[5] 九州大学大学院医学研究院分子生命科学系部門、[6] 成育医療センター分子内分泌研究部、
[7] 浜松医療センター小児科

SP1-5　時期特異的変異型 *SAMD9* ノックインマウスの病態に細胞周期関連分子の発現低下が関与する
Ⓛのみ

柴田　浩憲[1,2]、石井　智弘[2]、鳴海　覚志[3]、高田　修治[4]、氏家　直毅[5]、村上　智亮[5]、
長谷川　奉延[2]
[1] 川崎市立川崎病院小児科、[2] 慶應義塾大学医学部小児科学教室、
[3] 国立成育医療研究センター研究所分子内分泌研究部、
[4] 国立成育医療研究センター研究所システム発生・再生医学研究部、
[5] 東京農工大学獣医毒性学研究室

最優秀演題賞・若手優秀演題賞候補口演 2

Ⓛ⓪

11 月 1 日（火）14：15 ～ 15：30　第 1 会場　（1F G2）

座長　鹿島田　健一（東京医科歯科大学発生発達病態学（小児科））
　　深見　真紀（国立成育医療センター研究所分子内分泌研究部）

SP2-1　腸管生物時計の破綻は、グルコース吸収の低下と飢餓耐性の減弱をもたらす

大沼　真輔[1,2]、木下　さおり[1]、大薗　恵一[2]、道上　敏美[1]、川井　正信[1]
[1] 大阪母子医療センター研究所骨発育疾患研究部門、[2] 大阪大学大学院医学系研究科小児科学

SP2-2　成長に伴うリン代謝変化の細胞分子機序

道上　敏美[1]、立川　加奈子[1]、山崎　美和[1]、中西　達郎[1,2]、川井　正信[1]、大薗　恵一[2]
[1] 地方独立行政法人大阪府立病院機構大阪母子医療センター研究所骨発育疾患研究部門、
[2] 大阪大学大学院医学系研究科小児科学

SP2-3　低ホスファターゼ症の新規治療（遺伝子治療薬 :ARU-2801）の開発

松本　多絵[1,2]、三宅　紀子[3]、趙　東威[2]、Shadid Mohammad[4]、Gaukel Eric[5]、成沢　園子[6]、
Millan Jose[6]、三宅　弘一[2]
[1] 日本医科大学小児科学教室、[2] 日本医科大学遺伝子治療学、
[3] 日本医科大学生化学・分子生物学（分子遺伝学）、[4] アルバントサイエンシズ、
[5] ロイバントサイエンシズ、
[6] サンフォード・バーナム・プレビーズ・メディカル・ディスカバリー・インスティテュート

SP2-4　自己免疫性本態性高ナトリウム血症・ROHHAD 症候群における新規抗原同定

宇都宮　朱里[1]、山口　圭[4]、内海　孝法[2]、坂田　園子[2]、壺井　史奈[5]、香川　礼子[2]、五島　直樹[4]、岡田　賢[2]

[1]広島大学大学院医系科学研究科遺伝医学、[2]広島大学大学院医系科学研究科小児科学、
[3]国立成育医療研究センター研究所マススクリーニング研究室、
[4]国立研究開発法人産業技術総合研究所 , 創薬分子プロファイリング研究センター、
[5]県立広島病院小児科

SP2-5　オプティカルゲノムマッピングによりゲノム構造を決定した均衡型相互転座の一例

荻原　康子[1,2,3]、服部　淳[1]、宮戸　真美[1]、池側　研人[3]、黒木　陽子[4]、長谷川　行洋[3]、深見　真紀[1]

[1]国立成育医療研究センター研究所分子内分泌研究部、
[2]東北大学大学院医学系研究科次世代小児医療講座、
[3]東京都立小児総合医療センター内分泌・代謝科、
[4]国立成育医療研究センター研究所ゲノム医療研究部

English Oral Session 1　diabetes and others

Ⓛ⓪

11 月 2 日（水）8：40 ～ 9：50　第 4 会場　（3F G304）

座長　浦上　達彦（浦上小児内分泌・糖尿病クリニック）
　　本田　美紗（慶應義塾大学）

EO1-1　Two siblings with LRBA deficiency presenting fulminant Type 1 diabetes mellitus in infancy

Dai Suzuki[1], Eriko Totsune[1], Tomohiro Nakano[1], Akinobu Miura[1,2], Hirohito Shima[1], Sayaka Kawashima[1], Ikumi Umeki[1,3], Youji Sasahara[1], Junko Kanno[1]

[1]Dept. of Pediatr., Tohoku Univ. Sch. of Med., [2]Dept. of Pediatr., Sendai City Hosp.,
[3]Dept. of Pediatr., Iwate Pref. Central Hosp.

EO1-2　A case with a heterozygous protein-truncating *RFX6* variant diagnosed in the early stage of diabetes

Kazuhisa Akiba[1,2,3], Hiroaki Zukeran[1,3], Yukihiro Hasegawa[1,4]

[1]Div. of Endorinol. Metab., TMCMC., [2]Dept. of Mol. Endocrinol., NCCHD.,
[3]Dept. of Pediatr., Keio Univ. Sch. of Med., [4]Dept. of Pediatr., Tama-Hokubu Med. Cent.

EO1-3　Efficacy and Safety of Dapagliflozin in Young Adults with Type 1 Diabetes Mellitus

Misa Honda[1,2], Noboru Uchida[3], Tomohiro Ishii[1], Tomonobu Hasegawa[1], Goro Sasaki[2]

[1]Dept. of Pediatr., Keio Univ. Sch. of Med.,
[2]Tokyo Dental College Ishikawa General Hosp., [3]Saiseikai Utsunomiya Hosp.

EO1-4　Experiences of Caregivers of Children and Young Adults with Type 1 Diabetes Related to Severe Hypoglycemia and Being Prepared with Nasal Glucagon − A Qualitative Study

Ⓛのみ

Allyson Hughes[1], Emily Hankosky[2], Jiat Ling Poon[2], Katherine Chapman[1], Mark R Vanderwel[3], Jeoffrey Bispham[1], Wendy Wolf[1], Beverly Falcon[2], Julie A Settles[2], Christopher J Child[2], Makoto Imori (non-author presenter)[4]

[1]T1D Exchange, [2]Eli Lilly and Company,
[3]Pediatric Endocrinology and Diabetes Specialists, [4]Eli Lilly Japan K.K.

EO1-5 A heterozygous familial hypercholesterolemia infant with a high polygenetic risk score showed severe high LDL-cho

Hirohito Shima[1], Kotaro Tayama[1], Tomohiro Nakagawa[1], Sayaka Kawashima[1], Dai Suzuki[1], Masaki Matsubara[2,3], Junko Kanno[1]
[1]Dept. of Pediatr., Tohoku Univ. Hosp.,
[2]Dept. of Diabetes and Lipid Metab., Natl. Cereb. and Cardiovasc. Ctr. Res. Inst.,
[3]Dept. of Gen. Med., Nara Med. Univ.

EO1-6 Peripheral glucocorticoid metabolism may predict patient severity in PICU

Shuji Sai[1], Soichiro Wada[1], Shigetoshi Ogiwara[1], Takuya Tamura[1], Karen Chapman[2]
[1]Dept. of Pediatr., Teine-Keijinkai Hosp., [2]QMRI, Univ. of Edinburgh

EO1-7 Achievement of Developmental Milestones Recorded in Real Time: A Mobile App-Based Study

Keiko Matsubara[1], Satoshi Narumi[1], Tomoyuki Hattori[2]
[1]Dept. of Molecular Endocrinology, National Research Institute for Child Health and Development,
[2]First-Ascent Inc.

English Oral Session 2 growth, puberty and others

Ⓛ Ⓞ

11 月 2 日（水）14：30 ～ 15：30 第 4 会場 （3F G304）

座長 鏡 雅代（国立成育医療センター研究所分子内分泌研究部）
田嶼 朝子（埼玉県立小児医療センター代謝・内分泌科）

EO2-1 Zinc deficiency may affect the phenotypes of Tricho-rhino-phalangeal syndrome type I harboring a novel *TRPS1* variant

Hideaki Yagasaki[1], Koji Kobayashi[1], Hiromune Narusawa[1], Daisuke Watanabe[1], Mie Mochizuki[1], Kazumasa Sato[1], Tomoaki Sano[1], Hiroshi Mitsui[2], Masanori Ota[1], Takeshi Inukai[1]
[1]Dept. of Pediatr., Yamanashi Univ. Sch. of Med.,
[2]Dept. of Dermatr., Yamanashi Univ. Sch. of Med.

EO2-2 Outcomes in growth hormone-treated Noonan syndrome children: impact of PTPN11 mutation status

Alexander AL Jorge[1], Alberto Pietropoli[2], Nicky Kelepouris[3], Reiko Horikawa[4]
[1]Unidade de Endocrinologia-Genetica, LIM/25, Disciplina de Endocrinologia da Faculdade de Medicina da Universidade de Sao Paulo,
[2]Novo Nordisk Health Care AG, [3]Novo Nordisk Inc.,
[4]Div. Endocrinol. Metab., Nat. Cent. for Child Health and Development

EO2-3 Molecular and clinical studies in 76 patients with central precocious puberty

Hiromune Narusawa[1,2], Keisuke Nagasaki[3], Hideaki Yagasaki[2], Yasuhiro Naiki[4], Shinichiro Sano[5], Tomohiro Saito[6], Shun Soneda[7], Shintaro Terashita[8], Saori Kinjo[9], Mitsukazu Mamada[10], Sumito Dateki[11], Satoshi Narumi[1], Reiko Horikawa[4], Tsutomu Ogata[12], Maki Fukami[1], Masayo Kagami[1]
[1]Dept. Molecular Endocrinology, National Center for Child Health and Development,
[2]Dept. Pediatr., Univ. Yamanashi., [3]Dept. Pediatr., Niigata Univ. Sch. Med. and Dent. Sciences,
[4]Div. of Endocrinology and Metabolism, National Center for Child Health and Development,
[5]Dept. Pediatr Endo., Shizuoka Children's Hosp.,
[6]Dept. Pediatr., Yamanashi Prefectural Central Hosp., [7]Tanaka Growth Clinic,
[8]Dept. Pediatr., Faculty of Medicine Univ. Toyama, [9]Dept. Pediatr., Okinawa Chubu Hosp.,
[10]Dept. Pediatr., Tango Central Hosp., [11]Dept. Pediatr., Nagasaki Univ.,
[12]Dept. Pediatr., Hamamatsu Medical Center

EO2-4　Array comparative genomic hybridization is useful for diagnosis of Turner syndrome with unbalanced translocation

Akie Nakamura[1], Shuntaro Morikawa[1], Takeshi Yamaguchi[1], Nozomi Hishimura[1], Kanako Nakayama[1], Naoya Kaneko[1], Katsura Ishizu[2]
[1]Dept. of Pediatr., Hokkaido Univ. Sch. of Med., [2]Kids Forest Clinic

EO2-5　A case of Beckwith-Wiedemann syndrome with ACTH-independent Cushing's syndrome

Hiroko Yagi[1], Tomohiko Sato[1], Ken Higashimoto[2], Hidenobu Soejima[2], Kiminori Terui[1]
[1]Dept. of Pediatr., Hirosaki Univ. Sch. of Med.,
[2]Dept. of Biomol. Sci., Saga Univ. Sch. of Med.

EO2-6　The high incidence of vitamin D deficiency in Hokkaido, especially Wakkanai-Soya district, a high-latitude region of Japan

Yusuke Tanahashi[1], Shinsuke Fukui[1], Takamasa Miyoshi[1], Hideki Tamaru[1], Yuki Sasaki[1], Tomoka Tsubota[1], Takahide Kokumai[2], Shigeru Suzuki[2]
[1]Dept. of Pediatr, Wakkanai City Hosp., [2]Dept. of Pediatr., Asahikawa Univ. Sch. of Med.

一般口演 1　下垂体・成長 1

Ⓛ⓪

11 月 1 日（火）10：50 ～ 11：50　第 1 会場　（1F G2）

座長　井原　健二（大分大学医学部小児科学講座）
　　鞁嶋　有紀（島根大学医学部小児科学教室）

O1-1-1　SGA 性低身長症と成長ホルモン分泌不全性低身長症の思春期開始時までの GH 治療効果と予測成人身長の比較

田中　敏章[1]、曽根田　瞬[1,2]、佐藤　直子[1,3]、岸　健太郎[1,4]、野田　雅裕[1,5]
[1] たなか成長クリニック、[2] 聖マリアンナ医科大学小児科、[3] 東京大学附属病院小児科、
[4] たちばな台クリニック、[5] 公立昭和病院小児科

O1-1-2　GH 治療中の SGA 性低身長症児における腎機能の変化の検討

小泉　美紀子[1,4]、恵谷　ゆり[1]、位田　忍[1,2]、川井　正信[1,3]
[1] 大阪母子医療センター消化器内分泌科、[2] 大阪母子医療センター臨床検査科、
[3] 大阪母子医療センター研究所骨発育疾患研究部門、[4] 淀川キリスト教病院小児科

★ O1-1-3　原因不明の SGA 性低身長症 140 名における（epi）genetic な要因の解明

原　香織[1]、中村　明枝[1,2]、福家　智子[1]、井上　毅信[1]、川嶋　明香[1]、松原　圭子[1]、
佐野　伸一朗[1,3]、山澤　一樹[1,4]、深見　真紀[1]、緒方　勤[1,5,6]、鏡　雅代[1]
[1] 国立成育医療研究センター研究所分子内分泌研究部、[2] 北海道大学病院小児科、
[3] 静岡県立こども病院糖尿病代謝内科、
[4] 独立行政法人国立病院機構東京医療センター臨床遺伝センター、[5] 浜松医科大学医化学講座、
[6] 浜松医療センター小児科

★ O1-1-4　Silver-Russell 症候群の臨床診断基準を満たした 173 名における遺伝学的原因および原因別臨床像の検討

鏡　雅代[1]、福家　智子[1]、中村　明枝[1,2]、井上　毅信[1]、川嶋　明香[1]、原　香織[1]、
松原　圭子[1]、佐野　伸一朗[1,3]、山澤　一樹[1,4]、深見　真紀[1]、緒方　勤[1,5,6,7]
[1] 国立成育医療研究センター分子内分泌研究部、[2] 北海道大学小児科、
[3] 静岡県立こども病院糖尿病・代謝内科、[4] 東京医療センター臨床遺伝センター／小児科、
[5] 浜松医科大学小児科、[6] 浜松医科大学医化学講座、[7] 浜松医療センター小児科

O1-1-5　ヌーナン症候群における遺伝型－表現型連関：身長 SD スコアに焦点を当てた解析

畑　彩葉[1]、前山　隆智[1]、和田　珠希[1]、位田　忍[2]、恵谷　ゆり[1]、川井　正信[3]
[1] 大阪母子医療センター消化器・内分泌科、[2] 大阪母子医療センター臨床検査科、
[3] 大阪母子医療センター研究所骨発育疾患研究部門

O1-1-6　両アレル性 RMRP 病的バリアント保有者は特発性低身長と区別できない表現型をとり得る：５例の報告とレビュー

内田　登[1,2]、石井　智弘[2]、西村　玄[3]、佐藤　武志[2]、倉辻　言[4,5]、長崎　啓祐[6]、細川　悠紀[7]、長谷川　奉延[2]
[1] 済生会宇都宮病院小児科、[2] 慶應義塾大学医学部小児科学教室、[3] 武蔵野陽和会病院放射線科、[4] 国立成育医療研究センター周産期・母性診療センター新生児科、[5] 新潟県立中央病院小児科、[6] 新潟大学医歯学総合病院小児科、[7] 倉敷中央病院小児科

一般口演２　甲状腺１：先天性甲状腺機能低下症・ヨウ素

Ⓛ⓪

11 月 1 日（火）10：50 ～ 11：50　第 3 会場　(3F G303)

座長　阿部　裕樹（新潟市民病院小児科）
　　鳴海　覚志（国立成育医療研究センター研究所）

O1-2-1　15 番染色体 UPD および DUOX2 遺伝子バリアントにより先天性甲状腺機能低下症を呈した Angelman 症候群の 1 例

成田　幸太郎[1]、鳴海　覚志[2]、村松　秀城[1]、中村　勇治[3]、鈴木　敦詞[3]、奥野　友介[4]、浅田　英之[5]、久保田　哲夫[6]、要　匡[7]、長谷川　奉延[8]、齋藤　伸治[3]、高橋　義行[1]
[1] 名古屋大学大学院医学系研究科小児科学、[2] 国立成育医療研究センター分子内分泌研究部、[3] 名古屋市立大学大学院医学研究科新生児・小児医学分野、[4] 名古屋市立大学大学院医学研究科ウィルス学分野、[5] 日本赤十字社愛知医療センター名古屋第一病院小児科、[6] 安城更生病院小児科、[7] 国立成育医療研究センターゲノム医療研究部、[8] 慶應義塾大学医学部小児科学

★ O1-2-2　DUOX2 異常症 36 名の縦断的臨床経過

阿部　清美[1,2]、鳴海　覚志[2,3]、室谷　浩二[4]、安達　昌功[4,5]、朝倉　由美[4]、杉澤　千穂[2,6]、濃沼　政美[7]、長谷川　奉延[2]
[1] 東京都済生会中央病院小児科、[2] 慶應義塾大学医学部小児科、[3] 国立成育医療研究センター研究所分子内分泌研究部、[4] 神奈川県立こども医療センター 内分泌代謝科、[5] 昭和大学医学部小児科、[6] 昭和大学藤が丘病院糖尿病・代謝・内分泌内科、[7] 帝京平成大学薬学部薬学科

★ O1-2-3　新生児マススクリーニング導入以降に出生したサイログロブリン欠損症 28 名の臨床像

中尾　佳奈子[1]、小田野　めぐみ[1]、阿部　清美[2]、杉澤　千穂[2,3]、長谷川　奉延[2]、鳴海　覚志[1,2]
[1] 国立成育医療研究センター研究所分子内分泌研究部、[2] 慶應義塾大学医学部 小児科学教室、[3] 昭和大学藤が丘病院糖尿病・代謝・内分泌内科

O1-2-4　マススクリーニング受検世代の成人先天性甲状腺機能低下症における甲状腺形態と遺伝学的異常

杉澤　千穂[1,2]、鳴海　覚志[3]、中尾　佳奈子[3]、星山　綾子[1]、鈴木　菜美[1]、大江　秀美[1]、福下　美穂[1]、松本　雅子[1]、吉原　愛[1]、渡邊　奈津子[1]、菱沼　昭[4]、吉村　弘[1]、谷山　松雄[2]、伊藤　公一[1]
[1] 伊藤病院、[2] 昭和大学藤が丘病院内科（糖尿病・代謝・内分泌）、[3] 国立成育医療研究センター研究所分子内分泌研究部、[4] 獨協医科大学感染制御・臨床検査医学講座

O1-2-5　乳幼児期のヨウ素含有造影剤による造影検査と甲状腺機能の関連に関する後方視的検討

橘　真紀子[1]、杉浦　愛子[1]、井上　泰輔[1]、福田　明子[1]、福井　美穂[1]、大沼　真輔[1]、福岡　智哉[1]、木村　武司[1]、成田　淳[1]、窪田　拓生[1]、別所　一彦[1,2]、三善　陽子[1,3]、大薗　恵一[1]
[1] 大阪大学大学院医学系研究科小児科学、[2] 滋慶医療科学大学大学院医療管理学研究科、[3] 大阪樟蔭女子大学健康栄養学部健康栄養学科

O1-2-6　小児のヨウ素栄養状態と BMI との関連について：学童全国調査の結果から

伊藤　善也[1]、塚田　信[2]、山口　真由[3]、布施　養善[4]
[1] 日本赤十字北海道看護大学臨床医学領域、[2] 女子栄養大学栄養科学研究所、[3] 鎌倉女子大学家政学部管理栄養学科、[4] 成長科学協会ヨウ素関連調査研究委員会

一般口演３　糖代謝・低血糖 / 副甲状腺

Ⓛ⓪

11 月 1 日（火）10：50 ～ 11：50　第 4 会場　（3F G304）

座長　大幡　泰久（大阪大学大学院医学系研究科小児科学）
　　川北　理恵（倉敷中央病院小児科）

★ O1-3-1　先天性高インスリン血症の長期糖代謝予後

渡部　瑶[1]、岩田　康平[1]、山田　勇気[1]、樋口　真司[1]、森　潤[1]、依藤　亨[2]
[1] 大阪市立総合医療センター小児代謝・内分泌内科、[2] 伊達赤十字病院第２内科部

O1-3-2　L- アスパラギナーゼ誘発性低血糖の病態解明

中谷　久恵、家村　綾正、神谷　尚宏、磯田　健志、高木　正稔、高澤　啓、
鹿島田　健一、森尾　友宏
東京医科歯科大学発生発達病態学分野

O1-3-3　ソニック・ヘッジホッグはアディポネクチンとインスリン抵抗性とに相関する

高屋　淳二[1]、田邉　裕子[2]、野村　直宏[2]、見浪　実紀[2]、大沼　竹紫[1,2]、金子　一成[2]
[1] 河内総合病院、[2] 関西医科大学小児科

O1-3-4　副甲状腺機能低下症は血清カルシウムが低値から正常の範囲の時のインタクト PTH の値で正常患者と区別しうる

馬場　義郎[1,2]、滝島　茂[3,4]、瑞慶覧　宏彰[1]、池側　研人[1,5]、今野　麻里絵[1]、鹿島田　健一[4]、
長谷川　行洋[1,6]
[1] 東京都立小児総合医療センター内分泌・代謝科、[2] 慶應義塾大学医学部小児科、
[3] 草加市立病院小児科、[4] 東京医科歯科大学発生発達病態学分野、
[5] 東京都立小児総合医療センター臨床試験科、[6] 多摩北部医療センター小児科

O1-3-5　*GNAS* 遺伝子座へのレトロトランスポゾン挿入によって発症した偽性副甲状腺機能低下症 1B 型兄妹例

川嶋　明香[1,2]、湯野　暁子[3]、佐野　伸一朗[1,4]、中村　明枝[1,5]、石渡　啓介[6]、川崎　友之[7]、
細道　一善[8]、中林　一彦[6]、阿久津　英憲[7]、才津　浩智[9]、深見　真紀[1]、臼井　健[10,11]、
緒方　勤[1,9,12]、鏡　雅代[1]
[1] 国立成育医療研究センター研究所　分子内分泌研究部、
[2] 東北大学大学院医学系研究科小児病態学分野、[3] 勤医協中央病院糖尿病内分泌内科、
[4] 静岡県立こども病院糖尿病代謝内科、[5] 北海道大学病院小児科、
[6] 国立成育医療研究センター研究所周産期病態研究部、
[7] 国立成育医療研究センター研究所生殖医療研究部、[8] 東京薬科大学生命科学部、
[9] 浜松医科大学医化学講座、[10] 静岡総合病院ゲノム医療センター、
[11] 静岡社会健康医学大学院大学、[12] 浜松医療センター小児科

★ O1-3-6　85 名のメチル化異常を有する偽性副甲状腺機能低下症におけるメチル化パターンと臨床像の検討

浦川　立貴[1,2]、成澤　宏宗[1]、佐野　伸一朗[1,3]、川嶋　明香[1,4]、中村　明枝[1,5]、緒方　勤[6]、
深見　真紀[1]、鏡　雅代[1]
[1] 国立成育医療研究センター分子内分泌研究部、[2] 長崎大学医学部小児科、
[3] 静岡県立こども病院糖尿病代謝内科、[4] 東北大学病院小児科、[5] 北海道大学医学部小児科、
[6] 浜松医科大学小児科

一般口演 4　骨代謝

Ⓛ⓪

11 月 2 日（水）8：40 ～ 9：50　第 1 会場　（1F G2）

座長　菅野　潤子（東北大学医学部小児科）
　　窪田　拓生（大阪大学大学院医学系研究科小児科学）

O2-4-1　肥満小児の腰椎骨密度は下肢除脂肪率と関連する

川名　宏、武者　育麻、菊池　透
埼玉医科大学病院小児科

O2-4-2　思春期・若年成人期 Turner 症候群の骨密度算出法の再検討：areal/volumetric BMD は身長によらず強く相関する

宗永　健志[1,2,3]、池側　研人[2]、糸永　知代[4]、古賀　絵理[5]、榊原　秀也[5]、川井　正信[6,7]、長谷川　行洋[1,2]
[1] 東京都立多摩北部医療センター小児科、[2] 東京都立小児総合医療センター内分泌・代謝科、
[3] 慶應義塾大学医学部小児科学教室、[4] 大分大学医学部小児科、
[5] 横浜市立大学附属市民総合医療センター婦人科、[6] 大阪母子医療センター消化器・内分泌科、
[7] 大阪母子医療センター研究所骨発育疾患研究部門

O2-4-3　ターナー症候群の骨密度低下の要因に関する検討：多機関共同前方視的観察研究

池側　研人[1]、糸永　知代[2]、古賀　絵理[3]、榊原　秀也[3]、川井　正信[4,5]、長谷川　行洋[1,6]
[1] 東京都立小児総合医療センター内分泌・代謝科、[2] 大分大学医学部小児科、
[3] 横浜市立大学附属市民総合医療センター婦人科、[4] 大阪母子医療センター消化器・内分泌科、
[5] 大阪母子医療センター研究所骨発育疾患研究部門、[6] 多摩北部医療センター小児科

O2-4-4　国内の軟骨無形成症乳幼児患者における実態調査：診療記録を用いた後方視的縦断的調査

齋藤　広幸[1]、窪田　拓生[1]、北岡　太一[1]、島　彦仁[2]、菅野　潤子[2]、望月　弘[3]、道上　敏美[4]、長谷川　高誠[5]、藤原　幾磨[6]、濱島　崇[7]、原田　大輔[8]、関　祐子[9]、長崎　啓祐[10]、伊達木　澄人[11]、難波　範行[12]、徳岡　宏文[13]、Pimenta Jeanne[14]、Cohen Shelda[14]、大薗　恵一[1]
[1] 大阪大学大学院医学系研究科小児科学、[2] 東北大学大学院医学系研究科小児病態学分野、
[3] 埼玉県立小児医療センター代謝・内分泌科、
[4] 大阪母子医療センター研究所骨発育疾患研究部門、[5] 岡山大学病院小児科、
[6] 仙台市立病院小児科、[7] あいち小児保健医療総合センター内分泌代謝科、
[8] 地域医療機能推進機構（JCHO）大阪病院小児科、[9] 鹿児島大学病院小児科、
[10] 新潟大学医歯学総合病院小児科、[11] 長崎大学病院大学院医歯薬学総合研究科小児科、
[12] 鳥取大学医学部周産期・小児医学分野、[13]BioMarin Pharmaceutical Japan 株式会社、
[14]BioMarin Pharmaceutical Inc.

O2-4-5　軟骨無形成症の小児患者を対象としたボソリチド第 3 相長期継続投与試験における日本人症例の検討

窪田　拓生[1]、大薗　恵一[1]、小谷　裕美子[2]、安井　夏生[3]、田嶋　朝子[4]、望月　弘[4]、徳岡　宏文[5]、Kala Jayaram[6]、Elena Fisheleva[7]、Alice Huntsuman-Labed[7]、Jonathan Day[7]
[1] 大阪大学大学院医学系研究科小児科学、[2] 徳島大学医学部小児科学、
[3] 徳島大学医学部整形外科、[4] 埼玉県立小児医療センター代謝・内分泌科、
[5]BioMarin Pharmaceutical Japan 株式会社、[6]BioMarin Pharmaceutical, Novato, CA, USA.、
[7]BioMarin（UK）, London, UK

O2-4-6　X 連鎖性低リン血症性くる病 / 骨軟化症におけるリン製剤内服後の iPTH 上昇に関する検討

瑞慶覧　宏彰[1,2]、池側　研人[1]、中村　由恵[4]、長谷川　行洋[1,3]
[1] 東京都立小児総合医療センター内分泌・代謝科、[2] 慶應義塾大学医学部小児科学教室、
[3] 多摩北部医療センター小児科、[4] 立川相互病院小児科

O2-4-7　小児慢性腎臓病における FGF23 値の一年後変化に関連する因子の検討

山村　なつみ[1]、蓮池　由起子[2]、馬場　皆人[1]、藤原　香緒里[1]、山本　勝輔[1]、大薗　恵一[3]、道上　敏美[1,4]
[1] 大阪母子医療センター腎・代謝科、[2] 兵庫医科大学循環器・腎透析内科、
[3] 大阪大学大学院医学系研究科小児科学、[4] 大阪母子医療センター研究所骨発育疾患研究部門

一般口演５　副腎

Ⓛ⓪

11月2日（水）8：40～9：50　第2会場　(3F G301+302)

座長　天野　直子（さいたま市立病院小児科）
　　内木　康博（国立成育医療研究センター内科系専門診療部内分泌代謝科）

O2-5-1　新生児マススクリーニング濾紙血検体のLC-MS/MS法ステロイドプロファイル基準値設定

辻　敦美[1,3]、渡辺　和宏[2]、橋本　敦子[2]、小西　薫[2]、石毛　信之[2]、矢島　晴美[2]、
酢谷　明人[3]、中谷　久恵[3]、我有　茉希[3]、高澤　啓[3]、鹿島田　健一[3]
[1]国立成育医療研究センター研究所システム発生・再生医学研究部、
[2]公益財団法人東京都予防医学協会、[3]東京医科歯科大学大学院発生発達病態学分野（小児科）

O2-5-2　過去６年間の埼玉県新生児マススクリーニングにおける先天性副腎過形成症精査の検討 -LC-MS/MS法の有用性 -

梁　偉博[1]、河野　智敬[1]、田代　昌久[1]、田嶼　朝子[1]、三井　規雅[2]、松下　大介[2]、望月　弘[1]、
会津　克哉[1]
[1]埼玉県立小児医療センター代謝内分泌科、[2]埼玉県立小児医療センター検査技術部

O2-5-3　翻訳開始コドンを含む微細欠失を有する小児期発症DAX1異常症の２例

天野　直子[1,2]、室谷　浩二[3]、佐藤　武志[2]、土岐　真智子[3,4]、平野　泰大[3,4]、上牧　務[4]、
長谷川　奉延[2]
[1]さいたま市立病院小児科、[2]慶應義塾大学医学部小児科、
[3]神奈川県立こども医療センター内分泌代謝科、[4]平塚市民病院小児科

O2-5-4　二頭酵素欠損症２症例の副腎機能の経過

平野　泰大[1,2]、土岐　真智子[2]、滝崎　奈穂[2]、水谷　陽貴[2]、花川　純子[2]、田辺　仁彦[3]、
田中　水緒[4]、後藤　智英[3]、室谷　浩二[2]
[1]平塚市民病院小児科、[2]神奈川県立こども医療センター内分泌代謝科、
[3]神奈川県立こども医療センター神経内科、[4]神奈川県立こども医療センター病理診断科

O2-5-5　ステロイド併用療法を行った川崎病の小児における副腎機能の検討

阿部　裕樹、眞柄　慎一、山中　崇之、羽深　理恵、福地　雄太、唐橋　裕輔、
山際　悠里、塚野　真也
新潟市民病院小児科

O2-5-6　副腎クリーゼの罹患率と危険因子～多施設共同前向き観察研究によるreal world evidence～
Ⓛのみ

細川　真弓[1,8]、市橋　洋輔[1]、柴田　奈央[2]、長谷川　行洋[3]、濱島　崇[4]、永松　扶紗[5]、
鈴木　滋[6]、沼倉　周彦[7]、天野　直子[8]、佐々木　悟郎[9]、西垣　五月[10]、永原　敬子[11]、
曽根田　瞬[12]、有安　大典[13]、前田　美和子[14]、鎌崎　穂高[15]、麻生　敬子[16]、長谷川　奉延[1]、
石井　智弘[1]
[1]慶應義塾大学医学部小児科学教室、[2]新潟大学医歯学総合病院小児科、
[3]東京都立小児総合医療センター内分泌・代謝科、
[4]あいち小児保健医療総合センター内分泌代謝科、[5]熊本大学医学部小児科、
[6]旭川医科大学小児科学講座、[7]山形大学医学部小児科、[8]さいたま市立病院小児科、
[9]東京歯科大学市川総合病院小児科、[10]大阪市立大学小児科、[11]昭和大学医学部小児科学講座、
[12]聖マリアンナ医科大学小児科、[13]川崎市立川崎病院小児科、[14]大分大学医学部小児科学講座、
[15]札幌医科大学小児科、[16]東邦大学医療センター大森病院小児科

O2-5-7　急性副腎不全時のヒドロコルチゾン製剤の自己注射の多職種連携による指導

桧作　和子[1]、櫻井　雄一郎[2]、西谷　千里[3]、有馬　純子[1]、久保田　知洋[1]、野村　裕一[1]
[1]鹿児島市立病院小児科、[2]鹿児島市立病院薬剤部、[3]鹿児島市立病院看護部

一般口演６　肥満・やせ・栄養・脂質代謝

Ⓛ⓪

11月2日（水）8：40～9：50　第3会場　（3F G303）

座長　庄司　保子（日本大学医学部小児科学系小児科学分野）
　　高屋　淳二（河内総合病院小児科）

O2-6-1　小児肥満症での leaky gut の関与：腸管透過性亢進の指標との関連の検討

桑村　真美[1,2]、山本　幸代[1,3]、池上　朋未[4]、多久　葵[5]、川越　倫子[6]、楠原　浩一[1]
[1]産業医科大学医学部小児科学、[2]産業医科大学医学部衛生学、
[3]産業医科大学医学部医学教育担当教員、[4]済生会八幡病院小児科、[5]九州労災病院小児科、
[6]戸畑総合病院小児科

O2-6-2　褐色脂肪組織由来の Maresin2（MaR2）は肥満に伴う肝臓炎症を抑制する

杉本　哲[1,2]、Mena Hebe Agustina[3]、Sansbury Brian E.[3]、小林　志緒[4]、辻　忠孝[1]、
Wang Chih-Hao[1]、Yin Xuanzhi[3]、Huang Tian Lian[1]、楠山　譲二[1]、Kodani Sean D.[1]、
Darcy Justin[1]、Profeta Gerson[1]、Pereira Nayara[5]、Tanzi Rudolph[6]、Zhang Can[6]、
Serwold Thomas[4]、Kokkotou Efi[7]、Goodyear Laurie[1]、Cypess Aaron[8]、Leiria Luiz[5]
Spite Matthew[3]、Tseng Yu-Hua[1]
[1]Section on Integrative Physiology and Metabolism, Joslin Diabetes Center, Harvard Medical Sch.、
[2]京都府立医科大学小児科、
[3]Center for Experimental Therapeutics and Reperfusion Injury, Dept. of Anesthesiology, Perioperative and Pain Medicine, Brigham and Women's Hosp. and Harvard Medical Sch.、
[4]Section of Immunobiology, Research Div., Joslin Diabetes Center, Harvard Medical Sch.、
[5]Dept. of Pharmacology, Ribeirao Preto Medical Sch., Univ. of Sao Paulo、
[6]Genetics and Aging Research Unit, McCance Center for Brain Health, Dept. of Neurology, Massachusetts General Hosp. and Harvard Medical Sch.、
[7]Dept. of Medicine, Div. of Gastroenterology, Beth Israel Deaconess Medical Center, Harvard Medical Sch.、
[8]Diabetes, Endocrinology, and Obesity Branch, Intramural Research Program, National Institute of Diabetes and Digestive and Kidney Diseases（NIDDK）, NIH

O2-6-3　妊娠期間中の高脂肪負荷は胎仔発育不全と非震え熱産生臓器褐色脂肪の機能低下を引き起こす

山口　美穂子、河辺　泰宏、森元　英周、太田　武志、宮垣　知史、西田　望、
中島　久和、森　潤
京都府立医科大学大学院医学研究科小児科学

O2-6-4　BMI-SDS による思春期やせ症のスクリーニング暫定基準の一般集団女児への適用　―中等度以上のやせ・軽度やせをスクリーニングする感度・特異度―

長島　由佳[1,2]、井ノ口　美香子[1,2]、石井　智弘[2]、長谷川　奉延[2]
[1]慶應義塾大学保健管理センター、[2]慶應義塾大学医学部小児科学教室

O2-6-5　小児期発症の摂食障害 328 例の内分泌学的特徴

大戸　佑二[1]、井上　建[2]、鈴木　大樹[1]、深谷　悠太[1]、森下　菖子[2]、嶋田　怜士[2]、
松島　奈穂[2]、春日　晃子[2]、北島　翼[2]、椎橋　文子[2]、大谷　良子[2]、村上　信行[1]、
松原　知代[1]、作田　亮一[2]
[1]獨協医科大学埼玉医療センター小児科、
[2]獨協医科大学埼玉医療センター子どものこころ診療センター

O2-6-6　小児の LDL コレステロール値の検討

土井　響、五十嵐　瑞穂、宇治田　凪紗、今野　裕章、鹿島　健幹、藤岡　晶子、
宮城　元、吉井　啓介、内木　康博、堀川　玲子
国立成育医療研究センター内分泌・代謝科

O2-6-7　熊本市における小児生活習慣病検診 10 年間の解析

永松　扶紗[1]、城戸　淳[2]、中村　俊郎[3]、小松　なぎさ[4]、松本　志郎[2]、中村　公俊[2]
[1]熊本大学病院小児科、[2]熊本大学大学院生命科学研究部小児科、[3]桜十字病院小児科、
[4]熊本中央病院小児科

一般口演７　甲状腺２：バセドウ病・甲状腺炎

Ⓛ⓪

11 月 2 日（水）14：30 ～ 15：30　第 1 会場　（1F G2）

座長　麻生　敬子（東邦大学医療センター大森病院小児科）
　　南谷　幹史（帝京大学ちば総合医療センター小児科）

O2-7-1　小児期発症バセドウ病における T3 優位型バセドウ病の臨床像の検討

廣嶋　省太[1]、澤野　堅太郎[1]、柴田　奈央[1]、入月　浩美[1]、佐々木　直[1]、小川　洋平[2]、長崎　啓祐[1]
[1] 新潟大学医歯学総合病院小児科、
[2] 新潟大学大学院医歯学総合研究科地域医療確保・地域医療課題解決支援講座地域医療分野

O2-7-2　小児バセドウ病を対象とした抗甲状腺剤単独療法とコレステロール吸収阻害剤併用療法のランダム化比較試験

長崎　啓祐[1]、高桑　聖[2]、八ツ賀　秀一[3]、鈴木　滋[4]、香川　礼子[5]、田久保　憲行[6]、澤田　浩武[7]、長谷川　行洋[8]
[1] 新潟大学医歯学総合病院小児科、[2] 兵庫県立西宮病院小児科、[3] 久留米大学小児科、
[4] 旭川医科大学小児科、[5] 広島大学小児科、[6] 順天堂大学医学部附属順天堂医院小児科、
[7] 宮崎大学医学部附属病院小児科、[8] 都立小児総合医療センター内分泌・代謝科

O2-7-3　Down 症候群バセドウ病患者の臨床的特徴について：非ダウン症バセドウ病患者との比較検討

土岐　真智子[1,2]、花川　純子[1]、簾生　なおみ[1]、上原　健史[1]、滝崎　奈穂[1]、水谷　陽貴[1]、黒澤　健司[3]、室谷　浩二[1]
[1] 神奈川県立こども医療センター、[2] 慶應義塾大学小児科学教室、
[3] 神奈川県立こども医療センター遺伝科

O2-7-4　自己免疫性甲状腺機能低下症を初発症状とした STAT1 機能獲得型変異例

坂田　園子、武内　香菜子、内海　孝法、香川　礼子、岡田　賢
広島大学病院小児科

O2-7-5　自己免疫性甲状腺炎診断時の甲状腺容積はその後の甲状腺機能予後を予測するか

鈴木　貴大[1,2]、長谷川　行洋[2]
[1] 町田市民病院小児科、[2] 東京都立小児保健医療総合センター内分泌・代謝科

O2-7-6　小児期発症の萎縮性甲状腺炎における阻害型 TSH 受容体抗体の縦断的変化の検討

長崎　啓祐[1]、原　洋祐[2]、菅野　潤子[3]、中村　明枝[4]、小山　さとみ[5]、大杉　康司[6]、鹿島田　健一[7]
[1] 新潟大学医歯学総合病院小児科、[2] 信州大学医学部小児科、[3] 東北大学医学部小児科、
[4] 北海道大学医学部小児科、[5] 獨協医科大学小児科、
[6] 独立行政法人国立病院機構横浜医療センター小児科、
[7] 東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科発生発達病態学分野

一般口演８　性分化疾患

Ⓛ⓪

11 月 2 日（水）14：30 ～ 15：30　第 2 会場　（3F G301+302）

座長　濱島　崇（あいち小児保健医療総合センター内分泌代謝科）
　　松本　富美（大阪母子医療センター泌尿器科）

O2-8-1　法律上の性別が女性の 46,XY SF1 異常症３症例の性同一性の評価と性別違和に関連する因子の検討

佐藤　武志[1,2]、佐々木　掌子[2,3]、中野　さつき[1,2]、宗永　健志[1,2]、志村　和浩[1,2]、市橋　洋輔[1,2]、内田　登[1,2]、柴田　浩憲[1,2]、本田　美紗[1,2]、諏訪内　亜由子[1]、内田　明花[2,4]、佐藤　健二[2,4]、石井　智弘[1,2]、浅沼　宏[2,5]、星野　健[6]、黒田　達夫[2,6]、松尾　宣武[1]、長谷川　奉延[1,2]
[1] 慶應義塾大学医学部小児科、[2] 慶應義塾大学病院性分化疾患センター、
[3] 明治大学文学部心理社会学科臨床心理学専攻、[4] 慶應義塾大学医学部産婦人科、
[5] 慶應義塾大学医学部泌尿器科、[6] 慶應義塾大学医学部小児外科

O2-8-2　卵子提供にて出産した 40 歳のターナー女性と 12 歳で卵巣保存したターナー女児
宮下　健悟、五十嵐　登
富山県立中央病院小児科

O2-8-3　尿道下裂に中枢性思春期早発症を合併した small-for-gestational age（SGA）男児の 5 例
籏生　なおみ[1,2]、上原　健史[1]、滝崎　奈穂[1]、水谷　陽貴[1]、花川　純子[1]、山崎　雄一郎[3]、室谷　浩二[1]
[1] 神奈川県立こども医療センター内分泌代謝科、[2] 慶應義塾大学小児科、
[3] 神奈川県立こども医療センター泌尿器科

O2-8-4　鼠径ヘルニアを契機に診断された 46,XY DSD 症例の臨床遺伝学的検討
木村　妙[1]、小田野　めぐみ[1]、齋藤　真希[1]、河野　智敬[2]、田嶼　朝子[1,2]、会津　克哉[2]、鳴海　覚志[3]、長谷川　奉延[4]、宮田　市郎[1]
[1] 東京慈恵会医科大学小児科学講座、[2] 埼玉県立小児医療センター、
[3] 国立成育医療研究センター研究所分子内分泌研究部、[4] 慶應義塾大学医学部小児科学教室

O2-8-5　染色体異常を有する DSD の手術適応と小児泌尿器科的管理
Ⓛのみ
岩佐　俊[1,3]、浅沼　宏[1,3]、石井　智弘[2,3]、安水　洋太[1]、田中　伸之[1]、武田　利和[1]、松本　一宏[1]、森田　伸也[1]、小坂　威雄[1]、水野　隆一[1]、長谷川　奉延[2,3]、大家　基嗣[1]
[1] 慶應義塾大学医学部泌尿器科学教室、[2] 慶應義塾大学医学部小児科学教室、
[3] 慶應義塾大学病院性分化疾患センター

O2-8-6　総排泄腔遺残症術後遠隔期における問題と当院 DSD センターの取り組み
加藤　源俊[1]、鈴木　悠史[2]、中野　さつき[3]、高橋　信博[1]、佐藤　武志[3]、内田　明花[4]、小林　佑介[4]、山田　洋平[1]、石井　智弘[3]、浅沼　宏[5]、長谷川　奉延[3]、黒田　達夫[1]
[1] 慶應義塾大学医学部小児外科、[2] 慶應義塾大学医学部形成外科、[3] 慶應義塾大学医学部小児科、
[4] 慶應義塾大学医学部産婦人科、[5] 慶應義塾大学医学部泌尿器科

一般口演 9　糖代謝・糖尿病・低血糖

Ⓛ⓪

11 月 2 日（水）14：30 ～ 15：30　第 3 会場　（3F G303）
座長　濱田　淳平（愛媛大学大学院医学系研究科小児科学）
望月　美恵（独立行政法人国立病院機構甲府病院）

O2-9-1　ミニメド 770G システムによるオートモード機能の有効性についての検討
今野　裕章、宇治田　凪紗、五十嵐　瑞穂、鹿島　健幹、土井　響、藤岡　晶子、宮城　元、吉井　啓介、内木　康博、山田　未歩子、堀川　玲子
国立成育医療研究センター

O2-9-2　糖尿病スクリーニングにおける尿検体採取のタイミングの検討～学校糖尿病検診での早朝起床時尿は有用か？～
小川　洋平、長崎　啓祐、入月　浩美、澤野　堅太郎、柴田　奈央、廣嶋　省太、齋藤　昭彦
新潟大学医歯学総合病院小児科

O2-9-3　学校検尿を契機に診断された Monogenic Diabetes の臨床的特徴
鈴木　潤一、寺田　啓輝、吉田　圭、田邉　聡美、桑原　怜未、峯　佑介、青木　政子、庄司　保子、浦上　達彦、森岡　一朗
日本大学医学部小児科学系小児科学分野

★ O2-9-4　日本人若年発症 MODY 様糖尿病の包括的遺伝子解析
依藤　亨[1,2,3]、渡部　瑶[2]、山田　勇気[2]、樋口　真司[2]、森　潤[2]、岩田　康平[2]、青山　貴音[3]
[1] 伊達赤十字病院第二内科部、[2] 大阪市立総合医療センター小児代謝・内分泌内科、
[3] 大阪市立総合医療センター臨床研究センター

O2-9-5　妊娠糖尿病母体から出生した正期産児の出生時の体格に関連する臨床因子
寺田　啓輝、長野　伸彦、田邉　聡美、峯　佑介、青木　政子、鈴木　潤一、庄司　保子、森岡　一朗
日本大学医学部小児科学系小児科学分野

O2-9-6　小児救急受診時のストレス高血糖の頻度と背景

永田　知裕、赤星　祥伍、今野　麻里絵、長谷川　行洋
東京都立小児総合医療センター内分泌・代謝科

一般口演 10　思春期・性腺

Ⓛ⓪

11 月 3 日（木・祝）10：05 ～ 11：05　第 1 会場　（1F G2）

座長　佐藤　直子（東京大学大学院医学系研究科小児医学講座小児科）
田島　敏広（自治医科大学とちぎ子ども医療センター小児科）

★ O3-10-1　治療群・無治療群のゴナドトロピン依存性思春期早発症の女児における身長予後についての検討

齋藤　玲子[1]、馬場　義郎[2]、尾﨑　佳代[3]、池側　研人[2]、今野　麻里絵[2]、長谷川　行洋[2,4]
[1] 産業医科大学医学部小児科、[2] 東京都立小児総合医療センター内分泌・代謝科、
[3] 兵庫県立こども病院代謝内分泌科、[4] 多摩北部医療センター小児科

O3-10-2　特発性 GnRH 依存性思春期早発症（iPP）女児に対する LHRH アナログ治療が体重増加に及ぼす影響

尾﨑　佳代[1]、齋藤　玲子[2,3]、馬場　義郎[2]、池側　研人[2]、洪　聖媛[1]、三星　アカリ[1]、
松本　真明[1]、長谷川　行洋[2]
[1] 兵庫県立こども病院 代謝内分泌科、[2] 東京都立小児総合医療センター　内分泌・代謝科、
[3] 産業医科大学　小児科

O3-10-3　停留精巣 / 遊走精巣既往児 65 名の思春期開始年齢調査

青山　幸平[1]、吉田　あや[1]、山口　直哉[1]、鈴木　敦詞[1]、水野　健太郎[2]、西尾　英紀[2]、
松本　大輔[3]、加藤　大貴[4]、林　祐太郎[2]、齋藤　伸治[1]
[1] 名古屋市立大学大学院医学研究科新生児・小児医学分野、
[2] 名古屋市立大学大学院医学研究科小児泌尿器科学分野、
[3] 名古屋市立大学大学院医学研究科腎・泌尿器科学分野、
[4] 名古屋市立大学医学部附属東部医療センター泌尿器科

O3-10-4　CHARGE 症候群の表現型と遺伝子型に関する検討

前山　隆智[1]、位田　忍[2]、畑　彩葉[1]、和田　珠希[1]、惠谷　ゆり[1]、川井　正信[1,3]
[1] 大阪母子医療センター消化器・内分泌科、[2] 大阪母子医療センター臨床検査科、
[3] 大阪母子医療センター研究所骨発育疾患研究部門

O3-10-5　FGFR1 遺伝子変異陽性低ゴナドトロピン性性腺機能低下症における臨床所見の評価

佐藤　直子[1,2]、小笠原　敦子[3]、曽根田　瞬[2]、佐藤　詩子[4]、岸　健太郎[2]、野田　雅裕[2]、
門脇　弘子[5]、田中　裕之[1]、北中　幸子[6]、田中　敏章[2]
[1] 東京大学医学部附属病院小児科、[2] たなか成長クリニック、[3] 茨城県立こども病院小児科、
[4] 三楽病院小児科、[5] 国際医療福祉大学臨床医学研究センター、
[6] きたなかこども成長クリニック

O3-10-6　低ゴナドトロピン性性腺機能低下症患者 44 例を対象としたエピゲノム解析

鈴木　江莉奈[1]、宮戸　真美[1]、松原　圭子[1]、黒木　陽子[2]、川嶋　明香[1]、原　香織[1]、
鏡　雅代[1]、緒方　勤[1,3]、深見　真紀[1]
[1] 国立成育医療研究センター研究所分子内分泌研究部、
[2] 国立成育医療研究センター研究所ゲノム医療研究部、[3] 浜松医科大学小児科

一般口演 11　新生児内分泌・症候群

Ⓛ⓪

11 月 3 日（木・祝）10：05 ～ 11：05　第 2 会場　(3F G301+302)

座長　河井　昌彦（京都大学医学部附属病院総合周産期母子医療センター新生児部門）
　　松下　理恵（京都大学大学院医学研究科社会健康医学系専攻健康解析学講座薬剤疫学分野）

O3-11-1　日本人新生児生理的体重減少曲線の作成

磯島　豪[1]、加藤　則子[2]、森崎　菜穂[3]、盛一　享徳[3]、横山　徹爾[4]

[1]虎の門病院小児科、[2]十文字女子学園大学教育人文学部、[3]国立成育医療研究センター、[4]国立保健医療科学院

★ O3-11-2　SGA 児 309 例の包括的メチル化解析によるインプリンティング疾患の探索

山澤　一樹[1]、中嶋　萌子[1]、久保井　徹[2]、横田　一郎[3]、杉野　典子[4]、小川　昌宏[4]、盆野　元紀[4]、曳野　俊治[5]、佐藤　和夫[5]、中嶋　敏紀[6]、酒見　好弘[6]、井上　毅信[7]、中村　明枝[8]、松原　圭子[9]、鏡　雅代[9]

[1]国立病院機構東京医療センター臨床遺伝センター、
[2]国立病院機構四国こどもとおとなの医療センター新生児内科、
[3]国立病院機構四国こどもとおとなの医療センター小児内分泌科、
[4]国立病院機構三重中央医療センター新生児科、[5]国立病院機構九州医療センター小児科、
[6]国立病院機構小倉医療センター小児科、[7]東京大学医学部附属病院小児科、
[8]北海道大学病院小児科、[9]国立成育医療研究センター研究所分子内分泌研究部

O3-11-3　fT3/fT4 比を用いた早産児一過性低サイロキシン血症の病態検討

境内　愛実、岩永　甲午郎、河井　昌彦、滝田　順子

京都大学医学部附属病院

O3-11-4　顔貌情報を用いた診断補助アプリケーション Face2Gene の内分泌関連疾患における有用性

本川　未都里[1]、中富　明子[1]、二里　茉莉[1]、浦川　立貴[1]、渡辺　聡[2]、三嶋　博之[3]、松本　正[4]、近藤　達郎[4]、伊達木　澄人[1]

[1]長崎大学病院小児科、[2]わたなべ小児科、[3]長崎大学大学院医歯薬学総合研究科人類遺伝学、[4]みさかえの園総合医療発達福祉センターむつみの家

O3-11-5　カーニー複合：指定難病診断基準の改定案策定に関して

向井　徳男[1,3]、長谷川　奉延[2,3]

[1]旭川赤十字病院小児科、[2]慶應義塾大学医学部小児科、
[3]厚生労働科学研究費補助金難治性疾患政策研究事業「副腎ホルモン産生異常に関する調査研究」班

O3-11-6　長期生存している MIRAGE 症候群男性の臨床経過と内分泌学的評価

古園　美和、牧村　美佳、都　研一

福岡市立こども病院内分泌・代謝科

一般口演 12　CCS・COVID-19

Ⓛ⓪

11 月 3 日（木・祝）10：05 ～ 11：05　第 3 会場　(3F G303)

座長　安達　昌功（昭和大学医学部小児科）
　　村下　眞理（医療法人むらしたこどもクリニック）

O3-12-1　小児急性白血病患者のサルコペニアは治療開始後に増悪する

糸永　知代[1]、松田　史佳[1]、平野　直樹[1]、前田　美和子[1]、末延　聡一[1,2]、井原　健二[1]

[1]大分大学医学部小児科、[2]大分こども急性救急疾患学部門医療・研究事業

O3-12-2　小児がん治療後のやせに頻度とリスク因子

青木　政子、寺田　啓輝、植野　優、吉田　圭、金澤　剛二、田邉　聡美、峯　佑介、下澤　克宜、平井　麻衣子、鈴木　潤一、庄司　保子、谷ケ崎　博、浦上　達彦、森岡　一朗

日本大学医学部小児科学系小児科学分野

O3-12-3　COVID-19 ワクチン接種前後の血清コルチゾール値

喜納　陽子、井垣　純子
沖縄県立南部医療センター・こどもセンター小児内分泌・代謝内科

O3-12-4　COVID-19 流行による小児の生活習慣や健康への影響に対する教育現場での認識：北九州市でのアンケート調査

池上　朋未[1,2]、山本　幸代[3]、齋藤　玲子[1]、桑村　真美[1]、楠原　浩一[1]
[1]産業医科大学小児科学教室、[2]済生会八幡総合病院小児科、[3]産業医科大学医学教育担当教員

O3-12-5　新型コロナウイルス感染を契機に発症した劇症 1 型糖尿病と考えられた 1 例

山本　紘子、數川　逸郎、木原　牧子、鮎田　香子、阿部　茉衣子、柴　康弘、皆川　真規
千葉県こども病院内分泌科

O3-12-6　北九州市学校検尿によって新規診断された糖尿病の年間発見率の推移ー COVID-19 拡大前後での検討

山本　幸代[1,2,3]、池上　朋未[2]、桑村　真美[2]、齋藤　玲子[2]、大原　延年[3]、魚住　友彦[3]、
天本　祐輔[3]、楠原　浩一[2]
[1]産業医科大学医学部医学教育担当教員、[2]産業医科大学小児科、
[3]北九州市医師会学童生活習慣病部会

一般口演 13　糖尿病 / 骨系統疾患

Ⓛ⓪

11 月 3 日（木・祝）11：15 ～ 12：15　第 1 会場　(1F G2)

座長　川村　智行（あべのメディカルクリニック）
　　藤原　幾磨（仙台市立病院小児科）

O3-13-1　グリコアルブミン / ヘモグロビン A1c 比は低血糖発症の予測因子として有用である

望月　美恵[1,2]、武者　育麻[1,3]、雨宮　伸[1,3]、小林　浩司[1,2]、鈴木　滋[1,4]、國米　崇秀[1,4]、
菅原　大輔[1,5]、小山　さとみ[1,6]、小林　基章[1,7]、松浦　信夫[1,8]、菊池　透[1,3]
[1]小児インスリン治療研究会、[2]山梨大学小児科、[3]埼玉医科大学小児科、[4]旭川医科大学小児科、
[5]自治医科大学附属さいたま医療センター小児科、[6]獨協医科大学小児科、
[7]こばやしこどもクリニック、[8]市立美唄病院小児科

O3-13-2　1 型糖尿病診断時の nonthyroidal illness は糖尿病重症度と関連し、インスリン分泌早期枯渇の予測因子となる

南谷　幹史[1,2]、田嶋　朝子[2]、鹿島田　健一[2]、河田　泰定[2]、福田　謙[2]、小谷　裕美子[2]、
喜多村　美幸[2]、三浦　順之助[2]、横田　一郎[2]、杉原　茂孝[2]、菊池　透[2]
[1]帝京大学ちば総合医療センター小児科、[2]小児インスリン治療研究会

O3-13-3　北海道における小児糖尿病児の長期予後調査-死亡例についての解析-

松浦　信夫[1,2]、横道　洋司[2]、伊藤　善也[3]、鈴木　滋[4]、望月　恵美[5]、母坪　智行[6]
[1]美唄市立病院小児科、[2]山梨大学大学院社会医学講座、[3]日本赤十字社北海道看護大学、
[4]旭川医科大学小児科、[5]山梨大学医学部小児科、[6]さっぽろ小児内分泌クリニック

★ O3-13-4　先天性免疫異常症における膵島自己免疫の実態および造血細胞移植の効果

桐野　玄[1]、高澤　啓[1]、中川　竜一[1]、山内　建[1]、我有　茉希[1]、齋藤　洋子[1]、安達　恵利子[1]、
中谷　久恵[1]、神谷　尚宏[1]、磯田　健志[1]、梶原　道子[2]、金兼　弘和[1]、鹿島田　健一[1]、
森尾　友宏[1]
[1]東京医科歯科大学病院小児科、[2]東京医科歯科大学病院輸血・幹細胞治療センター

★ O3-13-5　レジストリを用いた多施設共同研究による骨形成不全症患者の臨床像解析 - パミドロネートの治療効果を中心に

中山　尋文[1]、大幡　泰久[1]、石見　壮史[1]、山田　知絵子[1]、中野　由佳子[1]、武鑓　真司[1]、
山本　賢一[1,2]、藤原　誠[1,3]、北岡　太一[1]、窪田　拓生[1]、河野　智敬[4]、望月　弘[4]、
池側　研人[5]、長谷川　行洋[5]、平野　泰大[6]、室谷　浩二[6]、青山　幸平[7]、道上　敏美[8]、
柏木　博子[9]、長谷川　泰浩[10]、長谷川　高誠[11]、妹尾　慎太郎[12]、難波　範行[12]、大薗　恵一[1]
[1] 大阪大学大学院医学系研究科小児科学、[2] 大阪大学大学院医学系研究科遺伝統計学、
[3] 大阪大学大学院歯学研究科第一口腔外科、[4] 埼玉県立小児医療センター代謝内分泌科、
[5] 東京都立小児総合医療センター内分泌代謝科、
[6] 神奈川県立こども医療センター内分泌代謝科、
[7] 名古屋市立大学大学院医学研究科新生児小児医学分野、[8] 大阪母子医療センター腎代謝科、
[9] 地域医療機能推進機構（JCHO）大阪病院小児科、[10] 箕面市立病院小児科、
[11] 岡山大学大学院医歯薬学総合研究科小児医科学、[12] 鳥取大学医学部周産期小児医学分野

O3-13-6　N-acetylneuraminic acid synthetase-congenital disorder of glycosylation 3 例の臨床および遺伝学的所見

増永　陽平[1]、西村　玄[2]、高橋　孝治[3]、菱山　富之[4]、今村　公俊[4]、鹿島田　健一[3,5]、
角谷　真知子[6]、和田　芳直[6]、岡本　伸彦[6]、大場　大樹[7]、大橋　博文[7]、池野　充[8]、
坂本　優子[9]、深見　真紀[10]、才津　浩智[11]、緒方　勤[1,12]
[1] 浜松医科大学小児科、[2] 埼玉医科大学病院難病センター、[3] 土浦協同病院小児科、
[4] 土浦協同病院新生児科、[5] 東京医科歯科大学小児科、
[6] 大阪母子医療センター分子遺伝病研究部門、[7] 埼玉県立小児医療センター遺伝科、
[8] 順天堂大学小児科、[9] 順天堂練馬病院整形外科、
[10] 国立成育医療研究センター分子内分泌研究部、[11] 浜松医科大学医学部医化学、
[12] 浜松医療センター小児科

一般口演 14　下垂体・成長２

Ⓛ⓪

11 月 3 日（木・祝）11：15 ～ 12：15　第 2 会場　(3F G301+302)

座長　糸永　知代（大分大学医学部小児科）
　　水野　晴夫（藤田医科大学医学部小児科学）

O3-14-1　日本人小児における下肢長・下肢長身長比基準値：英国人基準値との比較

井ノ口　美香子[1,2]、松尾　宣武[2,3,4]、Takayama　John I[5]、長谷川　奉延[2]
[1] 慶應義塾大学保健管理センター、[2] 慶應義塾大学医学部小児科、
[3] 練馬総合病院医療の質向上研究所、[4] 国立成育医療研究センター、
[5] カリフォルニア大学医学部小児科

O3-14-2　日本人小児頭蓋咽頭腫 診断時の臨床的・内分泌学的特徴
Ⓛのみ

向山　祐理、磯島　豪、滝沢　文彦、小川　敦、小川　哲史、伊藤　純子
虎の門病院小児科

O3-14-3　IGF-1 は成長ホルモン分泌低下のスクリーニング検査として有用でない

岩山　秀之[1]、北川　幸子[2]、佐田　惇[1]、宮本　亮佑[1]、早川　朋人[1]、畔柳　佳幸[1]、
武藤　太一朗[1]、倉橋　宏和[1]、大橋　渉[3]、高木　潤子[4]、奥村　彰久[1]
[1] 愛知医科大学医学部小児科学講座、[2] 総合大雄会病院小児科、
[3] 愛知医科大学病院臨床研究支援センター生物統計部門、
[4] 愛知医科大学医学部内科学講座内分泌・代謝内科

O3-14-4　ソムアトロゴンとジェノトロピンの有用性の比較検討：CP-4-009 試験に参加した患者家族へのアンケートより

吉田　さやか
奈良県総合医療センター小児科

O3-14-5　心理社会性低身長とその他の器質的低身長における成長停止線の比較
平岡　知浩[1,2]、西崎　眞理[2]、上田　晃三[2]、近藤　陽一[2]
[1]岡山大学病院救命救急科、[2]松山赤十字病院小児科

O3-14-6　当センターにおける高身長症例の成因に関する検討
和田　珠希[1]、畑　彩葉[1]、前山　隆智[1]、長谷川　結子[3]、西　恵理子[3]、位田　忍[2]、
岡本　伸彦[3]、惠谷　ゆり[1]、川井　正信[1,4]
[1]大阪母子医療センター消化器・内分泌科、[2]大阪母子医療センター臨床検査科、
[3]大阪母子医療センター遺伝診療科、[4]大阪母子医療センター研究所骨発育疾患研究部門

一般口演 15　若手・中堅

Ⓛ⓪

11 月 3 日（木・祝）11：15 ～ 12：15　第 3 会場　（3F G303）
座長　鬼形　和道（島根大学医学部附属病院卒後臨床研修センター）
長谷川　行洋（東京都立小児総合医療センター内分泌・代謝科）

O3-15-1　成長ホルモン治療中に低亜鉛血症と成長率不良を呈し、亜鉛製剤投与により成長率改善を得た３例
Ⓛのみ
茂木　桜[1]、安達　昌功[1]、永原　敬子[1]、越智　彩子[1]、豊田　純也[1]、平田　文彦[2]
[1]昭和大学病院小児科学講座、[2]横須賀タワークリニック

O3-15-2　発症時期の異なった DAX1 異常症の一家系例
関　祐子[1]、柿本　令奈[1]、徳永　美菜子[1]、三浦　希和子[1]、堀口　達史[1]、森田　智[1]、
溝田　美智代[1]、玉田　泉[2]、奥　章三[3]、内田　登[4]、天野　直子[4]、長谷川　奉延[4]
[1]鹿児島大学病院小児科、[2]いまきいれ総合病院小児科、[3]鹿児島こども病院、
[4]慶應義塾大学小児科

O3-15-3　眼球形成異常および低ゴナドトロピン性性腺機能低下症から診断に至った SOX2 異常症の２例
長谷川　真理[1]、秋定　博子[1]、榊原　崇文[1]、柴田　浩憲[2]、長谷川　奉延[2]、野上　恵嗣[1]
[1]奈良県立医科大学小児科、[2]慶應義塾大学医学部小児科

O3-15-4　気道狭窄の原因として甲状腺腫大を指摘され、その後ランゲルハンス組織球症と診断された１例
田代　昌久、梁　偉博、河野　智敬、田嶼　朝子、会津　克哉
埼玉県立小児医療センター代謝・内分泌科

O3-15-5　難治性小児肥満症に対する治療入院は有効である
牧村　美佳、古園　美和、都　研一
福岡市立こども病院内分泌・代謝科

O3-15-6　水制限試験での尿比重は尿浸透圧の代替検査となる
本間　丈博[1]、池側　研人[1]、長谷川　行洋[1,2]
[1]東京都立小児総合医療センター内分泌代謝科、[2]多摩北部医療センター小児科

ショート口演 1　甲状腺 / 性分化疾患 / 副腎・ステロイドホルモン

Ⓛ⓪

11 月 1 日（火）17：05 ～ 18：15　第 3 会場　（3F G303）
座長　曽根田　瞬（たなか成長クリニック／聖マリアンナ医科大学小児科）
都　研一（独立行政法人福岡市立病院機構福岡市立こども病院内分泌・代謝科）

SO1-1-1　WISC-IV を用いた先天性甲状腺機能低下症患者の長期知的発達予後
Ⓛのみ
三星　アカリ、洪　聖媛、永井　正志、松本　真明、尾﨑　佳代
兵庫県立こども病院代謝内分泌科

SO1-1-2　先天性甲状腺機能低下症患者の重症度による知的発達予後への影響
Ⓛのみ
三星　アカリ、洪　聖媛、永井　正志、松本　真明、尾﨑　佳代
兵庫県立こども病院代謝内分泌科

SO1-1-3　アンドロゲン受容体遺伝子変異症女性例における疾患説明の実態調査　第 1 報
Ⓛのみ
石見　和世[1]、石井　智弘[2]、井ノ口　美香子[2]、天野　直子[2]、井澤　雅子[3]、濱島　崇[3]、
長谷川　奉延[2]、長谷川　行洋[4]
[1] 帝京大学医療技術学部看護学科、[2] 慶應義塾大学小児科、
[3] あいち小児保健医療総合センター内分泌代謝科、
[4] 東京都立小児総合医療センター内分泌・代謝科

SO1-1-4　救急外来または集中治療室における小児の急性期血清コルチゾール濃度動態
赤星　祥伍[1,2]、今野　麻里絵[1]、村上　拓[3]、齋藤　修[3]、萩原　佑亮[4]、幡谷　浩史[5]、
森川　和彦[2]、長谷川　行洋[1]
[1] 東京都立小児総合医療センター内分泌･代謝科、[2] 東京都立小児総合医療センター臨床試験科、
[3] 東京都立小児総合医療センター集中治療科、[4] 東京都立小児総合医療センター救命救急科、
[5] 東京都立小児総合医療センター総合診療科

SO1-1-5　高用量のフルドロコルチゾンを一過性に必要とした 21- 水酸化酵素欠損症の新生児女児例
川崎　裕介[1]、佐藤　武志[1,2]、中野　さつき[1,2]、臼井　健[3,4]、鳴海　覚志[5]、石井　智弘[1,2]、
長谷川　奉延[1,2]
[1] 慶應義塾大学医学部小児科学教室、[2] 慶應義塾大学病院性分化疾患センター、
[3] 静岡県立総合病院リサーチサポートセンター、[4] 静岡社会健康医学大学院大学、
[5] 国立成育医療研究センター分子内分泌研究部

SO1-1-6　21 水酸化酵素欠損症患者では心理ストレス時で糖質コルチコイド必要量が増加する可能性がある
井澤　雅子、福嶋　真依、木村　美輝、池田　麻衣子、伊藤　早苗、濱島　崇
あいち小児保健医療総合センター内分泌代謝科

SO1-1-7　女性化乳房で発症したエストロゲン産生副腎皮質腺腫の男児例
長井　静世[1]、松井　克之[1,2]、田川　晃司[1]、北岸　弥寿朗[1]、坂井　幸子[3]、能島　舞[4]、
佐藤　武志[5]、長谷川　奉延[5]、笹野　公伸[6]、丸尾　良浩[1]
[1] 滋賀医科大学医学部小児科学講座、[2] 滋賀県立小児保健医療センター内分泌代謝糖尿病科、
[3] 滋賀医科大学医学部外科学講座、[4] 滋賀医科大学医学部病理学講座、
[5] 慶應義塾大学医学部小児科、[6] 東北大学大学院医学系研究科病理病態学講座病理診断学分野

SO1-1-8　小児期の女児における 11-oxygenated C19 androgens の変化と早発恥毛への関与の検討
澤野　堅太郎[1]、廣嶋　省太[1]、柴田　奈央[1]、入月　浩美[1]、小川　洋平[1]、伊藤　祐介[2]、
落合　浩之[2]、長崎　啓祐[1]
[1] 新潟大学医歯学総合病院小児科、[2] あすか製薬株式会社薬物動態・安全性研究部

ショート口演 2　貴重な症例 1: 成長 / 性分化疾患 / 新生児 / 栄養 / 糖代謝・糖尿病・低血糖

Ⓛ◎

11 月 1 日（火）17：05 ～ 18：15　第 4 会場　（3F G304）

座長　小田　洋一郎（茅ヶ崎市立病院）
長谷川　高誠（岡山大学病院小児科）

SO1-2-1　兄：連日投与製剤と弟：週 1 回投与製剤で同時に治療開始した治療経験ー兄、弟、両親はどの製剤を選ぶかー
飛梅　斎
福山市民病院小児科

SO1-2-2　生後 8 か月で性別変更した SGA 出生の 46, XY DSD の早産児例
松浦　未紗[1]、菅原　大輔[1]、林　佳菜恵[1]、河野　惇子[1]、市橋　光[1]、池田　太郎[2]
[1] 自治医科大学附属さいたま医療センター小児科、
[2] 自治医科大学附属さいたま医療センター小児外科

SO1-2-3　生後早期の血圧維持にステロイドを要したことを契機に MIRAGE 症候群の診断に至った超低出生体重児
Ⓛのみ
西袋　剛史[1]、高橋　萌[1]、郁春　アセフ[1]、栗原　伸芳[1]、志村　和浩[2]、石井　智弘[2]、
長谷川　奉延[2]、上牧　勇[1]
[1] 国立病院機構埼玉病院小児科、[2] 慶應義塾大学医学部小児科学教室

SO1-2-4　極度の偏食により複数のビタミン・微量元素欠乏症を呈した自閉スペクトラム症の一男児例

小針　靖子、山口　将邦、高野　洋子
伊勢崎市民病院小児科

SO1-2-5　市販の食品による蛋白質負荷試験にて診断した高インスリン高アンモニア血症症候群の 1 例

山口　修平[1]、長尾　美香[1]、生井　良幸[1]、足立　夏帆[2]、田中　裕之[2]、小田　洋一郎[3]
[1] 太田綜合病院附属太田西ノ内病院、[2] 東京大学医学部附属病院小児科、[3] 茅ヶ崎市立病院

SO1-2-6　乳房腫大、陰核肥大、多毛を認め血中インスリン高値が診断契機となったインスリン受容体異常症の乳児

藤原　進太郎[1]、樋口　洋介[1]、江渕　有紀[1]、古城　真秀子[1]、久保　俊英[1]、福嶋　ゆう[2]、大倉　隆宏[3]
[1] 独立行政法人国立病院機構岡山医療センター小児科、
[2] 独立行政法人国立病院機構岡山医療センター新生児科、
[3] 独立行政法人国立病院機構岡山医療センター小児外科

SO1-2-7　非 SGA 出生児に合併した 6q24 関連糖尿病

内田　夏希[1]、樋口　真司[1]、岩田　康平[1]、渡部　瑤[1]、山田　勇気[1]、依藤　亨[2]、森　潤[1]
[1] 大阪市立総合医療センター小児代謝・内分泌内科、[2] 伊達赤十字病院第 2 内科部

SO1-2-8　造血幹細胞移植後の GVHD を有する糖尿病児に対して GLP-1 受容体作動薬が有効であった 1 例

大澤　好充[1,2]、大和　玄季[1,3]、須田　峻平[1]、島田　正晴[1]、濱嶋　恵美[1]、大津　義晃[1,2]、滝沢　琢己[1]
[1] 群馬大学大学院医学系研究科小児科学、[2] 群馬県立小児医療センター内分泌代謝科、
[3] 群馬県立小児医療センター血液腫瘍科

ショート口演 3　下垂体・成長 / 糖尿病

Ⓛ⓪

11 月 2 日（水）18：00 ～ 19：25　第 2 会場　（3F G301+302）

座長　有安　大典（川崎市立川崎病院小児科）
　　菊池　信行（横浜労災病院）
　　間部　裕代（間部病院）

SO2-3-1　右内頸動脈形成不全を伴った先天性下垂体機能低下症の 1 例
Ⓛのみ

柴田　奈央[1,2]、谷　瑞生[1,2]、廣嶋　省太[1]、澤野　堅太郎[1]、入月　浩美[1,3]、小川　洋平[1]、長崎　啓祐[1]
[1] 新潟大学医歯学総合病院小児科、[2] 新潟県立新発田病院小児科、
[3] 新潟大学医歯学総合病院遺伝医療センター

SO2-3-2　成長ホルモン分泌不全性低身長症を呈し、遺伝子解析で診断した Schaaf-Yang 症候群の兄弟例

橋本　有紀子[1]、北　誠[1]、松倉　崇[1]、浅井　康一[1]、矢野　直子[2]、吉田　健司[2]、滝田　順子[2]
[1] 独立行政法人国立病院機構京都医療センター小児科、
[2] 京都大学大学院医学研究科発達小児科学

SO2-3-3　GH 不応による低身長が疑われた糖原病の 1 例

酢谷　明人[1,2]、高澤　啓[1,2]、鹿島田　健一[2]、西岡　正人[1]
[1] 川口市立医療センター小児科、[2] 東京医科歯科大学大学院発生発達病態学分野

SO2-3-4　*COL2A1* 遺伝子にバリアントを同定した骨 X 線異常所見を伴わない SGA 性低身長症母児例

有安　大典[1,2]、古川　律子[3]、山澤　一樹[4]、西村　玄[5]、室谷　浩二[6]、土橋　隆俊[1,2]
[1] 川崎市立川崎病院小児科、[2] 慶應義塾大学医学部小児科学教室、[3] 川崎市立川崎病院新生児科、
[4] 東京医療センター小児科、[5] 武蔵野陽和会病院放射線科、
[6] 神奈川県立こども医療センター内分泌代謝科

SO2-3-5　GH・PRL 産生下垂体腺腫に対してランレオチドを導入した９歳男児例
Ⓛのみ
村松　真由美[1]、上松　あゆ美[2]、石崎　竜司[3]、永井　靖識[3]、佐野　伸一朗[1]
[1]静岡県立こども病院糖尿病・代謝内科、[2]静岡県立こども病院内分泌科、
[3]静岡県立こども病院脳神経外科

SO2-3-6　８歳発症の１型糖尿病女児が社会人になるまでの成長過程：聴き取りの質的データから解明する「生きづらさ」
高口　僚太朗[1]、八ツ賀　秀一[2]
[1]中央大学ダイバーシティセンター、[2]福岡大学小児科

SO2-3-7　１型糖尿病の初発時における臨床像の年代別変化：小児インスリン治療研究会第３～５コホート登録症例での解析
齋藤　玲子[1,2]、山本　幸代[2,3]、後藤　元秀[2,4]、伊藤　善也[2,5]、横道　洋司[2,6]、齋藤　朋洋[2,7]、
滝島　茂[2,8]、立川　恵美子[2,9]、堀川　玲子[2,10]、川名　宏[2,11]、菊池　透[2,11]
[1]産業医科大学医学部小児科、[2]小児インスリン治療研究会、
[3]産業医科大学医学部医学教育担当教員、[4]産業医科大学産業生態科学研究所職業性中毒学、
[5]日本赤十字北海道看護大学臨床医学領域、[6]山梨大学大学院社会医学講座、
[7]山梨県立中央病院小児科、[8]草加市立病院小児科、[9]東京女子医科大学小児科、
[10]国立成育医療研究センター生体防御系内科部内分泌・代謝科、[11]埼玉医科大学小児科

SO2-3-8　*PAX4* R192H は MODY9 の原因バリアントではない
松田　花穂[1,2]、草野　知江子[1]、堀　尚明[1]、本田　美紗[2]、長谷川　奉延[2]
[1]太田記念病院小児科、[2]慶應義塾大学医学部小児科学教室

SO2-3-9　早期の遺伝子検査と SU 薬治療で経過が良好な新生児糖尿病の２例
田川　晃司[1]、松井　克之[1,2]、梅原　弘[3]、柴田　晶美[1]、筒井　英美[1]、長井　静世[1]、
中島　亮[3]、伊藤　英介[3]、丸尾　良浩[1]
[1]滋賀医科大学医学部附属病院小児科、[2]滋賀県立小児保健医療センター内分泌代謝糖尿病科、
[3]済生会滋賀県病院小児科

SO2-3-10　日齢 57、日齢 10 に SU 剤を開始した ABCC8 遺伝子バリアントによる新生児糖尿病の兄弟例
鹿島　健幹、宇治田　凪紗、今野　裕章、藤岡　晶子、宮城　元、五十嵐　瑞穂、
土井　響、吉井　啓介、内木　康博、堀川　玲子
国立成育医療研究センター

ショートロ演４　貴重な症例２：骨系統疾患 /CCS・水電解質・内分泌腫瘍・遺伝

Ⓛ⓪

11 月 2 日（水）18：00 ～ 19：25　第 3 会場　（3F G303）

座長　佐藤　武志（慶應義塾大学医学部小児科学教室）
伊達木　澄人（長崎大学大学院医歯薬総合研究科小児科学）
長井　静世（滋賀医科大学医学部附属病院小児科）

SO2-4-1　同様の母体重症悪阻で表現型が乖離した姉妹例―ビタミン K は悪阻関連点状軟骨異形成症を予防可能か―
市橋　洋輔[1]、落合　大吾[2]、石井　智弘[1]、西村　玄[3]、長谷川　奉延[1]
[1]慶應義塾大学医学部小児科学、[2]慶應義塾大学医学部産婦人科学教室、
[3]武蔵野陽和会病院放射線科

SO2-4-2　３歳時から X 線写真での先端骨融解像を認めていた Penttinen 症候群の一例
Ⓛのみ
志村　和浩[1]、土岐　真智子[2]、西村　玄[3]、石井　智弘[1]、長谷川　奉延[1]
[1]慶應義塾大学医学部小児科学教室、[2]静岡赤十字病院小児科、[3]武蔵野陽和会病院放射線科

SO2-4-3　成人期に診断された Hajdu-Cheney 症候群の一例
二川　奈都子[1]、吾郷　祐子[1]、長谷川　高誠[1]、西田　圭一郎[2]、河内　麻里子[3]、平沢　晃[3]
[1]岡山大学病院小児科、[2]岡山大学病院整形外科、[3]岡山大学病院臨床遺伝子医療学

SO2-4-4　子宮発育不全を認めた小児がん経験者（CCS）女性３症例の報告
島田　綾[1]、池側　研人[1]、今野　麻里絵[1]、長谷川　行洋[1,2]
[1]東京都立小児総合医療センター内分泌代謝科、[2]多摩北部医療センター

SO2-4-5　非アルコール性脂肪肝炎を背景に多発性炎症性肝細胞腺腫が発生した小児期がん経験者の 1 例

山野　春樹[1]、中谷　久恵[1]、中川　竜一[1]、柿沼　晴[2]、長澤　正之[1,3]、磯田　健志[1]、
高澤　啓[1]、鹿島田　健一[1]、森尾　友宏[1]
[1] 東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科発生発達病態学分野、
[2] 東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科疾患生理機能解析学分野、
[3] 武蔵野赤十字病院小児科

SO2-4-6　*AVPR2* 遺伝子 p.A37P 変異による部分型腎性尿崩症患者に対する DDAVP 治療の有用性

藤本　正伸[1]、黒澤　健悟[1]、妹尾　慎太郎[1]、山口　由起子[1]、花木　啓一[2]、難波　範行[1]
[1] 鳥取大学医学部周産期・小児医学分野、[2] 鳥取大学医学部保健学科

SO2-4-7　乳児期から高血圧を呈し、10 歳時に *KCNJ5* 変異が同定された家族性高アルドステロン症 3 型の女児例

牟田　龍史[1]、石井　加奈子[1]、安部　希[1]、トカン　ヴラッド[1]、虫本　雄一[1]、長友　雄作[1]、
大野　拓郎[2]、内田　登[3,4]、長谷川　奉延[3]、大賀　正一[1]
[1] 九州大学大学院医学研究院成長発達医学分野、[2] 大分県立病院小児科、
[3] 慶應義塾大学医学部小児科学教室、[4] 済生会宇都宮病院小児科

SO2-4-8　発作性の腹痛、背部痛を契機に発見された小児後腹膜パラガングリオーマの 1 例

西門　優一[1]、土屋　研人[1]、北澤　宏展[1]、秋田　直洋[1]、吉田　奈央[1]、濱　麻人[1]、
村瀬　成彦[2]、志村　和浩[3]、本田　美紗[3]、佐藤　武志[3]、長谷川　奉延[3]
[1] 日本赤十字社愛知医療センター名古屋第一病院小児科、
[2] 日本赤十字社愛知医療センター名古屋第一病院小児外科、[3] 慶應義塾大学医学部小児科学教室

SO2-4-9　7 番染色体母性片親性ダイソミーによるアルギニノコハク酸尿症と Silver-Russell 症候群の合併例

服部　淳[1]、蘇　哲民[2]、小須賀　基通[2]、市本　景子[3]、村山　圭[3]、鏡　雅代[1]、深見　真紀[1]、
福原　康之[1]
[1] 国立成育医療研究センター分子内分泌研究部、[2] 国立成育医療研究センター遺伝診療科、
[3] 千葉県こども病院代謝科

SO2-4-10　Progeria 症候群 3 症例の検討

五十嵐　瑞穂、宇治田　凪紗、鹿島　健幹、今野　裕章、土井　響、藤岡　晶子、
宮城　元、吉井　啓介、内木　康博、堀川　玲子
国立研究開発法人国立成育医療研究センター

ショート口演 5　症例検討：診断・治療に難渋している症例

Ⓛ⓪

11 月 2 日（水）18：00 ～ 19：25　第 4 会場　（3F G304）

座長　川井　正信（大阪母子医療センター骨発育疾患研究部門 / 消化器・内分泌科）
　　長崎　啓祐（新潟大学医歯学総合病院小児科）

SO2-5-1　治療で改善が得られず診断に難渋している、重症 GHD 及び中枢性甲状腺機能低下症を合併した重度成長障害の 1 例

橋本　悟[1]、瀧浦　俊彦[1]、大久保　結子[2]、吉野　浩[1]、成田　雅美[1]
[1] 杏林大学医学部付属病院小児科、[2] 立正佼成会附属佼成病院小児科

SO2-5-2　原因不明の高 ACTH 血症、高 ADH 血症、高レニン高アルドステロン血症の 1 例

児島　加奈子[1]、田中　ゆかり[2]、八ツ賀　秀一[1]
[1] 福岡大学病院小児科、[2] 飯塚病院小児科

SO2-5-3　無治療で甲状腺中毒症の軽快と再燃を繰り返したダウン症候群の 1 例

新井　美絵[1,2]、嶋　晃歩[1]、宗永　健志[1,3]、安藏　慎[1]、石井　智弘[2]、長谷川　奉延[2]
[1] 東京都立大塚病院小児科、[2] 慶應義塾大学医学部小児科学教室、
[3] 東京都立多摩北部医療センター

SO2-5-4　無痛性甲状腺炎を疑うが Basedow 病との鑑別に苦慮し、方針決定に難渋している Down 症の 1 例

瀧浦　俊彦[1]、橋本　悟[1]、大久保　結子[2]、吉野　浩[1]、成田　雅美[1]
[1] 杏林大学医学部小児科、[2] 佼成病院小児科

SO2-5-5　先天性腎性尿崩症の臨床的特徴を示すも *AVPR2* および *AQP2* に病的変異が同定されなかった３歳女児例

齊藤　翔真[1]、國米　崇秀[1]、古谷　曜子[1]、竹田津　原野[2]、鈴木　滋[1]、高橋　悟[1]
[1]旭川医科大学小児科学講座、[2]旭川厚生病院

SO2-5-6　経口糖負荷試験においてインスリン分泌能低下を疑う一例（腎性糖尿として良いか？）

冨田　雄一郎[1]、石丸　雅矩[3]、兵頭　裕美[4]、石黒　寛之[2]
[1]京王八王子クリニック小児科、[2]しのはら小児クリニック、[3]伊勢原協同病院小児科、
[4]秦野赤十字病院

SO2-5-7　治療に難渋している高度肥満症（BMI 56.1）の 17 歳男性
Ⓛのみ

高橋　修平[1]、堀　尚明[1]、草野　知江子[1]、石井　智弘[2]、長谷川　奉延[2]
[1]太田記念病院小児科、[2]慶應義塾大学病院小児科

SO2-5-8　成長率促進に男性化徴候を伴い、鑑別診断に苦慮した多嚢胞性卵巣症候群と考えられる女児例

勢井　友香、濱田　淳平、江口　真理子
愛媛大学大学院医学系研究科小児科学

web ポスター発表 1　English Poster

Ⓛ⓪

11 月 1 日（火）17：05 ～ 18：10　Zoom ブレイクアウトルーム　（web ポスター発表 1 会場）

座長　鹿島田　健一（東京医科歯科大学発生発達病態学（小児科））
中村　明枝（北海道大学医学部小児科）
難波　範行（鳥取大学医学部周産期・小児医学）

WP1-1-1　A case short stature case with a novel pathological variant of BMP2

Yogi Analia, Ryosei Iemura, Hisae Nakatani, Kei Takasawa, Kenichi Kashimada
Dept. of Pediatr. and Developmental Biology, Tokyo Medical and Dental Univ.

WP1-1-2　MODY With GCK Gene Heterozygous Missense Variant

Mazidah Noordin[1,2], Atsushi Hattori[3], Maki Fukami[3], Reiko Horikawa[1]
[1]Div. of Endocrinology, National Center for Child Health and Development (NCCHD), Tokyo, Japan,
[2]Dept. of Pediatr., Faculty of Medicine, Universiti Teknologi MARA (UiTM), Sungai Buloh Campus, Selangor, Malaysia,
[3]Div. of Molecular Endocrinology, National Center for Child Health & Development (NCCHD), Tokyo, Japan

WP1-1-3　Seasonal variation in vitamin D status of infants born in Saitama City emerges at 2 months of age

Keigo Takahashi[1,2], Takeshi Arimitsu[3], Kaori Hara-Isono[3], Kazushige Ikeda[2]
[1]Dept. of Pediatr., Washington Univ. in St. Louis,
[2]Div. of Neonat., Dept. of Pediatr., Saitama City Hosp.,
[3]Dept. of Pediatr., Keio Univ. Sch. of Med.

WP1-1-4　A real-world study of persistence with daily growth hormone therapy among children with growth hormone deficiency in Japan

Jane Loftus[1], Jenifer Wogen[2], Darrin Benjumea[2], Priti Jhingran[2], Yong Chen[3], Jose Alvir[4], Michael Wajnrajch[4,5]
[1]Pfizer, Walton Oaks, UK, [2]Genesis Research, Hoboken, NJ, USA,
[3]Pfizer Inc, Collegeville, PA, USA, [4]Pfizer Inc, New York, NY, USA,
[5]New York Univ. Grossman Sch. of Med., New York, NY, USA

WP1-1-5 Growth outcomes from phase 2 and phase 3 studies of once-weekly somatrogon vs once-daily genotropin in pediatric patients with growth hormone deficiency: comparisons with literature and a growth study database

Zvi Zadik[1], Jose Cara[2], Martin Carlsson[2], Michael Wajnrajch[2,3], Ronnie Wang[4], Ron Rosenfeld[5]
[1]Pediatric Endocrinology, Kaplan Medical Center, Rehovot, Israel,
[2]Pfizer Inc, New York, NY, USA,
[3]New York Univ. Grossman Sch. of Med., New York, NY, USA,
[4]Pfizer Inc, Groton, CT, USA, [5]Oregon Health and Science Univ., Portland, OR, USA

WP1-1-6 Efficacy and safety of once-weekly somatrogon in pediatric subjects with growth hormone deficiency: lack of impact of anti-drug antibodies

Cheri Deal[1], Lawrence Silverman[2], Joan Korth-Bradley[3], Carl Roland[4], Carrie Taylor[5], Jose Cara[5], Michael Wajnrajch[5,6]
[1]Centre de Recherche CHU Ste-Justine, Université de Montréal, Montréal, Canada,
[2]Goryeb Children's Hosp., Atlantic Health System, Morristown, NJ, USA,
[3]Pfizer Inc, Collegeville, PA, USA, [4]Pfizer Inc, Sanford, NC, USA,
[5]Pfizer Inc, New York, NY, USA,
[6]New York Univ. Grossman Sch. of Med., New York, NY, USA

WP1-1-7 Once-Weekly Somapacitan in Growth Hormone Deficiency: 4-Year Efficacy and Safety Results from REAL 3, a Randomised Controlled Phase 2 Trial

Lars Savendahl[1], Tadej Battelino[2], Michael Hojby Rasmussen[3], Paul Saenger[4], Reiko Horikawa[5]
[1]Dept. of Women's and Children's Health, Karolinska Inst. and Pediatr. Endocrinology Unit, Karolinska Univ. Hosp.,
[2]Fac. of Med., UMC-Univ. Children's Hosp., Univ. of Ljubljana,
[3]Clinical Drug Development, Novo Nordisk A/S, [4]NYU Langone Health, Mineola,
[5]Div. Endocrinol. Metab., Nat. Cent. for Child Health and Development

WP1-1-8 Once-weekly Somapacitan is Effective and Well Tolerated in Children with GH Deficiency: a Randomized Phase 3 Trial

Bradley S. Miller[1], Joanne C. Blair[2], Michael Højby Rasmussen[3], Volker Böttcher[4], Rikke Beck Bang[5], Rasmus Juul Kildemoes[3], Aristides Maniatis[6], Jun Mori[7], Michel Polak[8,9,10,11], Stefano Stagi[12], Reiko Horikawa[13]
[1]Div. of Pediatric Endocrinology, Univ. of Minnesota Masonic Children's Hosp., Minneapolis, Minnesota, USA,
[2]Dept. of Endocrinology, Alder Hey Children's NHS Foundation Trust, Liverpool, United Kingdom,
[3]Novo Nordisk A/S, Søborg, Denmark, [4]Endocrinology Clinic, Frankfurt am Main, Germany,
[5]Novo Nordisk A/S, Aalborg, Denmark,
[6]Rocky Mountain Pediatric Endocrinology, Centennial, CO, USA,
[7]Dept. of Pediatr., Graduate Sch. of Medical Science, Kyoto Prefectural Univ. of Med., Kyoto, Japan,
[8]Service d'Endocrinologie, Gynécologie et Diabétologie Pédiatriques, Hôpital Universitaire Necker Enfants Malades Paris, Assistance Publique-Hôpitaux de Paris, Paris, France,
[9]Université de Paris Cité, Paris, France, [10]INSERM U1016, Institut Cochin, Paris, France,
[11]Institut Imagine, Paris, France,
[12]Dept. of Health Sciences, Univ. of Florence, Anna Meyer Children's Univ. Hosp., Florence, Italy,
[13]Div of Endocrinology and Metabolism, National Center for Child Health and Development, Tokyo, Japan

WP1-1-9 Safety and efficacy of treatment with lonapegsomatropin in children with growth hormone deficiency at Week 130 in the enliGHten trial

Paul Hofman[1], Paul S. Thornton[2], Ulhas M. Nadgir[3], Paul Saenger[4], Elena D. Chertok[5], Elena M. Aghajanova[6], Wenjie Song[7], Meng Mao[7], Steven D. Chessler[7], Allison S. Komirenko[7], Michael Beckert[8], Aimee D. Shu[7], Aristides K. Maniatis[9]

[1]Liggins Institute, Univ. of Auckland, [2]Cook Children's Medical Center, Fort Worth, TX, USA, [3]Center of Excellence in Diabetes and Endocrinology, Sacramento, CA, [4]NYU Langone Health, New York, USA, [5]Voronezh State Medical Univ., Voronezh, Russia, [6]Yerevan State Medical Univ., Yerevan, Armenia, [7]Ascendis Pharma, Palo Alto, CA, USA, [8]Ascendis Pharma A/S, Hellerup, Denmark, [9]Rocky Mountain Pediatric Endocrinology, Centennial, CO, USA

WP1-1-10 Once-Weekly Somapacitan Versus Daily Growth Hormone in Children Born Small for Gestational Age: Results From a Randomized Phase 2 Trial

Anders Juul[1,2], Philippe Backeljauw[3], Michael Højby[4], Masanobu Kawai[5], Rasmus Juul Kildemoes[6], Agnès Linglart[7], Nehama Zuckerman-Levin[8], Reiko Horikawa[9]

[1]Dept. of Growth and Reproduction, Rigshospitalet, Copenhagen, Denmark,
[2]Dept. of Clinical Medicine, Univ. of Copenhagen, Copenhagen, Denmark,
[3]Div. of Endocrinology, Dept. of Pediatr., Cincinnati Children's Hosp. Medical Center, Univ. of Cincinnati College of Medicine, Cincinnati, Ohio, USA,
[4]Clinical Drug Development, Novo Nordisk A/S, Søborg, Denmark,
[5]Dept. of Gastroenterology, Nutrition and Endocrinology, Research Institute, Osaka Women's and Children's Hosp., Izumi, Japan,
[6]Data Science, Novo Nordisk A/S, Søborg, Denmark,
[7]AP-HP, Service d'Endocrinologie et Diabète de l'Enfant, Hôpital Bicêtre Paris Saclay, Université Paris Saclay, Le Kremlin-Bicêtre, France,
[8]Institute of Diabetes, Endocrinology and Metabolism, Rambam Health Care Center, Bruce Rappaport Faculty of Medicine, Technion, Haifa, Israel,
[9]Div. of Endocrinology and Metabolism, National Center for Child Health and Development, National Center for Child Health and Development, Tokyo, Japan

web ポスター発表２　下垂体・成長曲線

Ⓛ Ⓞ

11 月 1 日（火）17：05 ～ 18：15　Zoom ブレイクアウトルーム　（web ポスター発表 2 会場）

座長　小笠原　敦子（茨城県立こども病院）
　　高桑　聖（兵庫県立西宮病院小児科）
　　虫本　雄一（九州大学病院小児科）

WP1-2-1 カベルゴリン治療中に稀な MRI 画像変化を呈したミクロプロラクチノーマの症例

金城　健一[1,2]、村井　雄紀[2]、金子　洋平[1]、増永　陽平[1]、小野　裕之[1]、藤澤　泰子[1]、緒方　勤[1,2]

[1] 浜松医科大学小児科、[2] 浜松医療センター小児科

WP1-2-2 TSH 高値を呈するも甲状腺中毒症状を認めなかった TSH 産生下垂体腺腫の女児例

須田　峻平、大津　義晃、島田　正晴、濱嶋　恵美、大澤　好充、滝沢　琢己

群馬大学大学院医学系研究科小児科学

WP1-2-3 非典型的な臨床経過・画像所見を呈した胚腫の２症例：胚細胞性腫瘍診断手順を考察する

伊藤　純子、小川　哲史、小川　敦、滝沢　文彦、向山　祐理、磯島　豪

虎の門病院小児科

WP1-2-4 低身長を呈さない複合型下垂体ホルモン分泌不全症の女児例

佐野　伸一朗[1]、村松　真由美[1]、上松　あゆ美[2]、増永　陽一[3]、藤澤　泰子[3]、緒方　勤[4]

[1] 静岡県立こども病院糖尿病代謝内科、[2] 静岡県立こども病院内分泌科、[3] 浜松医科大学小児科、[4] 浜松医療センター小児科

WP1-2-5　複合型下垂体機能低下症と嗅球低形成を伴う IGSF1 遺伝子異常症の 1 例
小熊　真紀子[1]、田島　敏広[2]
[1]西真岡こどもクリニック、[2]自治医科大学小児科学

WP1-2-6　成長ホルモン分泌不全症の治療中に副腎皮質機能低下症を呈した中隔視神経形成異常症の 2 例
濱嶋　恵美[1]、島田　正晴[1]、田部井　容子[1]、大澤　好充[1]、大津　義晃[1]、河野　美幸[2]、滝沢　琢己[1]
[1]群馬大学大学院医学系研究科小児科学、[2]群馬中央病院

WP1-2-7　視床下部障害の回復を認めた先天性中枢性尿崩症 / 複合型下垂体ホルモン分泌不全症の一例
我有　茉希、家村　綾正、中谷　久恵、高澤　啓、鹿島田　健一、森尾　友宏
東京医科歯科大学大学院発生発達病態学分野

WP1-2-8　成長曲線健診におけるカテゴリー別の要精査の割合・特徴について
地行　健二[1,2]、竹本　幸司[2]、濱田　淳平[3]
[1]四国中央病院小児科、[2]愛媛県立新居浜病院小児科、[3]愛媛大学医学部小児科

WP1-2-9　学校健診での成長曲線の活用によって思春期早発症の発見が増加した
近藤　聡美、武者　育麻、川名　宏、藤野　美里、沼倉　周彦、大竹　明、菊池　透
埼玉医科大学病院小児科

WP1-2-10　学校の健康診断における成長曲線評価～兵庫県西宮市の試み
高桑　聖[1]、多久和　麻由子[1]、円山　牧子[2]
[1]兵庫県立西宮病院小児科、[2]兵庫医科大学病院小児科

WP1-2-11　学校での成長曲線作成の有用性と鹿児島県での活用状況について
溝田　美智代[1]、徳永　美菜子[1]、森田　智[2]、玉田　泉[2]、柿本　令奈[2]、関　祐子[3]
[1]今村総合病院小児科、[2]鹿児島県医師会成長曲線小委員会、[3]鹿児島大学小児科

web ポスター発表 3　副腎：21 水酸化酵素欠損症・17 水酸化酵素欠損症

Ⓛ⓪

11 月 1 日（火）17：05 ～ 18：00　Zoom ブレイクアウトルーム　（web ポスター発表 3 会場）
座長　高澤　啓（東京医科歯科大学発生発達病態学分野 / 小児科）
向井　徳男（旭川赤十字病院小児科）

WP1-3-1　17 α - プロゲステロン値の従来法・新法での測定値の差異
松本　真明、洪　聖媛、三星　アカリ、尾﨑　佳代
兵庫県立こども病院代謝内分泌科

WP1-3-2　新生児マススクリーニング陰性で、幼児期に診断された非古典型 21 水酸化酵素欠損症の女児例
高橋　楓奈[1]、足立　周平[2]、安藤　悠開[1]、下村　遼太郎[1]、星野　恵美子[1]、櫻井　のどか[1]、平川　賢史[1]、森　俊彦[1]、山岸　卓弥[3]、藤倉　かおり[3]、臼井　健[4,5]、長谷川　奉延[6]
[1]NTT 東日本札幌病院小児科、[2]札幌医科大学医学部小児科学講座、[3]札幌市衛生研究所、[4]静岡県立総合病院リサーチサポートセンター、[5]静岡社会健康医学大学院大学、[6]慶應義塾大学医学部小児科学教室

WP1-3-3　単純男性型 / 非古典型の鑑別が困難な p.R357W/p.E432K 複合型ヘテロ変異を有する 21- 水酸化酵素欠損症の男児例
佐藤　美愛[1]、小林　弘典[2,3]、鞁嶋　有紀[2]、和田　啓介[2]、鬼形　和道[2,4]、長谷川　有紀[1]、藤脇　建久[1]、長谷川　奉延[5]、臼井　健[6,7]、竹谷　健[2]
[1]松江赤十字病院小児科、[2]島根大学医学部小児科、[3]島根大学医学部附属病院検査部、[4]島根大学医学部附属病院卒後研修センター、[5]慶應義塾大学医学部小児科、[6]静岡県立総合病院遺伝診療科、[7]静岡社会健康医学大学院大学

WP1-3-4　21 水酸化酵素欠損症治療における日齢 28 までの体重増加に影響を与える因子の検討
鳴海　宏子[1]、赤星　祥伍[1,2]、池側　研人[1,2]、今野　麻里絵[1]、秋葉　和壽[1,3]、吉崎　加奈子[1,4]、長谷川　行洋[1,5]
[1]東京都立小児総合医療センター内分泌･代謝科、[2]東京都立小児総合医療センター臨床試験科、[3]国立成育医療研究センター分子内分泌研究部、[4]倉敷中央病院小児科、[5]多摩北部医療センター小児科

WP1-3-5　無投薬の非古典型 21-OHD 例におけるトランジション期での副腎機能の再評価の重要性

河辺　泰宏[1]、磯田　賢一[2]、小坂　喜太郎[3]、臼井　健[4,5]、森　潤[1,6]
[1]京都府立医科大学小児科、[2]松下記念病院小児科、[3]コサカ小児科・糖尿病内科医院、
[4]静岡県立総合病院ゲノム医療センター、[5]静岡社会健康医学大学院大学、
[6]大阪市立総合医療センター小児代謝内分泌内科

WP1-3-6　21 水酸化酵素欠損症の男児における低身長の原因について

望月　貴博、西垣　五月
希望の森成長発達クリニック

WP1-3-7　無月経を主訴に受診し、高血圧から診断に至った 17 α水酸化酵素欠損症 /17,20 リアーゼ欠損症の 1 例

川嶋　明香、武蔵　尭志、島　彦仁、鈴木　大、菅野　潤子
東北大学大学院医学系研究科小児病態学分野

WP1-3-8　尿中ステロイドプロフィル解析を契機とし 17 α水酸化酵素欠損症と診断した 46,XY DSD 症例

大高　幸之助[1]、増永　陽平[2]、本間　桂子[3]、長谷川　奉延[4]、増井　洋子[5]、谷川　渉[1]、遠藤　彰[1]
[1]磐田市立総合病院小児科、[2]浜松医科大学小児科、[3]慶應義塾大学病院臨床検査科、
[4]慶應義塾大学医学部小児科、[5]磐田市立総合病院看護部

web ポスター発表 4　性分化疾患（クラインフェルター症候群を含む）

Ⓛ Ⓞ

11 月 1 日（火）17：05 ～ 18：00　Zoom ブレイクアウトルーム　（web ポスター発表 4 会場）

座長　安藏　慎（東京都立大塚病院小児科）
　　辻　敦美（国立研究開発法人国立成育医療研究センター研究所システム発生・再生医学研究部）

WP1-4-1　全血 1 μ L で *SRY* 遺伝子の有無を確認し、性別決定の一助とした非定型外性器を有する低出生体重児の一例

水野　泰昭[1]、佐藤　武志[1,2]、志村　和浩[1,2]、石井　智弘[1,2]、長谷川　奉延[1,2]
[1]慶應義塾大学医学部小児科学教室、[2]慶應義塾大学病院性分化疾患センター

WP1-4-2　判別不明性器を有した prune belly syndrome の一例

木村　美輝、福嶋　真依、池田　麻衣子、伊藤　早苗、井澤　雅子
あいち小児保健医療総合センター

WP1-4-3　DAX1 を含む Xp22.2-11.23 領域の重複でてんかんや腎尿路奇形を生じた 46,XY complete gonadal dysgenesis の 1 例

上原　健史[1]、滝崎　奈穂[1]、籏生　なおみ[1]、水谷　陽貴[1]、花川　純子[1]、後藤　知英[2]、室谷　浩二[1]
[1]神奈川県立こども医療センター内分泌代謝科、[2]神奈川県立こども医療センター神経内科

WP1-4-4　Down 症候群が疑われ偶発的に診断された XY, DSD の 2 例

池田　麻衣子、福嶋　真依、木村　美輝、伊藤　早苗、井澤　雅子、濱島　崇
あいち小児保健医療総合センター内分泌代謝科

WP1-4-5　原発性無月経を契機に診断された SRY 遺伝子異常症の 15 歳社会的女性の 1 例

成田　知聡[1]、三森　愛美[1]、西村　拓朗[2]、滝口　真末[2]、松村　優子[3]、志村　和浩[4]、神保　圭佑[1]、尾崎　理恵[3]、春名　英典[1]、鳴海　覚志[4]、田久保　憲行[1]、石井　智弘[4]、長谷川　奉延[4]、清水　俊明[2]
[1]順天堂大学小児科、[2]順天堂大学医学部医学研究科小児思春期発達・病態学、
[3]順天堂大学産婦人科、[4]慶應義塾大学小児科

WP1-4-6　複雑な外性器異常を呈したクラインフェルター症候群の一例

川上　優吾[1,2]、澤野　堅太郎[1]、柴田　奈央[1]、長谷川　聡[2]、長崎　啓祐[1]
[1]新潟大学医歯学総合病院小児科、[2]新潟県立新発田病院

WP1-4-7　外性器異常を契機に診断されたクラインフェルター症候群の 1 例

上村　美季[1]、宇根岡　紗希[1,2]、目黒　美結[1]、田山　耕太朗[1]、酒井　秀行[1]、渡邉　浩司[1]、
渡邊　庸平[1]、大沼　良一[1]、千葉　洋夫[1]、菅野　潤子[2]、久間木　悟[1]
[1] 国立病院機構仙台医療センター、[2] 東北大学病院小児科

WP1-4-8　思春期早発症を契機に前縦隔腫瘍が発見された Klinefelter 症候群の男児例

長沼　純子、小山　さとみ、佐藤　雄也、吉原　重美
獨協医科大学小児科学

web ポスター発表 5　1 型糖尿病：CGM・CSII

Ⓛ⓪

11 月 1 日（火）17：05 ～ 18：15　Zoom ブレイクアウトルーム　（web ポスター発表 5 会場）

座長　數川　逸郎（千葉県こども病院内分泌科）
　　布川　香織（鎌倉療育医療センター小さき花の園小児科）

WP1-5-1　治療前に低血糖をきたした 1 型糖尿病症例に対するインスリン治療 - 持続血糖測定による評価 -

端　里香、津山　美穂、末廣　友里、雨皿　千鶴、田中　俊光、鳥越　史子、竹原　歩、
山内　惇、甲斐　昌彦、沖永　剛志
ベルランド総合病院

WP1-5-2　当院における Dexcom G4 から G6 への変更前後における CGM データ解析

庄司　夕季乃、成瀬　裕紀、森　雅人、平本　龍吾
松戸市立総合医療センター小児科

WP1-5-3　小児 1 型糖尿病における Dexcom G4 と Dexcom G6 の臨床的有用性に関する比較研究

浦上　達彦[1,2]、桑原　怜未[1]、寺田　啓輝[1]、峯　佑介[1]、青木　政子[1]、庄司　保子[1]、
鈴木　潤一[1]、森岡　一朗[1]
[1] 日本大学医学部小児科学系小児科学分野、[2] 浦上小児内分泌・糖尿病クリニック

WP1-5-4　HbA1c と推定 A1c に乖離があったインスリンポンプによる治療中の 1 型糖尿病患児の一例

浦田　芽久美[1]、橘田　一輝[2]、大津　成之[3]、石倉　健司[2]
[1] 北里大学メディカルセンター小児科、[2] 北里大学医学部小児科学、[3] 中野島糖尿病クリニック

WP1-5-5　ミニメド 770G システム「スマートガードオートモード」を導入した 1 型糖尿病 2 例の臨床経過と今後の課題

多久　葵[1]、河田　泰定[1]、小川　将人[1]、齋藤　玲子[2]、山本　幸代[3]
[1] 九州労災病院小児科、[2] 産業医科大学医学部小児科学教室、
[3] 産業医科大学医学部医学教育担当教員

WP1-5-6　小児 1 型糖尿病患者におけるハイブリッドクローズドループシステムの使用経験

神野　和彦、壷井　史奈、谷　博雄、小野　浩明
県立広島病院小児科

WP1-5-7　当科の小児 1 型糖尿病患者 13 例のパッチ式インスリンポンプの使用経験

沼沢　慶太、北尾　牧子、志賀　健太郎
横浜市立大学附属市民総合医療センター

WP1-5-8　インスリンポンプ治療中の 1 型糖尿病患児の不安度と満足度，COVID-19 流行の影響に関するアンケート調査

大津　義晃[1]、須田　峻平[1]、島田　正晴[1]、濱嶋　恵美[1]、大澤　好充[1]、齊藤　詩織[2]、
石山　あかね[2]、黒川　佳小里[2]、須田　まり子[2]、滝沢　琢己[1]
[1] 群馬大学大学院医学系研究科小児科学、[2] 群馬大学医学部附属病院看護部

webポスター発表６　先天性高インスリン血症・新生児糖尿病・MODY

Ⓛ⓪

11月1日（火）17：05～18：15　Zoomブレイクアウトルーム　（webポスター発表6会場）

座長　鈴木　滋（旭川医科大学小児科）
吉井　啓介（国立成育医療研究センター内分泌・代謝科）
依藤　亨（伊達赤十字病院第二内科部）

WP1-6-1　新生児仮死における一過性高インスリン血症のリスクは胎児発育不全の合併例である
山内　建[1]、杉江　学[1,2]、酢谷　明人[3]、白井　謙太朗[1]、高澤　啓[2]、森丘　千夏子[2]、鹿島田　健一[2]
[1]総合病院土浦協同病院新生児科、[2]東京医科歯科大学大学院発生発達病態学分野、[3]川口市立医療センター小児科

WP1-6-2　臨床症状に差異を認める高インスリン性高アンモニア血症症候群の一卵性双胎例
花川　純子、水谷　陽貴、籏生　なおみ、上原　健史、滝崎　奈穂、室谷　浩二
神奈川県立こども医療センター内分泌代謝科

WP1-6-3　フラッシュグルコースモニタリングで低血糖管理した先天性高インスリン血症の３例
Ⓛのみ
高橋　侑利、松岡　尚史、數間　貴紀、大谷　智子
東京女子医科大学附属足立医療センター

WP1-6-4　リアルタイム持続血糖モニタリングにより綿密な血糖管理が可能となった先天性高インスリン血症の新生児例
木島　英美[1]、山内　建[1]、高瀬　千尋[1]、宮原　宏幸[1]、中谷　久恵[3]、白井　謙太朗[2]、杉江　学[3]、近藤　乾[1]、高澤　啓[3]、渡辺　章充[2]、鹿島田　健一[3]
[1]総合病院土浦協同病院新生児科、[2]総合病院土浦協同病院小児科、[3]東京医科歯科大学大学院発生発達病態学分野

WP1-6-5　一過性新生児糖尿病におけるインスリン治療の中止指標について
境　里彩[1]、菊池　信行[1]、安井　正貴[1]、古谷　智子[1]、西　大介[1]、中村　由里[2]、竹内　秀輔[2]、堀口　晴子[1]
[1]横浜労災病院小児科・新生児内科、[2]筑波大学附属病院小児科

WP1-6-6　膵低形成による新生児糖尿病の治療戦略
足立　夏帆、五十嵐　瑞穂、鹿島　健幹、土井　響、松浦　未紗、上原　絵理香、永田　知裕、太田　知子、吉井　啓介、内木　康博、堀川　玲子
国立成育医療研究センター内分泌代謝科

WP1-6-7　*GCK* および *HNF1A* 遺伝子にヘテロ変異を同定した若年発症成人型糖尿病
渡邊　大輔、矢ヶ崎　英晃、牧野　耕一、齋藤　朋洋、三井　弓子、小林　基章、太田　正法、犬飼　岳史
山梨大学医学部小児科

WP1-6-8　SU薬の追加治療としてSGLT2阻害薬が有効であったHNF4A-MODYの一例
鈴木　滋、國米　崇秀、古谷　曜子、高橋　悟
旭川医科大学小児科

WP1-6-9　インスリン初期分泌低下・分泌遅延はMODY2診断の契機となる
安達　恵利子[1]、中谷　久恵[1]、辻　敦美[2]、松原　洋平[3]、高澤　啓[1]、依藤　亨[4]、鹿島田　健一[1]、森尾　友宏[1]
[1]東京医科歯科大学附属病院発生発達病態学分野、[2]国立成育医療研究センター研究所システム発生・再生医学研究部、[3]JR東京総合病院小児科、[4]伊達赤十字病院第二内科部

WP1-6-10　インスリン治療後に網膜症が悪化したMODY2の１例
菊池　信行[1,2]
[1]横浜労災病院、[2]HECサイエンスクリニック

WP1-6-11　HNF1B遺伝子異常を有し成長ホルモン製剤の使用の判断に迷う慢性腎不全患者２症例
小山　紀子、塩穴　真一、川口　直樹、岩松　浩子、岡成　和夫、原　卓也
大分県立病院小児科

webポスター発表７　肥満・やせ・脂質代謝

Ⓛ⓪

11月1日（火）17：05～18：10　Zoomブレイクアウトルーム　（webポスター発表７会場）

座長　小川　洋平（新潟大学医歯学総合病院小児科）
　　金城　さおり（沖縄県立中部病院小児科）
　　花木　啓一（鳥取大学医学部保健学科母性・小児家族看護学）

WP1-7-1　極低出生体重児の９歳時肥満度を予測する因子の解析
Ⓛのみ
齋藤　朋洋[1]、成澤　宏宗[2]、渡邊　大輔[2]、牧野　耕一[2]、矢ヶ崎　英晃[2]、根本　篤[3]、内藤　敦[3]、望月　美恵[2]、佐藤　和正[2]、佐野　友昭[2]、小林　浩司[2]、太田　正法[2]
[1]山梨県立中央病院小児科、[2]山梨大学医学部小児科、[3]山梨県立中央病院新生児内科

WP1-7-2　子どもの肥満改善に対する母親のモチベーションについて
曲渕　翔[1,2]、向笠　理緒[3]、徳田　智代[4]、八ツ賀　秀一[3,5]
[1]心のクリニック・飯塚、[2]久留米大学病院精神神経科カウンセリングセンター、
[3]久留米大学小児科、[4]久留米大学文学部、[5]福岡大学小児科

WP1-7-3　小児肥満外来診療での１年間の継続した行動療法は、肥満改善に有用である
菊池　透
埼玉医科大学病院小児科

WP1-7-4　思春期のメタボリックシンドロームの２症例
金城　さおり、又吉　慶
沖縄県立中部病院小児科

WP1-7-5　体重回復後に成長ホルモン分泌不全性低身長症と診断し，補充療法で良好な経過を辿る神経性やせ症の一女児例
山口　将邦、小針　靖子、高野　洋子
伊勢崎市民病院小児科

WP1-7-6　やせからの回復期にヨウ素過剰による甲状腺機能低下症を呈した摂食障害の15歳女児例
糸永　知代、松田　史佳、前田　美和子、井原　健二
大分大学医学部小児科

WP1-7-7　COVID-19流行下に小児内分泌外来を紹介受診し，摂食障害（神経性やせ症）と診断した３例
滝島　茂[1,2]、東　夏未[1]、山野　春樹[1,2]、佐藤　薫[1]、松田　希[1]、鹿島田　健一[2]、長谷川　毅[1]
[1]草加市立病院診療部小児科、
[2]東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科発生発達病態学（小児科）

WP1-7-8　COVID-19のパンデミック発生後に入院を要した摂食障害の症例検討
山本　晶子、小松　なぎさ
熊本中央病院小児科

WP1-7-9　体重増加不良の乳児と家族性高コレステロール血症の幼児における脂質異常の病態
門脇　弘子[1,2]、黒澤　照喜[2]、井田　孔明[2]
[1]山王病院小児科、[2]帝京大学溝口病院小児科

WP1-7-10　偶発的に重症高TG血症に気づかれたLPL片アレル変異保有者の乳児例
岡島　道子[1]、神川　愛純[1]、伊川　泰広[1]、和田　泰三[1]、多田　隼人[2]
[1]金沢大学附属病院小児科、[2]金沢大学附属病院循環器内科

webポスター発表８　甲状腺：バセドウ病・機能亢進症

Ⓛ⓪

11月1日（火）17：05～18：10　Zoomブレイクアウトルーム　（webポスター発表8会場）

座長　岩山　秀之（愛知医科大学小児科）
　　河田　泰定（九州労災病院小児科）
　　宮田　市郎（東京慈恵会医科大学小児科学講座）

WP1-8-1　二次性夜尿を契機に発症したバセドウ病の１例
岡田　拓巳[1]、山本　晶子[2]、小松　なぎさ[2]
[1]くまもと県北病院、[2]熊本中央病院

WP1-8-2　自殺企図で甲状腺機能亢進症が明らかとなった13歳女子
畑　七海、伊藤　早苗、玉木　鷹志、青山　里穂、松本　一希、伊藤　祥絵、
松岡　佐知、市川　瑞穂、木村　量子、西川　和夫、長谷川　正幸、星野　伸
名古屋掖済会病院小児科

WP1-8-3　１型糖尿病とバセドウ病が同時に診断されたが、バセドウ病発症は数年以上前であったことが示唆された１例
秋山　希、大呂　陽一郎、平田　和裕、津村　茉那、徳竹　晴香、高山　早紀、
渡邉　一寿、山本　雅紀、金子　幸栄、松林　正
聖隷浜松病院小児科

WP1-8-4　バセドウ病を合併した甲状腺乳頭癌の一小児例
Ⓛのみ
香川　礼子[1]、武内　香菜子[1]、内海　孝法[1]、坂田　園子[1]、川口　浩史[1]、濱本　隆夫[2]、
村上　祐司[3]、岡田　賢[1]
[1]広島大学病院小児科、[2]広島大学病院耳鼻咽喉科頭頸部外科、[3]広島大学病院放射線治療科

WP1-8-5　甲状腺機能亢進症、甲状腺機能低下症を反復したバセドウ病　10歳男児
野村　安隆、柴田　幸穂、西林　優、岡田　英徳、榊　辰也、西川　和希、白石　恵、
三谷　一樹、難波　かほり、天満　祐貴、原田　太郎、新居　敏、中道　恵里那、大部　聡、
安西　香織、肥田　晋矢、竹川　麻衣、坂本　晴子、葭井　操雄、藤野　寿典
大阪赤十字病院小児科

WP1-8-6　抗甲状腺剤により無顆粒球症を発症し、甲状腺機能管理に多剤併用を要した小児Basedow病の１例
伊藤　順庸、犀川　太
金沢医科大学医学部小児科

WP1-8-7　成人身長まで観察し得た小児Graves病の３例
大川　聖子、鈴木　貴大、池側　研人、長谷川　行洋
東京都立小児総合医療センター内分泌・代謝科

WP1-8-8　出生直後より重度の甲状腺機能低下が遷延したバセドウ病母体児の１例
堀　友博[1,2,3]、栃洞　早帆[1,2]、森　真以[1,2]、松本　英樹[1,2]、大塚　博樹[1,2,3]、笹井　英雄[1,2,3]、
伊藤　裕子[1,2]、笠原　由貴子[1,2]、川本　典生[1,2]、大西　秀典[1,2,3]
[1]岐阜大学大学院医学系研究科小児科学、[2]岐阜大学医学部附属病院新生児集中治療部、
[3]岐阜大学医学部附属病院ゲノム疾患・遺伝子診療センター

WP1-8-9　バセドウ病母体から出生した甲状腺機能低下症のSGA児の一例
浦島　真由美、島田　里美、坂田　佑理恵、吉浦　真登、樋口　直弥、大串　栄彦、
西川　小百合、在津　正文
NHO嬉野医療センター小児科

WP1-8-10　TSHR遺伝子に機能獲得型変異を認めた家族性非自己免疫性甲状腺機能亢進症の１家系
松本　英樹[1]、堀　友博[1,2]、森　真以[1]、三輪　友紀[1]、大塚　博樹[1,2]、笹井　英雄[1,2]、
久保田　一生[1,2]、小関　道夫[1]、川本　典生[1]、大西　秀典[1,2]
[1]岐阜大学大学院医学系研究科小児科学、
[2]岐阜大学医学部附属病院ゲノム疾患・遺伝子診療センター

webポスター発表９　副甲状腺機能低下症・偽性副甲状腺機能低下症・カルシウムビタミンＤ

Ⓛ⓪

11月1日（火）17：05～18：15　Zoomブレイクアウトルーム　（webポスター発表9会場）

座長　磯島　豪（虎の門病院小児科）
久保　俊英（独立行政法人国立病院機構岡山医療センター小児科）
高谷　里依子（千葉大学予防医学センター）

WP1-9-1　新生児期に低Mg血症による痙攣を発症したHDR症候群の1男児例
兼次　拓也、名嘉山　賀子、當山　真紀、仲村　貞郎、知念　安紹、中西　浩一
琉球大学大学院医学研究科育成医学（小児科）講座

WP1-9-2　CHARGE症候群に副甲状腺機能低下症を合併した11歳男児
佐々木　聡子、古賀　信彦、笹岡　大記、児島　加奈子、八ツ賀　秀一、永光　信一郎
福岡大学医学部小児科

WP1-9-3　無熱性けいれんで診断に至った偽性副甲状腺機能低下症の1男子例
西村　拓朗[1,2]
[1]順天堂大学大学院医学研究科小児思春期発達・病態学、[2]神栖済生会病院小児科

WP1-9-4　48歳時に遺伝子診断された偽性副甲状腺機能低下症1bの1例
勝島　由利子[1]、勝島　矩子[1]、勝島　史夫[1]、川嶋　明香[2]、原　香織[2]、鏡　雅代[2]、深見　真紀[2]
[1]医療法人勝島小児科医院、[2]国立成育医療センター分子内分泌研究部

WP1-9-5　偽性副甲状腺機能低下症1aの日本人患者の乳児期における体格的特徴
小松　理瑛子[1]、天野　直子[1]、草野　知江子[2]、堀　尚明[2]、佐藤　泰憲[3]、石井　智弘[4]、長谷川　奉延[4]
[1]さいたま市立病院小児科、[2]SUBARU健康保険組合太田記念病院小児科、
[3]慶應義塾大学医学部衛生学公衆衛生学教室、[4]慶應義塾大学医学部小児科

WP1-9-6　偽性副甲状腺機能低下症1a型、1b型における乳児期BMIの変動
池谷　紀衣子[1]、坊　亮輔[1]、洪　聖媛[2]、南部　静紀[1]、冨岡　和美[1]、尾﨑　佳代[2]、粟野　宏之[1]
[1]神戸大学医学部附属病院、[2]兵庫県立こども病院

WP1-9-7　遷延する新生児高カルシウム血症を契機に家族性低カルシウム尿性高カルシウム血症と診断した一例
中村　幸恵、矢田　ゆかり、河野　由美、田島　敏広
自治医科大学小児科

WP1-9-8　小児急性骨髄性白血病で低リン血症から低カルシウム血症に移行した1例
木原　牧子[1]、數川　逸郎[1]、柴　康弘[1]、阿部　茉衣子[1]、山本　紘子[1]、皆川　真規[1]、安藤　久美子[2]
[1]千葉県こども病院内分泌科、[2]千葉県こども病院血液腫瘍科

WP1-9-9　完全母乳栄養既往を背景とした重症ビタミンＤ欠乏症の男児例
小堀　ほたる、中村　千鶴子、師田　悠、柴崎　拓実、原　洋祐、松浦　宏樹、水野　史
信州大学医学部小児医学教室

WP1-9-10　人工乳による栄養中に、けいれんにて発症したビタミンＤ欠乏症の一例
角田　朋大[1]、津田　晃三[2]、谷口　洋平[1]、にえ川　智美[1]、李　知子[1]、奥野　美佐子[1]、竹島　泰弘[1]
[1]兵庫医科大学小児科学、[2]市立伊丹病院

WP1-9-11　神経疾患を疑われたビタミンＤ依存性くる病1A型の一例
村中　あかり[1]、沼倉　周彦[1,2]、三井　哲夫[1]
[1]山形大学医学部付属病院小児科、[2]埼玉医科大学病院ゲノム医療科小児科

webポスター発表10　低ホスファターゼ症・FGF23関連低リン血症性くる病

Ⓛ⓪

11月1日（火）17：05～18：15　Zoomブレイクアウトルーム　（webポスター発表10会場）

座長　石井　玲（札幌医科大学小児科学講座）
尾﨑　佳代（兵庫県立こども病院代謝内分泌科）
北岡　太一（大阪大学大学院医学系研究科小児科学）

WP1-10-1　日本人新生児の出生時血清アルカリフォスファターゼ基準値の作成
原　康一郎[1]、長野　伸彦[1]、田邉　聡美[2]、青木　政子[1]、青木　亮二[1]、森岡　一朗[1]、庄司　保子[1]
[1]日本大学医学部附属板橋病院、[2]日本大学病院

WP1-10-2　医科から歯科へ連携を行った成人歯限局型低ホスファターゼ症
蜂屋　瑠見[1]、阪本　えりか[1]、野村　武史[2]、野間　智子[3]、野間　歌子[3]、鴇田　みゆき[3]、志村　和浩[4]、西村　玄[5]、佐々木　悟郎[1]、福島　裕之[1]、長谷川　奉延[4]
[1]東京歯科大学市川総合病院小児科、[2]東京歯科大学市川総合病院歯科・口腔外科、[3]のま歯科クリニック、[4]慶應義塾大学医学部小児科学教室、[5]武蔵野陽和会病院放射線科

WP1-10-3　骨病変を認めないが血清ALP低値から低ホスファターゼ症を疑った低身長の4歳女児例
小山　さとみ[1]、鈴村　宏[1]、長沼　純子[1]、竹谷　健[2]、吉原　重美[1]
[1]獨協医科大学小児科学、[2]島根大学医学部小児科

WP1-10-4　重症度の異なる低ホスファターゼ症の兄妹例における酵素補充療法による治療経過
菅野　潤子[1]、中川　智博[1]、川嶋　明香[1]、曽木　千純[1]、島　彦仁[1]、道上　敏美[2]、藤原　幾磨[3]
[1]東北大学大学院医学系研究科発生・発達医学講座小児病態学分野、[2]大阪母子医療センター研究所骨発育疾患研究部門、[3]仙台市立病院小児科

WP1-10-5　当院で経験した低ホスファターゼ症6例の検討
三浦　希和子[1]、徳永　美奈子[1]、関　祐子[1]、森田　智[1]、溝田　美智代[1]、辻井　利弥[2]、奥　陽一郎[2]、佐藤　秀夫[2]、山崎　要一[2]
[1]鹿児島大学病院小児科、[2]鹿児島大学病院小児歯科

WP1-10-6　抗Asfotase alfa製剤抗体による症状増悪が疑われた周産期重症型低ホスファターゼ症の一例
石井　玲[1,2]、鎌崎　穂高[1]、三木　芳織[1,2]、富樫　篤生[1,2]、佐藤　俊哉[2]
[1]札幌医科大学小児科学講座、[2]岩見沢市立病院小児科

WP1-10-7　ブロスマブ使用中のFGF23関連低リン血症性くる病の双子例
岩瀬　孝志[1]、若林　誉幸[1]、井上　依里[1]、日下　隆[1]、岡田　仁[2]
[1]香川大学医学部附属病院、[2]香川県立保健医療大学臨床検査部

WP1-10-8　右上腕骨に嚢胞性骨変化を認めたFGF23関連低リン血症性くる病の8歳女児例
岩佐　真実[1]、石井　玲[2]、小原　敏生[1]、木原　美奈子[1]、石原　舞[2]、鎌崎　穂高[2]、村橋　靖崇[3]、大幡　泰久[4]、窪田　拓生[4]、大薗　恵一[4]
[1]苫小牧市立病院、[2]札幌医科大学小児科、[3]札幌医科大学整形外科、[4]大阪大学大学院医学系研究科小児科学

WP1-10-9　FGF23関連低リン血症性くる病の診断時期の違いについて
伊藤　歩惟、和田　泰格、赤坂　真奈美
岩手医科大学小児科

WP1-10-10　*PHEX*遺伝子の重複を有する頭蓋縫合早期癒合症を呈したX連鎖性低リン血症性くる病の1例
山田　知絵子[1]、窪田　拓生[1]、石見　壮史[1]、武鑓　真司[1]、山本　賢一[1]、中山　尋文[1]、大幡　泰久[1]、藤原　誠[1,2]、北岡　太一[1]、香川　尚己[3]、大薗　恵一[1]
[1]大阪大学大学院医学系研究科小児科学、[2]大阪大学大学院歯学研究科口腔外科第一教室、[3]大阪大学大学院医学系研究科脳神経外科学

WP1-10-11　骨端線閉鎖期周辺の低リン血症性くる病に対するBurosumab治療の効果
田中　弘之、赤穂　由希子、野口　佳江、喜多村　哲朗
岡山済生会総合病院小児科

Ⓛ⓪

11月1日（火）17：05～18：10　Zoomブレイクアウトルーム　（webポスター発表11会場）

座長　箱田　明子（ＪＲ仙台病院小児科）
松原　圭子（国立成育医療研究センター分子内分泌研究部）
丸尾　良浩（滋賀医科大学小児科）

WP1-11-1　小児内分泌外来における診察時間の考察と疾患別・診療内容との比較

岩淵　敦[1,2]、穂坂　晶子[2,3]、玉井　香菜[2,4]、篠原　宏之[2,5]、八牧　愉二[2]、高田　英俊[1,2]
[1]筑波大学医学医療系小児科、[2]筑波大学附属病院小児科、[3]筑波学園病院小児科、
[4]総合守谷第一病院小児科、[5]茨城西南医療センター病院小児科

WP1-11-2　血清Na・Cl値からケトーシスを認識できるか？

篠原　宏行、七五三　美智留、藤田　節、畑野　舞子、嶽下　洋平、石川　伸行、
小嶋　靖子、長谷川　誠
茨城西南医療センター病院小児科

WP1-11-3　MEN1遺伝子検査後も診断未開示であった小児への遺伝カウンセリングの経験

堀田　純子[1,2]、馬場　遥香[1]、酒井　恵利[1]、小野　智愛[1]、浄弘　裕紀子[1]、中道　龍哉[2]、
小田桐　紫野[2]、濱崎　考史[2]、瀬戸　俊之[1,2]
[1]大阪公立大学大学院医学研究科臨床遺伝学、[2]大阪公立大学大学院医学研究科発達小児医学

WP1-11-4　低血糖と嘔吐を繰り返すダンピング様症状と下垂体機能低下を呈したX連鎖性Joubert症候群の乳児例

島田　正晴、須田　峻平、濱嶋　恵美、大澤　好充、大津　義晃、滝沢　琢己
群馬大学大学院医学系研究科小児科学

WP1-11-5　低身長を契機に診断に至ったFGD1遺伝子新規病的変異のAarskog-Scott症候群の兄弟例

小山　千嘉子[1,2]、髙橋　郁子[1]、近藤　大喜[1,3]、大高　新[1]、野口　篤子[1]、山田　茉未子[4]、
小崎　健次郎[4]、高橋　勉[1]
[1]秋田大学大学院医学系研究科小児科学講座、[2]大曲厚生医療センター、
[3]秋田厚生医療センター、[4]慶應義塾大学医学部臨床遺伝学センター

WP1-11-6　当科で経験したAarskog-Scott症候群の特徴

山本　賢一[1,2]、大幡　泰久[1]、武鑓　真司[1]、中野　由佳子[1]、藤原　誠[1,3]、北岡　太一[1]、
窪田　拓生[1]、大薗　恵一[1]
[1]大阪大学大学院医学系研究科小児科、[2]大阪大学大学院医学系研究科遺伝統計学、
[3]大阪大学大学院歯学研究科口腔外科第一教室

WP1-11-7　HRAS遺伝子に新規ミスセンスバリアント（p.Gly13Ala）を同定した軽症Costello症候

川村　遥[1]、本川　未都里[1]、二里　茉莉[1]、浦川　立貴[1]、伊達木　澄人[1]、後藤　悠輔[2]、
青木　洋子[2]
[1]長崎大学病院小児科、[2]東北大学大学院医学系研究科遺伝医療学分野

WP1-11-8　McCune-Albright症候群の三徴を呈した結節性硬化症の２歳女児例

小林　弘典[1,2]、佐藤　美愛[2]、佐々木　眞優[2]、秋好　瑞希[3]、和田　啓介[2]、中嶋　滋記[2]、
鞍嶋　有紀[2]、鬼形　和道[4]、岡西　徹[5]、竹谷　健[2]
[1]島根大学医学部附属病院検査部、[2]島根大学医学部小児科、[3]松江赤十字病院小児科、
[4]島根大学医学部附属病院卒後研修センター、[5]鳥取大学医学部脳神経小児科

WP1-11-9　甲状腺機能亢進症状を契機に診断に至ったMcCune-Albright症候群の男児例

箱田　明子、西井　亜紀
JR仙台病院小児科

WP1-11-10　肝移植後の蛋白漏出性胃腸症に対しオクトレオチド治療を行ったPOLG変異ミトコンドリア枯渇症候群の１例

壷井　史奈[1]、宇都宮　朱里[1]、郷田　聡[1]、谷　博雄[1]、小野　浩明[1]、岡本　竜弥[2]、
亀井　尚美[3]、大津　一弘[3]、神野　和彦[1]
[1]県立広島病院小児科、[2]京都大学医学部附属病院小児外科、[3]県立広島病院小児外科

webポスター発表 12　低身長・成長ホルモン治療

Ⓛ⓪

11月2日（水）18：00～19：30　Zoomブレイクアウトルーム　（webポスター発表12会場）

座長　朝倉　由美（神奈川県立こども医療センター）
岡島　道子（金沢大学附属病院小児科）
佐藤　真理（東邦大学医療センター大森病院小児科）
八ツ賀　秀一（福岡大学小児科）

WP2-12-1　周期性嘔吐症を呈した成長ホルモン分泌不全性低身長症の男児例
今田　寛[1]、櫻井　彩子[2]、高谷　具純[1]、濱田　洋通[1]
[1]千葉大学医学部附属病院小児科、[2]成田赤十字病院小児科

WP2-12-2　軽度亜鉛欠乏に対して亜鉛投与で著明に成長率が改善した原因不明の成長障害の1例
高宮　聖実[1]、磯島　豪[2]、佐藤　恭弘[1]、遠海　重裕[1]、三牧　正和[1]、望月　大史[1]
[1]帝京大学医学部小児科、[2]虎ノ門病院

WP2-12-3　低身長の精査を契機にみつかったムコ多糖症IVA型の3歳男児
北岡　太一[1]、武鑓　真司[1]、石見　壮史[1]、山本　賢一[1]、藤原　誠[1]、大幡　泰久[1]、
窪田　拓生[1]、高谷　竜三[2]、大薗　恵一[1]
[1]大阪大学大学院医学系研究科小児科学、[2]大阪府済生会茨木病院小児科

WP2-12-4　酵素補充療法下ムコ多糖症VI型における低身長に関する内分泌学的考察
古城　真秀子、藤原　進太郎、江渕　有紀、樋口　洋介、久保　俊英
岡山医療センター

WP2-12-5　症候性低血糖の精査から診断した成長ホルモン分泌不全症の幼児例
川島　諒也、原田　大輔、上山　薫、石浦　嘉人、山田　寛之、柏木　博子、
清野　佳紀
地域医療機能推進機構（JCHO）大阪病院小児科

WP2-12-6　甲状腺機能正常の橋本病の経過観察中に認めた成長ホルモン分泌不全
多久和　麻由子、高桑　聖
兵庫県立西宮病院小児科

WP2-12-7　成長ホルモン補充療法中に甲状腺機能亢進症（バセドウ病）を発症した成長ホルモン分泌不全性低身長症の2例
Ⓛのみ
岡田　満[1]、宮原　由紀[2]、杉本　圭相[2]
[1]近畿大学医学部関西国際空港クリニック、[2]近畿大学医学部小児科

WP2-12-8　中隔視神経形成異常症患児の成長、発達に成長ホルモンが有用であった1例
木下　香[1]、諏訪部　信一[1]、石田　智己[2]
[1]国保直営総合病院君津中央病院小児科、[2]国保直営総合病院君津中央病院新生児科

WP2-12-9　肝障害とgrowth without GHを呈し、胚細胞腫治療後のGH治療により肝障害が改善した1例
荒木　まり子、西本　由佳、藤枝　幹也
高知大学医学部小児思春期医学

WP2-12-10　成長ホルモン治療による腹部CT所見の変化を観察し得た脳腫瘍治療後重症成長ホルモン分泌不全症の2例
阿部　茉衣子、數川　逸郎、鮎田　香子、木原　牧子、山本　紘子、柴　康弘、
皆川　真規
千葉県こども病院内分泌科

WP2-12-11　成長ホルモン治療が有効であったX染色体長腕欠失の2症例
峯岸　理恵子[1]、池側　研人[1]、長谷川　行洋[1,2]
[1]東京都立小児総合医療センター、[2]多摩北部医療センター小児科

WP2-12-12　胎児アルコール症候群にSGAとしてGH治療を行った1例
Ⓛのみ
古賀　信彦、児島　加奈子、笹岡　大記、佐々木　聡子、八ツ賀　秀一、永光　信一郎
福岡大学病院

WP2-12-13　SGA 性低身長症 GH 治療におけるインスリン抵抗性変化は経口ブドウ糖負荷試験でより明らかになる

武者　育麻[1,2]、川名　宏[1]、近藤　聡美[1]、赤塚　淳弥[1]、沼倉　周彦[1,2]、大竹　明[1,2]、雨宮　伸[1]、菊池　透[1]
[1]埼玉医科大学病院小児科、[2]埼玉医科大学病院ゲノム医療科

WP2-12-14　小児成長ホルモン治療のアドヒアランス認識に関する医師と保護者への Web アンケート調査結果
Ⓛのみ

嶋　大輔[1]、佐藤　貴洋[1]、庄子　栄美[1]、ロプレスティ　マイケル[2]、西　亮祐[2]、赤沢　学[3]
[1]ファイザー株式会社、[2]株式会社インテージヘルスケア、[3]明治薬科大学

web ポスター発表 13　副腎：グルココルチコイド・Cushing 症候群・医原性 Cushing 症候群

Ⓛ⓪

11 月 2 日（水）18：00 ～ 19：00　Zoom ブレイクアウトルーム　（web ポスター発表 13 会場）

座長　井澤　雅子（あいち小児保健医療総合センター内分泌代謝科）
棚橋　祐典（市立稚内病院小児科）
長谷川　真理（奈良県立医科大学小児科）

WP2-13-1　当院 ER からの入院症例の血清コルチゾール値と血糖値について

末岡　秀文[1]、赤星　祥伍[1,2]、長谷川　行洋[1,3]
[1]東京都立小児総合医療センター内分泌･代謝科、[2]東京都立小児総合医療センター臨床試験科、[3]多摩北部医療センター小児科

WP2-13-2　尿中遊離コルチゾール値による重度ストレスに対する副腎の反応性の評価

田中　裕之、林　健一郎、松井　彦郎、加藤　元博
東京大学医学部附属病院小児科

WP2-13-3　成獣雄マウスでは、グルココルチコイド欠乏が続いても精巣によるグルココルチコイド合成能代償が働かない

水野　裕介[1,2]、石井　智弘[2]、長谷川　奉延[2]
[1]済生会宇都宮病院小児科、[2]慶應義塾大学医学部小児科学教室

WP2-13-4　長期にわたる高コルチゾール血症により意識障害が惹起された Cushing 病の一例

四宮田　悠、青木　政子、山瀬　聡一、寺田　啓輝、山田　隆太郎、川口　忠恭、武藤　智和、田邉　聡美、峯　佑介、桃木　恵美子、石井　和嘉子、鈴木　潤一、庄司　保子、浦上　達彦、森岡　一朗
日本大学医学部小児科学系小児科学分野

WP2-13-5　片側副腎摘出後に一時的な成長改善を得たが、その後再燃を認め両側副腎摘出に至った Cushing 症候群

大串　健一郎、曽根田　瞬、吉村　加代、清水　直樹
聖マリアンナ医科大学小児科

WP2-13-6　5 年間のベタセレミン内服により成長障害および副腎皮質機能不全をきたした女児例 ―警鐘すべき症例―

渡辺　健太[1,2]、沼田　遥[1]、和氣　英一[1]、木村　妙[1]、宮田　市郎[1]
[1]東京慈恵会医科大学小児科学講座、[2]富士市立中央病院小児科

WP2-13-7　デキサメタゾン点鼻薬の長期使用にて医原性 Cushing 症候群を発症した 3 歳男児の 1 例

福原　正太[1]、外園　晃弘[2]、藤田　尚江[1]、生嶋　諒[1]、小西　亮[1]、齋藤　多恵子[1]、冨井　敏弘[1]、東道　公人[1]、小林　奈歩[1]、森岡　茂己[1]、藤井　法子[1]、加納　原[1]
[1]京都第二赤十字病院小児科、[2]国立病院機構舞鶴医療センター小児科

WP2-13-8　ステロイド気管内投与による医原性クッシング症候群をきたした一例
杉浦　愛子[1]、橘　真紀子[1]、井上　泰輔[1]、福田　明子[1]、福井　美穂[1]、大沼　真輔[1]、
福岡　智哉[1]、木村　武司[1]、濱田　悠介[1]、大幡　泰久[1]、成田　淳[1]、窪田　拓生[1]、
荒堀　仁美[1]、田附　裕子[2]、三善　陽子[3]、大薗　恵一[1]
[1]大阪大学大学院医学系研究科小児科学、
[2]大阪大学大学院医学系研究科外科学講座小児成育外科学、
[3]大阪樟蔭女子大学健康栄養学部健康栄養学科

WP2-13-9　小児での医原性副腎機能低下症の回復予測における DHEA-S の有用性の検討
伊藤　早苗、福嶋　真依、木村　美輝、池田　麻衣子、井澤　雅子、濱島　崇
あいち小児保健医療総合センター

web ポスター発表 14　思春期・性腺

Ⓛ Ⓞ

11 月 2 日（水）18：00 ～ 19：00　Zoom ブレイクアウトルーム　（web ポスター発表 14 会場）
座長　太田　正法（都留市立病院小児科）
佐野　伸一朗（静岡県立こども病院内分泌代謝科）
溝田　美智代（今村総合病院小児科）

WP2-14-1　思春期早発を呈した Simpson-Golabi-Behmel 症候群の一例
大高　新[1]、渡辺　圭介[1]、野口　篤子[1]、髙橋　郁子[1]、山田　茉未子[2]、小崎　健次郎[2]、
高橋　勉[1]
[1]秋田大学大学院医学系研究科小児科学講座、[2]慶應義塾大学医学部臨床遺伝学センター

WP2-14-2　ゴナドトロピン依存性思春期早発症状を併発した Wolf-Hirschhorn 症候群の 1 男児例
石井　裕代、長谷川　泰浩、池田　泰之、伊東　英美、眞田　裕一、榊原　杏美、
平野　恭悠、東　純史、木島　衣理、山本　威久
箕面市立病院

WP2-14-3　男児の特発性中枢性思春期早発症 20 例の検討
田邉　裕子、野村　直宏、見浪　実紀、高屋　淳二、金子　一成
関西医科大学小児科学講座

WP2-14-4　リュープロレリン酢酸塩の投与開始後 1 年は血清クレアチニン値が上昇していく
高桑　聖[1]、多久和　麻由子[1]、円山　牧子[2]
[1]兵庫県立西宮病院小児科、[2]兵庫医科大学病院小児科

WP2-14-5　卵巣嚢腫核出術で診断および治療した McCune-Albright 症候群の 1 歳 8 か月女児例
和田　啓介、小林　弘典、小山　千草、鞍嶋　有紀、鬼形　和道、竹谷　健
島根大学小児科

WP2-14-6　GnRH 非依存性思春期早発症で発症し、診断に難渋した混合性胚細胞腫瘍の一例
木村　美輝、福嶋　真依、池田　麻衣子、伊藤　早苗、井澤　雅子
あいち小児保健医療総合センター

WP2-14-7　二次性徴の欠如を契機に診断した新規 CHD7 遺伝子変異を有する CHARGE 症候群の 1 例
谷川　渉、柳瀬　佑馬、竹林　寛史、園田　峻也、櫻井　史紀、大高　幸之助、
平野　恵子、白井　眞美、遠藤　彰
磐田市立総合病院小児科

WP2-14-8　先天性肝線維症に伴う続発性門脈体循環シャントに合併した高テストステロン血症の女児例
鈴木　敦詞[1]、吉田　あや[1]、山口　直哉[1]、水野　晴夫[2]、伊藤　孝一[1]、荻　朋男[3]、
青山　幸平[1]
[1]名古屋市立大学大学院医学研究科新生児・小児医学分野、[2]藤田医科大学医学部小児科学、
[3]名古屋大学環境医学研究所発生遺伝分野

WP2-14-9　男性化徴候を来たし摂食障害を伴った多嚢胞性卵巣症候群（PCOS）の 1 例
水流添　泉[1]、藤井　績[1]、宮城　俊彦[2]
[1]荒尾市民病院、[2]熊本県北病院

web ポスター発表 15　ターナー症候群・45,X/46,XY など

Ⓛ⓪

11 月 2 日（水）18：00 ～ 19：00　Zoom ブレイクアウトルーム　（web ポスター発表 15 会場）

座長　西垣　五月（希望の森成長発達クリニック）
　　松岡　尚史（東京女子医科大学附属足立医療センター小児科）
　　和田　泰格（岩手医科大学医学部小児科）

WP2-15-1　画像上内性器の同定が困難なモザイク Turner 症候群
庄司　保子、峯　祐介、寺田　啓輝、田邉　聡美、青木　政子、鈴木　潤一、
森岡　一朗
日本大学医学部小児科学系小児科学分野

WP2-15-2　思春期早発の傾向がみられたモザイクターナー症候群の一例
兵頭　裕美[1,5]、石丸　雅矩[2,5]、冨田　雄一郎[3]、石黒　寛之[4]
[1] 秦野赤十字病院、[2] 伊勢原協同病院、[3] 京王八王子クリニック、[4] しのはら小児クリニック、
[5] 東海大学医学部総合診療学系小児科学

WP2-15-3　早発月経を呈したモザイク型ターナー症候群の２例
江田　陽一[1,2]、須田　峻平[1,2]、島田　正晴[1,2]、大津　義晃[1,2]、西村　秀子[1]、滝沢　琢己[2]
[1] 利根中央病院小児科、[2] 群馬大学大学院医学系研究科小児科学

WP2-15-4　自然妊娠したターナー症候群核型モザイクの一例
藤岡　晶子、宮城　元、今野　裕章、宇治田　凪紗、鹿島　健幹、五十嵐　瑞穂、
土井　響、吉井　啓介、内木　康博、堀川　玲子
国立成育医療研究センター内分泌代謝科

WP2-15-5　思春期を迎える 45,X/46,X,del（Y）（q11）モザイク男児の性腺フォローについて
川北　理恵、服部　真也、吉崎　加奈子、細川　悠紀、脇　研自
倉敷中央病院小児科

WP2-15-6　17 歳で大動脈縮窄症と診断された 46,XY/45,X ターナー症候群の女性
和田　泰格、伊藤　歩惟、赤坂　真奈美
岩手医科大学医学部小児科

WP2-15-7　精巣と卵精巣を持った 45,X[22]/46,X+mar[8].ish idic（Y）（q11.2）（SRY++, DYZ3++, DYZ1-）の社会的男性例
洪　聖媛、三星　アカリ、松本　真明、尾﨑　佳代
兵庫県立こども病院

WP2-15-8　ターナー症候群成人女性の視機能と視覚認知を含む脳・認知機能の検討
荒木　久美子[1]、稲田　勤[2]、西垣　五月[3]、望月　貴博[3]、荒木　まり子[4]、間部　裕代[5]
[1] 秋山成長クリニック、[2] 高知リハビリテーション専門職大学言語聴覚学専攻、
[3] 希望の森 成長発達クリニック、[4] 高知大学医学部小児思春期医学、[5] 間部病院小児科

WP2-15-9　就業困難なターナー症候群成人女性２例の視覚認知機能訓練による視機能と視覚認知を含む脳・認知機能の推移
荒木　久美子[1]、稲田　勤[2]、川井　正信[3]
[1] 秋山成長クリニック、[2] 高知リハビリテーション専門職大学言語聴覚学専攻、
[3] 大阪母子医療センター消化器・内分泌科

webポスター発表16　1型糖尿病

Ⓛ⓪

11月2日（水）18：00～19：10　Zoomブレイクアウトルーム　（webポスター発表16会場）

座長　綾部　匡之（ゆうすずこどもクリニック）
小林　浩司（山梨厚生病院小児科）
佐々木　悟郎（東京歯科大学市川総合病院小児科）

WP2-16-1　インスリン持続投与で高トリグリセリド血症が速やかに改善した1型糖尿病によるケトアシドーシスの女子例
植田　有紀子、麻生　敬子、佐藤　真理
東邦大学医療センター大森病院小児科

WP2-16-2　糖尿病ケトアシドーシスの治療後も持続する頻脈から甲状腺クリーゼ合併の診断に至った14歳の女児例
鈴木　大輝[1]、橘田　一輝[1]、浦田　芽久美[1]、峰尾　恵梨[1]、本田　崇[1]、安藤　寿[1]、伊藤　尚志[1]、平田　陽一郎[1]、大津　成之[2]、石倉　健司[1]
[1]北里大学医学部小児科学、[2]中野島糖尿病クリニック

WP2-16-3　学校検尿の精査で確認した緩徐進行1型糖尿病の1症例
岩瀬　孝志、井上　依里、日下　隆
香川大学医学部附属病院

WP2-16-4　多飲多尿を認めず胃腸炎との鑑別が困難であった劇症1型糖尿病の1例
大高　新、髙橋　郁子、高橋　勉
秋田大学大学院医学系研究科小児科学講座

WP2-16-5　DKA発症を契機に先天性中枢性甲状腺機能低下症およびQT延長症候群の合併が明らかとなった1型糖尿病の女児例
多村　公晃、竹内　博一、藤賀　由梨香、馬場　俊輔、木村　妙、宮田　市郎
東京慈恵会医科大学小児科学講座

WP2-16-6　中枢性性腺機能低下を呈している血糖コントロール不良な1型糖尿病女児例
上田　晃三
松山赤十字病院小児科

WP2-16-7　1型糖尿病にウォルフラム様障害が併存した若年発症糖尿病家系の遺伝学的分析
堀川　幸男[1,2]、窪田　紗希[1]、今井　理紗子[1]、細道　一善[3]、矢部　大介[1]
[1]岐阜大学大学院医学系研究科、[2]岐阜大学医学部附属病院ゲノム疾患・遺伝子診療センター、[3]東京薬科大学生命科学部生命医科学科

WP2-16-8　血糖コントロール不良によるGlycogenic hepatopathyを繰り返した軽度知的障害のある1型糖尿病の11歳男児例
笹岡　大記[1]、田中　ゆかり[2]、児島　加奈子[1]、古賀　信彦[1]、佐々木　聡子[1]、八ツ賀　秀一[1,2]
[1]福岡大学病院小児科、[2]飯塚病院

WP2-16-9　自閉スペクトラム症3歳児の1型糖尿病に対する自己管理指導の経験
佐々木　淳、中野　慎也、富田　一郎、天本　正乃
北九州市立八幡病院小児総合医療センター

WP2-16-10　COVID-19陽性による隔離入院にて糖尿病教育を行った1型糖尿病の2例
北尾　牧子、沼沢　慶太、志賀　健太郎
横浜市立大学附属市民総合医療センター小児総合医療センター

WP2-16-11　1型糖尿病におけるフローとパンフレットを用いた指導
太田　有紀、船木　貴子
株式会社日立製作所日立総合病院看護局

webポスター発表17　２型糖尿病・その他の糖尿病

Ⓛ⓪

11月2日（水）18：00～19：05　Zoomブレイクアウトルーム　（webポスター発表17会場）

座長　鈴木　潤一（日本大学病院）
蜂屋　瑠見（東京歯科大学市川総合病院小児科）
矢ヶ崎　英晃（山梨大学医学部小児科）

WP2-17-1　小児２型糖尿病を発症した低出生体重出生の一例
Ⓛのみ
市川　剛、有阪　治
宇都宮脳脊髄センターシンフォニー病院小児科

WP2-17-2　インスリン抵抗性を呈した２型糖尿病の重症心身障害者の１症例
今井　一秀
独立行政法人国立病院機構西別府病院

WP2-17-3　経過中のHbA1cの急激な上昇の要因としてBasedow病の発症が考えられた、２型糖尿病の１例
大久保　結子[1,2]、瀧浦　俊彦[2]、橋本　悟[2]、吉野　浩[2]、成田　雅美[2]
[1]佼成病院小児科、[2]杏林大学医学部小児科

WP2-17-4　糖尿病性ケトアシドーシスに重症急性膵炎を合併した２型糖尿病男児例
樋口　真司、岩田　康平、渡部　瑤、山田　勇気、森　潤
大阪市立総合医療センター小児代謝・内分泌内科

WP2-17-5　２型糖尿病による糖尿病性ケトアシドーシスに非閉塞性腸管膜虚血を発症したと思われる１男児例
石丸　雅矩[1,2]、兵頭　裕美[2,3]、冨田　雄一郎[4]、石黒　寛之[5]
[1]伊勢原協同病院、[2]東海大学医学部付属病院総合診療学系小児科学、[3]秦野赤十字病院、[4]京王八王子クリニック、[5]しのはら小児クリニック

WP2-17-6　抗GAD抗体強陽性かつ肥満と黒色表皮腫を認めた糖尿病の男児例
三浦　啓暢、藤原　幾磨
仙台市立病院小児科

WP2-17-7　膵体尾部欠損症による膵性糖尿病の１女児例
太田　武志[1]、森　潤[2]、小松　博史[1]、四方　泰史[3]
[1]国立病院機構舞鶴医療センター、[2]大阪市立総合医療センター、[3]あいおい橋四方クリニック

WP2-17-8　L-アスパラギナーゼ投与後に糖尿病を発症し、インスリン依存状態が持続している急性リンパ性白血病の１例
水谷　陽貴[1]、上原　健史[1]、滝崎　奈穂[1]、籏生　なおみ[1]、花川　純子[1]、室谷　浩二[1]、宮川　直将[2]、柳町　昌克[2]
[1]神奈川県立こども医療センター内分泌代謝科、[2]神奈川県立こども医療センター血液･腫瘍科

WP2-17-9　造血幹細胞移植後に糖尿病を来した原発性免疫不全症の２例
菱村　希[1]、金子　直哉[1]、中山　加奈子[1]、山口　健史[2]、森川　俊太郎[1]、長谷河　昌孝[1]、澤井　彩織[1]、寺下　友佳代[1]、杉山　未奈子[1]、平林　真介[1]、長　祐子[1]、真部　淳[1]、中村　明枝[1]
[1]北海道大学大学院医学研究院小児科学教室、[2]北海道大学環境健康科学研究教育センター

WP2-17-10　糖尿病を合併し血糖管理に難渋したピアソン病
明利　聡瑠[1]、西村　豊樹[2]、宇藤山　麻衣子[2]、麻田　智子[1]、松山　美静代[1]、盛武　浩[1]
[1]宮崎大学医学部発達泌尿生殖医学講座小児科学分野、[2]独立行政法人国立病院機構宮崎東病院

web ポスター発表 18　甲状腺：機能低下症

Ⓛ⓪

11 月 2 日（水）18：00 ～ 19：05　Zoom ブレイクアウトルーム　（web ポスター発表 18 会場）

座長　阿部　清美（東京都済生会中央病院小児科）
　　伊藤　順庸（金沢医科大学発生発達医学）
　　佐野　友昭（山梨赤十字病院）

WP2-18-1　異所性甲状腺の診断には SPECT/CT が有用である
上原　絵理香[1,2]、北村　正幸[3]、堀川　玲子[2]、内木　康博[2]、吉井　啓介[2]、鳴海　覚志[1]
[1] 国立成育医療研究センター分子内分泌研究部、[2] 国立成育医療研究センター内分泌代謝科、
[3] 国立成育医療研究センター放射線診療部

WP2-18-2　マススクリーニング検査契機に重症先天性甲状腺機能低下症と診断され新規バリアントを認めた NIS 異常症の 1 例
Ⓛのみ
林　美恵[1,2]、鳴海　覚志[3]、小田野　めぐみ[3]、石井　智弘[2]、長谷川　奉延[2]
[1] ライフエクステンション研究所付属永寿総合病院小児科、
[2] 慶應義塾大学医学部小児科学教室、[3] 国立成育医療研究センター研究所分子内分泌研究部

WP2-18-3　先天性甲状腺機能低下症に先天性難聴、発達遅滞を合併した DUOX2 異常症の男児例
堀江　潤[1]、小川　昌宏[1]、櫻井　直人[1]、佐々木　直哉[1]、杉野　典子[1]、盆野　元紀[1]、
田中　滋己[1]、井戸　正流[1]、松下　理恵[2]、中尾　佳奈子[3]、鳴海　覚志[3]
[1] 国立病院機構三重中央医療センター小児科 / 新生児科、
[2] 京都大学大学院医学研究科社会医学系専攻健康解析学講座薬剤疫学分野、
[3] 国立成育医療研究センター研究所分子内分泌研究部

WP2-18-4　甲状腺ホルモン不応症と DUOX2 異常症を合併した世界初の 1 女児例の臨床像
Ⓛのみ
波多野　恵[1,2]、中尾　佳奈子[3]、上原　絵理香[3]、谷本　英里[1]、鳴海　覚志[3]
[1] 聖路加国際病院小児科、[2] 東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科分子腫瘍医学、
[3] 国立成育医療研究センター研究所分子内分泌研究部

WP2-18-5　学童期に甲状腺腫大が出現した TPO 遺伝子異常症の疑われる男児例
上山　薫[1]、原田　大輔[1]、鈴木　敦詞[2]、青山　幸平[2]、柏木　博子[1]、清野　佳紀[1]、
山田　寛之[1]
[1] 地域医療機能推進機構（JCHO）大阪病院小児科、
[2] 名古屋市立大学大学院医学研究科新生児小児医学分野

WP2-18-6　学童期の甲状腺腫大を契機にサイログロブリン遺伝子異常と診断された 20 歳男性
麻生　敬子、植田　有紀子、佐藤　真理
東邦大学医療センター大森病院小児科

WP2-18-7　中枢性先天性甲状腺機能低下症におけるホルモン補充による成長率改善効果
合田　武司[1]、平山　圭[1]、木原　明生[1]、森　潤[2,3]
[1] 京都中部総合医療センター小児科、[2] 大阪市立総合医療センター小児代謝内分泌内科、
[3] 京都府立医科大学附属病院小児科

WP2-18-8　鞍上部胚細胞腫瘍に伴う中枢性甲状腺機能低下により二次性ＱＴ延長症候群をきたした一例
宇治田　凪紗、五十嵐　瑞穂、鹿島　健幹、今野　裕章、土井　響、藤岡　晶子、
宮城　元、吉井　啓介、内木　康博、堀川　玲子
国立成育医療研究センター内分泌・代謝科

WP2-18-9　過度な食事制限によるヨード欠乏のため甲状腺機能低下症をきたした一例
小幡　美智、井上　巳香
国立病院機構金沢医療センター

WP2-18-10　小児マクロ TSH 血症の２例
嶋　晃歩[1,2]、宗永　健志[3]、新井　美絵[1]、長谷川　奉延[2]、安藏　慎[1]
[1] 東京都立大塚病院、[2] 慶應義塾大学病院、[3] 多摩北部医療センター

Ⓛ⓪

11月2日（水）18：00～19：00　Zoomブレイクアウトルーム　（webポスター発表19会場）

座長　高木　優樹（糀谷こどもクリニック）
藤原　誠（大阪大学大学院医学系研究科小児科学）
堀　尚明（太田記念病院小児科）

WP2-19-1　A Randomized Controlled Trial of Vosoritide in Infants and Toddlers with Achondroplasia

Ravi Savarirayan[1], William W. Wilcox[2], Paul Harmatz[3], John Phillips, III[4], Lynda E. Polgreen[5], Louise Tofts[6], Keiichi Ozono[7], Paul Arundel[8], Melita Irving[9], Carlos A. Bacino[10], Donald Basel[11], Michael B. Bober[12], Joel Charrow[13], Hiroshi Mochizuki[14], Yumiko Kotani[15], Howard M. Saal[16], George Jeha[17], Lynn Han[17], Elena Fisheleva[18], Alice Huntsman-Labed[18], Jonathan Day[18]

[1]Murdoch Children's Research Institute, Royal Children's Hosp., and Univ. of Melbourne, Parkville, Victoria, Australia, [2]Emory Univ., Atlanta, Georgia, USA,
[3]UCSF Benioff Children's Hosp. Oakland, Oakland, California, USA,
[4]Vanderbilt Univ. Medical Center, Nashville, TN, USA,
[5]Lundquist Institute for Biomedical Innovation at Harbor-UCLA Medical Center, Torrance, California, USA,
[6]Kids Rehab, The Children's Hosp. at Westmead, Westmead, New South Wales, Australia,
[7]Osaka Univ. Hosp., Osaka, Japan,
[8]Sheffield Children's NHS Foundation Trust, Sheffield Children's Hosp., Sheffield, UK,
[9]Guy's and St. Thomas' NHS Foundation Trust, Evelina Children's Hosp., London, UK,
[10]Baylor College of Medicine, Houston, Texas, USA,
[11]Medical College of Wisconsin, Milwaukee, Wisconsin, USA,
[12]Nemours /Alfred I. du Pont Hosp. for Children, Wilmington, Delaware, USA,
[13]Ann and Robert H. Lurie Children's Hosp. of Chicago, Chicago, Illinois, USA,
[14]Saitama Children's Hosp., Saitama, Japan, [15]Tokushima Univ. Hosp., Tokushima, Japan
[16]Cincinnati Children's Hosp. Medical Center, Univ. of Cincinnati College of Medicine, Cincinnati, OH, USA
[17]BioMarin Pharmaceutical Inc., Novato, California, USA
[18]BioMarin (U.K.) Limited, London, UK

WP2-19-2　骨形成不全症３型の早産・極低出生体重児に生後10日より安全にパミドロン酸初回投与を行うことができた１例

中野　さつき[1]、佐藤　武志[1]、有光　威志[1]、石井　智弘[1]、西村　玄[2]、長谷川　奉延[1]
[1]慶應義塾大学医学部小児科学教室、[2]武蔵野陽和会病院放射線科

WP2-19-3　骨形成不全症Ⅴ型に対する重度側弯矯正術時のパミドロネート治療併用経験

髙橋　郁子[1]、小山　千嘉子[1]、大高　新[1]、三澤　晶子[2,3]、本郷　道生[2]、山田　茉未子[4]、小崎　健次郎[4]、宮腰　尚久[2]、高橋　勉[1]
[1]秋田大学大学院医学系研究科小児科学講座、[2]秋田大学大学院医学研究科整形外科学講座、
[3]秋田県立医療療育センター、[4]慶應義塾大学医学部臨床遺伝学センター

WP2-19-4　SERPINF1遺伝子変異による骨形成不全症の本邦初発例

高木　優樹[1,2]、重冨　浩子[3]、田中　藤樹[3]、長尾　雅悦[3]、鳴海　覚志[4]、西村　玄[5]、長谷川　奉延[2]
[1]糀谷こどもクリニック、[2]慶應義塾大学医学部小児科学教室、
[3]国立病院機構北海道医療センター小児科、[4]成育医療研究センター分子内分泌研究部、
[5]武蔵野陽和会病院

WP2-19-5　乳児期からの進行性骨変形と頻回骨折を呈した骨形成不全症 VI 型症例に対する手術を含む治療経過

滝崎　奈穂[1]、土岐　真智子[2]、水谷　陽貴[1]、上原　健史[1]、簾生　なおみ[1]、花川　純子[1]、中村　直行[4]、西村　玄[3]、室谷　浩二[1]
[1]神奈川県立こども医療センター内分泌代謝科、[2]静岡赤十字病院、[3]武蔵野陽和会病院、[4]神奈川県立こども医療センター整形外科

WP2-19-6　骨形成不全症の新規モデルマウス

武鑓　真司、大幡　泰久、藤原　誠、北岡　太一、窪田　拓生、大薗　恵一
大阪大学大学院医学系研究科小児科学

WP2-19-7　早期のビスホスホネート治療により救命し得た乳児全身動脈石灰化症の 1 例

澤野　堅太郎、田中　雅人、廣嶋　省太、柴田　奈央、入月　浩美、小川　洋平、小林　玲、長崎　啓祐
新潟大学医歯学総合病院小児科

WP2-19-8　*COL2A1* に病的バリアントを同定した Brachyolmia の骨 X 線所見を呈する躯幹短縮症の一例

天野　直子[1]、市橋　洋輔[2]、佐藤　清二[1]、西村　玄[3]、石井　智弘[2]、長谷川　奉延[2]
[1]さいたま市立病院小児科、[2]慶應義塾大学医学部小児科、[3]武蔵野陽和会病院放射線科

WP2-19-9　骨系統疾患の診断精度～人工知能とデータベースによる診断補助ツールを用いて～

原田　大輔、上山　薫、折山　恭子、柏木　博子、山田　寛之、清野　佳紀
地域医療機能推進機構（JCHO）大阪病院小児科

web ポスター発表 20　新生児・CCS / 甲状腺炎

Ⓛ Ⓞ

11 月 2 日（水）18：00 ～ 19：10　Zoom ブレイクアウトルーム　（web ポスター発表 20 会場）

座長　石黒　寛之（しのはら小児クリニック）
北中　幸子（きたなかこども成長クリニック）
齋　秀二（手稲渓仁会病院小児科）

WP2-20-1　硫酸マグネシウムの長期投与母体から出生後，低カルシウム血症・高マグネシウム血症を来した正期産児の 1 例

家村　綾正[1]、山野　春樹[1]、大槻　彩子[2]、伊藤　一之[1]、菊池　絵梨子[2]、高澤　啓[1]、森丘　千夏子[1]、鹿島田　健一[1]、森尾　友宏[1]
[1]東京医科歯科大学病院小児科、[2]練馬光が丘病院小児科

WP2-20-2　早産 Small-for-gestational age（SGA）男児の血清テストステロン値の推移：品胎での比較

田邉　聡美、長野　伸彦、寺田　啓輝、青木　政子、峯　佑介、鈴木　潤一、庄司　保子、森岡　一朗
日本大学医学部小児科学系小児科学分野

WP2-20-3　PAPP-A2 は臍帯血中の IGFBP-3 の主要調節因子である

妹尾　慎太郎[1]、藤本　正伸[1]、藤井　宏美[1]、山口　由起子[1]、花木　啓一[2]、難波　範行[1]
[1]鳥取大学医学部周産期・小児医学分野、[2]鳥取大学医学部保健学科母性・小児家族看護学

WP2-20-4　肥満改善後に 2 型糖尿病を発症した急性リンパ芽球性白血病後の一例

中山　加奈子[1]、金子　直哉[1]、菱村　希[1]、山口　健史[1,2]、森川　俊太郎[1]、長谷河　昌孝[1]、澤井　彩織[1]、寺下　友佳代[1]、杉山　未奈子[1]、平林　真介[1]、長　祐子[1]、真部　淳[1]、中村　明枝[1]
[1]北海道大学大学院医学研究院小児科学教室、[2]北海道大学環境健康科学研究教育センター

WP2-20-5　神経芽細胞腫治療後に肝細胞腺腫、高度インスリン抵抗性を伴う脂肪肝を呈した 1 例

望月　美恵[1,2]、蓮田　憲夫[3]、渡邊　大輔[2]、矢ヶ崎　英晃[2]、太田　正法[2]、鈴木　裕一朗[4]、犬飼　岳史[2]
[1]国立病院機構甲府病院小児科、[2]山梨大学小児科、[3]山梨大学第二外科、[4]山梨大学消化器内科

WP2-20-6　小児・AYA 世代がん患者の晩期合併症予防をめざした食生活の現状調査

三善　陽子[1,2]、橘　真紀子[2]、長井　直子[3]、岡本　尚子[4]、赤尾　正[5]、黒谷　佳代[6]、
前田　美穂[7]、清水　千佳子[8]
[1]大阪樟蔭女子大学健康栄養学部健康栄養学科臨床栄養発育学研究室、
[2]大阪大学大学院医学系研究科小児科学、[3]大阪大学医学部附属病院栄養マネジメント部、
[4]大阪樟蔭女子大学健康栄養学部健康栄養学科栄養疫学研究室、
[5]大阪樟蔭女子大学健康栄養学部健康栄養学科給食経営管理学第一研究室、
[6]昭和女子大学食健康科学部 健康デザイン学科、[7]日本医科大学付属病院小児科、
[8]国立国際医療研究センター乳腺・腫瘍内科

WP2-20-7　早発乳房腫大が初発症状であった慢性甲状腺炎の２例

藤原　幾磨[1]、島　彦仁[1,2]、三浦　啓暢[1]、菅野　潤子[2]
[1]仙台市立病院小児科、[2]東北大学病院小児科

WP2-20-8　多様な表現型を呈した幼児期発症慢性甲状腺炎の３例

柴垣　有希[1,2]、鈴木　滋[1,2,3]、棚橋　祐典[3,4]、中村　英記[3]、平野　至規[3]、田中　聰[2]、
高瀬　雅史[2]
[1]旭川医科大学小児科学講座、[2]JA 北海道厚生連遠軽厚生病院小児科、[3]名寄市立総合病院、
[4]市立稚内病院

WP2-20-9　皮膚症状が先行した自己免疫性甲状腺疾患の２女児例

波多野　智紀、奥村　遼、及川　純子、田村　卓也、齋　秀二
手稲渓仁会病院小児科

WP2-20-10　橋本病、萎縮性甲状腺炎における LT4 投与前後の成長率、肥満度の変化

江渕　有紀、藤原　進太郎、樋口　洋介、古城　真秀子、久保　俊英
独立行政法人国立病院機構岡山医療センター

WP2-20-11　甲状腺機能の改善とともに不定愁訴が軽快した無痛性甲状腺炎の女児例

島崎　俊介、佐藤　純一
船橋市立医療センター小児科

web ポスター発表 21　水電解質

Ⓛ⓪

11 月 2 日（水）18：00 ～ 19：25　Zoom ブレイクアウトルーム　（web ポスター発表 21 会場）

座長　宇都宮　朱里（広島大学大学院医系科学研究科）
小山　さとみ（獨協医科大学小児科学）
母坪　智行（さっぽろ小児内分泌クリニック）

WP2-21-1　中枢性尿崩症で発症した下垂体茎部単独病変のランゲルハンス細胞組織球症の２歳女児例

谷　瑞生[1]、廣嶋　省太[1]、佐藤　英利[2]、澤野　堅太郎[1]、小川　洋平[1]、長崎　啓祐[1]
[1]新潟大学医歯学総合病院、[2]みらいクリニック南笹口小児科

WP2-21-2　抗ラブフィリン 3A 抗体陽性であった中枢性尿崩症の８歳男児

庄司　夕季乃、成瀬　裕紀、森　雅人、平本　龍吾
松戸市立総合医療センター小児科

WP2-21-3　コントロール不良の高ナトリウム血症とともに緩徐に腎機能が低下してきている中枢性尿崩症の１例
Ⓛのみ

熊谷　直憲、高尾　洋輝、小島　有紗、近藤　朋実、松本　裕嗣、池住　洋平、
水野　晴夫
藤田医科大学医学部小児科学

WP2-21-4　中枢性尿崩症を合併した小児脳腫瘍患者における水電解質管理
―夜間 DDAVP 持続静注併用プロトコル―

服部　真也、細川　悠紀、吉崎　加奈子、川北　理恵、濱端　隆行、納富　誠司郎、
脇　研自
倉敷中央病院小児科

WP2-21-5　鞍上部のラトケ嚢胞に合併した仮面尿崩症の９歳男児の１例

三森　愛美[1]、西村　拓朗[2]、滝口　真未[2]、新井　喜康[1]、中村　明雄[1]、稲毛　英介[1]、
鈴木　まりお[3]、神保　圭佑[1]、遠藤　周[1]、安部　信平[1]、鈴木　光幸[1]、春名　英典[1]、
田久保　憲行[1]、近藤　聡英[3]、清水　俊明[2]
[1]順天堂大学医学部小児科学講座、[2]順天堂大学医学部医学研究科小児思春期発達病態学、
[3]順天堂大学脳神経外科学講座

WP2-21-6　著明な高 PRL 血症、成長ホルモン分泌不全を認めた本態性高 Na 血症の男児例

瀬越　尚人[1]、山口　健史[2,3]、宇都宮　朱里[4,5]、植竹　公明[1]、中山　加奈子[3]、菱村　希[3]、
金子　直哉[3]、森川　俊太郎[3]、中村　明枝[3]
[1]帯広厚生病院小児科、[2]北海道大学環境健康科学研究教育センター、
[3]北海道大学大学院医学研究院小児科学教室、[4]県立広島病院小児科、
[5]広島大学大学院医系科学研究科

WP2-21-7　浸透圧性バゾプレッシン分泌障害により慢性的な低ナトリウム血症を呈した１例

石見　壮史、武鑓　真司、中山　尋文、藤原　誠、大幡　泰久、北岡　太一、
窪田　拓生、大薗　恵一
大阪大学大学院医学系研究科小児科学

WP2-21-8　頭部 MRI T1 強調画像で下垂体後葉の高信号が消失していた腎性尿崩症の１例

木島　俊英[1,2,3]、水野　裕介[1,2]、石井　智弘[2]、長谷川　奉延[2]
[1]済生会宇都宮病院小児科、[2]慶應義塾大学医学部小児科学教室、
[3]独立行政法人国立病院機構東京医療センター

WP2-21-9　新生児マススクリーニング検査で 17OHP 高値を認め、偽性低アルドステロン症１型の診断に至った新生児の１例

峯　佑介、寺田　啓輝、田邉　聡美、青木　政子、鈴木　潤一、庄司　保子、
浦上　達彦、森岡　一朗
日本大学医学部小児科学系小児科学分野

WP2-21-10　著明な低 Na、高 K 血症で発症した、続発性偽性低アルドステロン血症型の５か月男児例

肥田　浩佳[1]、出澤　洋人[1,2]、泉　維昌[1]
[1]茨城県立こども病院小児総合診療科、[2]水戸協同病院内分泌代謝・糖尿病内科

WP2-21-11　偽性低アルドステロン症 II 型（PHAII）の１例

田島　敏広[1]、青柳　隼人[2]、中村　幸恵[1]
[1]自治医科大学小児科、[2]帯広協会病院

WP2-21-12　低カリウム血症と濃厚な高血圧の家族歴から Liddle 症候群の診断に至った親子例

徳永　美菜子[1]、関　祐子[1]、堀口　達史[1]、三浦　希和子[1]、柿本　令奈[1]、森田　智[1]、
溝田　美智代[1]、森　崇寧[2]、蘇原　映誠[2]、内田　信一[2]
[1]鹿児島大学病院小児科、[2]東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科腎臓内科学

WP2-21-13「特発性」偽性 Bartter 症候群の乳児例

豊田　純也[1]、安達　昌彦[1]、永原　敬子[1]、越智　彩子[1]、茂木　桜[1]、岡田　祐樹[1]、
本多　愛子[1]、渡邊　優[1]、大川　恵[1]、高木　俊敬[1]、加藤　憲一[1]、野津　寛大[2]、近藤　淳[2]、
水野　克己[1]
[1]昭和大学医学部小児科学講座、[2]神戸大学大学院医学研究科内科系講座小児科

オンデマンド配信のみのセッション

Meet the Expert 1　※日本内分泌学会指定講演

ME1　**セグメントに分けて考える複合型下垂体機能低下症の診断と治療**　◎
有安　大典
川崎市立川崎病院小児科

Meet the Expert 2　※日本内分泌学会指定講演

ME2　**女児の中枢性思春期早発症：本当に全例治療するのですか？**　◎
水野　晴夫
藤田医科大学医学部小児科学

Meet the Expert 3　※日本内分泌学会指定講演

ME3　**DSD のチーム医療と移行期医療：ベクトルを統一しよう**　◎
石井　智弘
慶應義塾大学医学部小児科

Meet the Expert 4　※日本内分泌学会指定講演

ME4　**先天性甲状腺機能低下症の遺伝学卍**　◎
鳴海　覚志
国立成育医療研究センター研究所分子内分泌研究部

Meet the Expert 5　※日本内分泌学会指定講演

ME5　**きゅんです 偽性副甲状腺機能低下症**　◎
高谷　里依子
千葉大学予防医学センター

Meet the Expert 6　※日本内分泌学会指定講演

ME6　**ドロップアウトさせない小児肥満診療のコツ**　◎
菊池　透
埼玉医科大学病院小児科

Meet the Expert 7　※日本内分泌学会指定講演

ME7　**低ナトリウム血症の診断と治療：病態を考えて対応しよう**　◎
伊藤　純子
虎の門病院小児科

Meet the Expert 8　※日本内分泌学会指定講演

ME8　**微量元素足りていますか？　経腸栄養か中心静脈栄養のときだけ気を付ければいいというものじゃない。**　◎
川井　正信
大阪母子医療センター研究所骨発育疾患研究部門 / 消化器・内分泌科